



ワシントン DC 環境、社会、および ガバナンス管理

最終更新日: 2025年12月17日

自動翻訳

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておりません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

自動翻訳

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

目次

環境、社会、ガバナンス管理.....	5
ESG Management の探索.....	7
の要素 ESG Management.....	9
重要なトピックのワークフローとステータス.....	10
ESG Management のユースケース.....	11
ESG ワークスペース.....	13
[自分のタスク] ページビュー.....	17
ESG ワークスペース ユーザー.....	18
持続可能な IT の管理.....	19
ESG Content Accelerator.....	23
ESG Management の構成.....	24
ESG Management の実装.....	24
重要なトピックの作成.....	29
ESG 目標の作成.....	31
ESG ターゲットの作成.....	37
排出アクティビティの作成.....	40
排出係数の作成.....	40
新規スケジュールを作成します.....	42
関連リストのグループを作成する.....	43
持続可能な IT の構成.....	45
を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、信頼できるソースコンテンツをインストール ESG Content Accelerator.....	49
ESG の信頼できるソースコンテンツをフィルター.....	49
ESG Management でのエンティティの管理.....	50
GRC: Metrics.....	59
GRC: Metrics の探索.....	60
GRC: Metrics の構成.....	68
GRC: Metrics を使用したデータ提供.....	97
GRC: Metrics の参照.....	106
ESG Management の使用.....	111
ESG Management における開示.....	111
レポートフレームワーク.....	119
他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携.....	123
Advanced Risk アセスメントとの統合ESG Management.....	126
ESG Management と Watershed の統合.....	129
ESG Management と Urjanet の統合.....	134
ESG Management と Workday の統合.....	141
レポートとServiceNowの統合Microsoft 365.....	147
との統合ESG ManagementSAP Concur.....	156
ESG 再生金融 との統合.....	161

[store-future: BEGIN review]
[End]

ESG ワークスペース の概要ページ.....	174
ESG ワークスペース の目標の概要.....	174
ESG ワークスペース での開示の概要.....	176
ESG Management の参照.....	177
ESG Management とともにインストールされるコンポーネント.....	177
と一緒にインストールされるロール ゴールフレームワーク.....	184
ドメイン分離と ESG Management.....	185
ESG Management アプリケーションのチェックリスト.....	188

環境、社会、ガバナンス管理

ServiceNow 環境、社会、ガバナンス管理 アプリケーションは、環境、社会、およびガバナンス (ESG) のすべてのコミットメントの一元管理に役立ちます。ESG Management アプリケーションでは、ESG イニシアチブでの進捗状況を簡単にレポートすることもできます。

ESG Management の概要

ESG Management アプリケーションの使用。

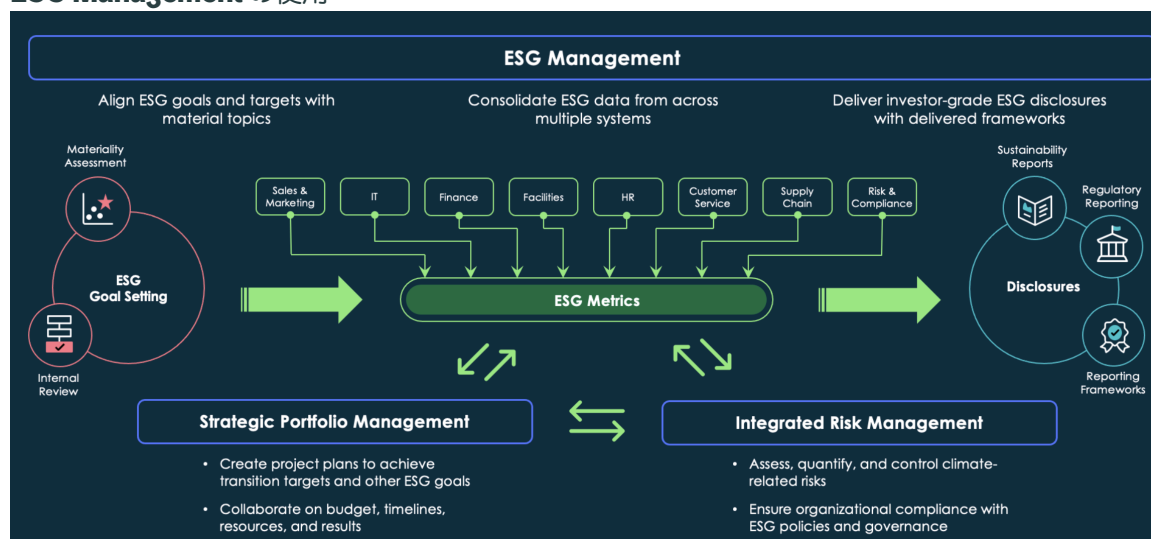
ESG とは、社会的責任のある投資家に関心を持つ 3 本の柱である、環境、社会、およびコーポレートガバナンスを指します。社会的責任のある投資家は、単に利益を考慮するのではなく、自身の価値観を投資に取り入れることが重要であると考えています。ESG フレームワークでは、投資の意思決定プロセスにおいて、持続可能性や等価性などの要因の影響が考慮されます。

ほとんどの組織は、ESG コミットメントをビジネス戦略に統合する方法をレポートする必要があります。ESG イニシアチブの完全なリストは定義されていません。ESG コミットメントの一部の例は次のとおりです。

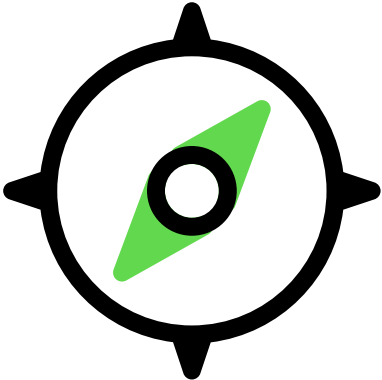
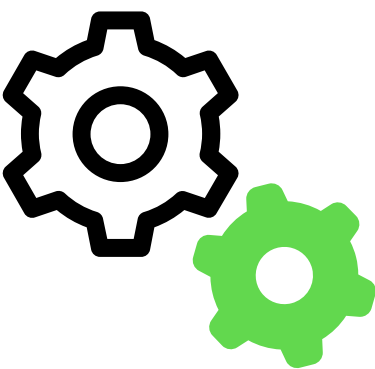
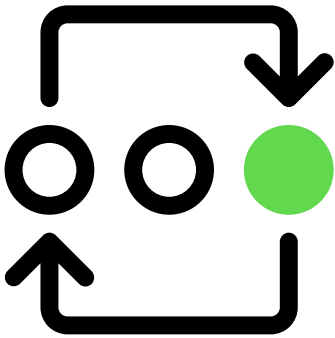
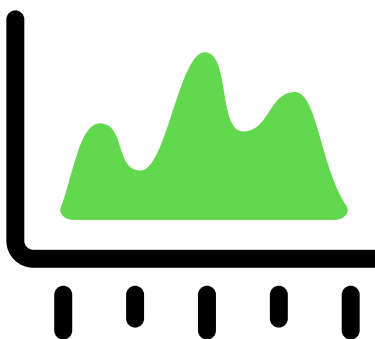
- 責任ある調達
- 職場における多様性、多様性受け入れ、相互信頼
- 電子廃棄物の削減
- カーボンフットプリントの削減

次の画像は、さまざまな部門が ESG レポートでどのように連携するかを示しています。

ESG Management の使用



開始するには

詳細を読む  ESG プログラムマネージャーが ESG Management、環境、社会、ガバナンスに関する懸念に対処するためにアプリケーションをどのように使用するかについて説明します。	構成  アプリケーションを構成します ESG Management。	統合  アプリケーションを ESG Management、や Integrated Risk Management Watershed などのプロジェクトポートフォリオ管理他のアプリケーションと統合します。
使用  信頼できる ESG Management ソースコンテンツのインポート、開示の作成、開示の更新などのタスクにアプリケーションを使用します。	概要ページ  さまざまなレポートの ESG Management ワークスペースの概要ページを表示します。	参照  で ESG Management インストールされるフィールド、テーブル、ロール、プロパティなどのコンポーネントの詳細を取得します。

自動翻訳

ESG Management の実装

アプリケーションのセットアップチェックリスト [ESG Management を使用](#) を使用すると、ESG Management アプリケーションをすばやく実装できます。

学習内容

Environmental, Social, and Governance (ESG) とは 

ESG Management の探索

ServiceNow ESG Management アプリケーションは、環境、社会、ガバナンス (ESG) のイニシアチブの管理に役立ちます。

ESG Management の概要

ほとんどの組織は ESG イニシアチブに取り組んでいますが、すべての ESG プログラムを管理するための中心的なツールを持たない組織もあります。ツールがなければ、ESG の取り組みに対する可視性を得られず、進捗状況を追跡できません。ESG Management アプリケーションは、この問題の解決に役立ちます。このアプリケーションを使用すると、企業は ESG プログラムを管理して、ESG の目標と進捗状況を伝達できます。

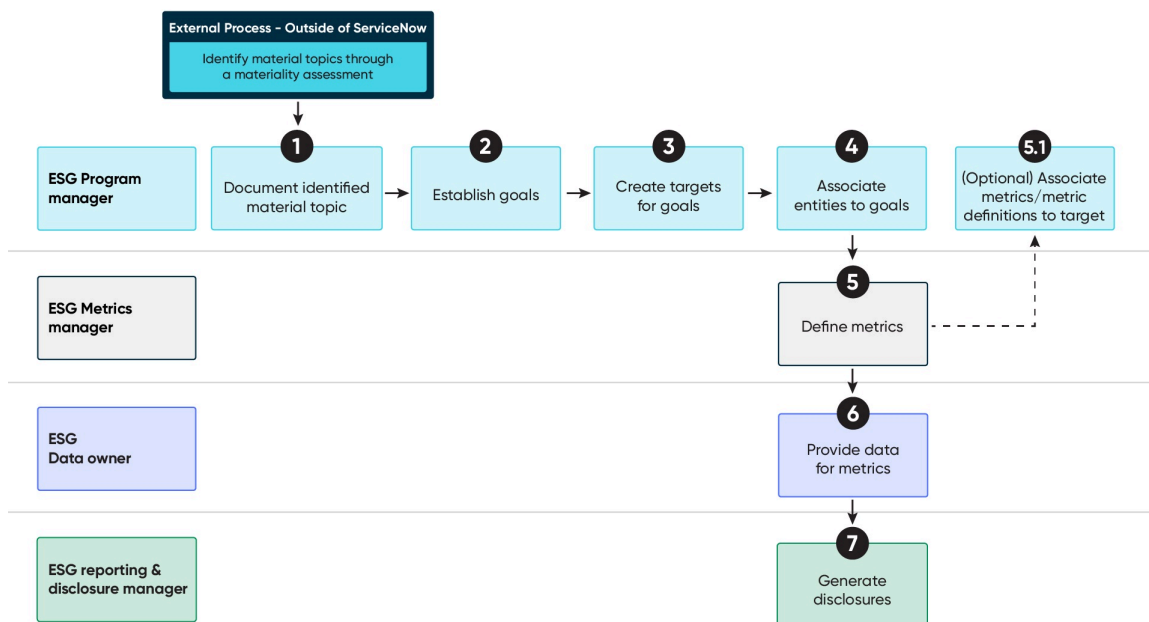
ESG Management アプリケーションを使用した ESG レポートのビジネス上のメリットは次のとおりです。

- ブランドの評判を高めます。
- 競争上の優位性が得られます。
- 投資家を引き付け、より多くの資本を得ることができます。
- 規制要件への準拠が可能になります。
- 倫理的で透明性の高い安全なビジネスプラクティスを通じて、強力なコーポレートガバナンスを確立します。
- 企業の評判が向上します。
- 顧客からの信頼性が向上します。
- リスクと機会に関する透明性を促進します。

ESG Management のワークフロー

次の図は、ユーザーロールごとのワークフロー ESG Management を示しています。

アプリケーションの設定と使用 ESG Management のワークフロー



ドキュメントに関する重要なトピック

炭素排出量の管理など、追跡する重要なトピックを決定します。詳細については、「[重要なトピックを作成して](#) 開始し、確認 [重要なトピックのワークフローとステータス](#)する」を参照してください。

目標の設定

目標は達成したい成果であり、ターゲットは目標の達成に役立つ具体的で測定可能なマイルストーンです。[ESG 目標の作成 (Create an ESG goal)] ページでは、目標の入力方法が説明され、目標の進捗状況の計算方法などの役立つ情報へのリンクが含まれています。詳細については、「[ESG 目標の作成](#)」を参照してください。

ターゲットの作成

ターゲットは、目標に対してどれだけうまくいっているかを示します。このページには [ESG ターゲットの作成](#)、その方法が示されています。

エンティティを目標に関連付ける

目標とサブ目標について追跡する必要があるエンティティに関連付けます。この関連付けは追跡目的で作成されます。目標に関連付けられたエンティティは、目標を追跡する責任を負います。詳細は、「[エンティティを目標に関連付ける](#)」を参照してください。

測定基準の定義

パフォーマンスを測定し、組織が目標とターゲットに向かってどのように進んでいるかを測定するための測定基準の定義と測定基準を作成します。測定基準とは何か、および測定基準がどのように役立つ ESG Management について深く理解するには、「[GRC: Metrics の探索](#)」を参照してください。

ターゲットへの測定基準の追加

必要に応じて、ターゲットを作成した後、ターゲットのソースを追加できます。ソースは、ターゲットに貢献する測定基準または測定基準の定義にすることができます。詳細は、「[ターゲットのソースの追加](#)」を参照してください。

手動測定基準のデータを提供するか、自動測定基準のデータを自動的に収集します

手動または自動で測定基準のデータを収集します。手動測定基準のデータは手動で入力する必要があり、自動測定基準のスケジュールされた時刻に自動的に収集されます。詳細は、「[測定基準データタスクのデータ入力](#)」を参照してください。

開示を生成

開示はレビューのために ESG プログラムマネージャーに送信されます。承認後、レポートを容易にするためにスプレッドシートにダウンロードできます。を使用して Microsoft 365 for ServiceNow Reporting、ドキュメント内に Microsoft Word 開示を作成できます。詳細については、「はじめに」を参照 [レポートとServiceNowの統合Microsoft 365](#) して確認 [ESG Management](#) における開示 してください。

ESG Management のメリット

メリット	機能	ユーザー
ホームページのインタラクティブダッシュボードから ESG アクティビティを管理します。	ESG ワークスペース	ESGプログラムマネージャー、ディスクロージャーマネージャー。
[自分のタスク] ビューの単一のダッシュボードから、個人とチームのタスクを監視します。	[自分のタスク] ページビュー	ESG プログラムマネージャー
ESG イニシアチブを決定するための重要なトピックを作成する	重要なトピックの作成	ESG プログラムマネージャー
ESG 目標を設定して、選択した重要なトピックに向けた進捗状況を追跡します。	ESG 目標の作成	ESG プログラムマネージャー
ESG ターゲットを作成して、ESG 目標に向けた進捗状況を追跡します。	ESG ターゲットの作成	ESG プログラムマネージャー
目標とターゲットを追跡し、データを収集し、データを報告するために使用します GRC: Metrics 。	GRC: Metrics の探索	測定基準マネージャー
組織の開示を作成します。開示により、投資家は、企業、リスク体制、持続可能性基準、および ESG コンプライアンスについて、情報に基づいた意思決定を行うことができます。	リモート・ストレージに関するナラティブ・ディスクロージャーの作成	レポーティング・ディスクロージャー・マネージャー、ESGプログラム・マネージャー

の要素 ESG Management

環境、社会、ガバナンス (ESG) イニシアチブを開始する前に、アプリケーションを構成する ESG Management 重要なトピック、測定基準、開示などの主要な要素について理解してください。

ESG プログラムの主要コンポーネントは次のとおりです。

- 重要なトピック：取り組むテーマ。
- 目標：トピックに基づいて達成する目標。
- ターゲット：目標の進捗状況を追跡および測定するために設定されたターゲット。
- 排出アクティビティと係数： 排出につながるアクティビティ。
- 開示:選択した重要なトピックに関する会社の進捗状況を示すために生成されたレポート。

重要なトピック

重要なトピックとは、組織が経済、環境、および人に与える最も大きい影響を表すトピックです。企業は、重要性アセスメントを実行することによって、これらの重要なトピックを特定します。これらのトピックは、人権への影響など、組織が社会、環境、および人々に及ぼす最も重大な影響を反映しています。重要なトピックの例としては、電子廃棄物の管理、寄付、ボランティアなどがあります。重要なトピックの状態については、「[重要なトピックのワークフローとステータス](#)」を参照してください。

目標

目標とは、選択した重要なトピックに影響を与えるために組織が自ら設定する目的のことです。目標を重要なトピックにリンクさせることができます。目標の例を次に示します。

- 2035 年末までに再生可能エネルギーを使用する。
- 職場の多様性を 50% 向上させる。

目標にサブ目標を設定することもできます。さまざまなエンティティを目標に関連付けて、目標達成の責任者を追跡することもできます。

ESG Management を他の 製品と統合すると、次も可能になります。

- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合すると、目標を達成するために行われている作業をキャプチャするプログラムおよびプロジェクトを追加できます。
- Integrated Risk Management と統合すると、リスク、リスクステートメント、ポリシー、コントロール目標、および問題を目標に追加して、ガバナンスフレームワークを構築できます。

統合の詳細については、「[他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携](#)」を参照してください。

ターゲット

ターゲットは、目標を測定するのに役立ちます。たとえば、職場の多様性を 50% 増やすという目標を達成するために、2035 年の第 1 四半期までに多様な人材を 30% 雇用することをターゲットにできます。

開示

ESG 開示は、さまざまな ESG 問題におけるパフォーマンスに関する組織による公開レポートの形式です。

排出アクティビティと係数

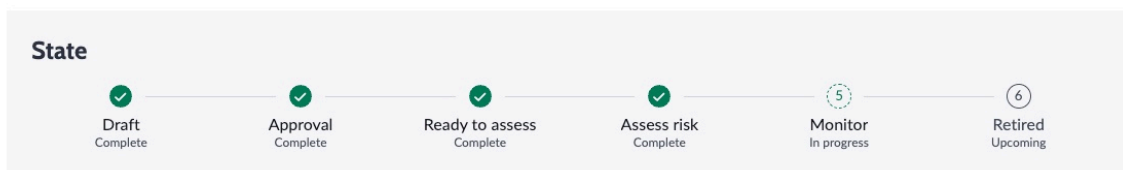
排出アクティビティとは、温室効果ガス (GHG) など汚染物質の排出に関連するあらゆるアクティビティを指します。

大気中への GHG の排出は、主にこのアクティビティとガスを排出する製品によるものです。利用可能なアクティビティの単位あたりの GHG 排出量を見積もるには、排出係数と呼ばれる係数を使用する必要があります。排出係数とは、アクティビティデータを GHG 排出量に変換するための係数です。これは、アクティビティまたはプロセスの単位に関連する、指定されたソースの平均排出率です。ESG プログラムマネージャーは、排出アクティビティと係数のライブラリを設定する必要があります。

重要なトピックのワークフローとステータス

マテリアリティは、ESG への取り組みの原点です。重要なトピックが特定された場合にのみ、それを追跡し、成功を測定できます。

次の画像は、重要なトピックのステータスを示しています。



重要なトピックのステータスは次のように定義されます。

1. **ドラフト:**すべての重要なトピックは、このステータスで開始されます。このステータスでは、次のフィールドを更新できます。
 - 名前
 - 分類
 - ビジネスの成功にとって重要
 - 利害関係者にとっての重要性
 - 優先度
 - 承認者
2. **承認:**このステータスでは、ESG プログラムマネージャーが重要なトピックのレビューを実施し、重要性アセスメントの結果に合わせてすべてのフィールドが正確に更新されていることを確認します。レビューが完了すると、ステータスは [監視] ステータスに変更されます。たとえば、特定された重要なトピックが炭素排出量である場合、レビュー担当者は次のような側面についてレビューする可能性があります。
 - 重要なトピックが重要性アセスメントに準拠しているかどうか。
 - 重要なトピックの説明が正確かどうか。
3. **評価の準備完了:**このステータスは、プラグインがインストールされ、アクティブ化されている場合にのみ ESG リスク管理 アクセスできます。このステータスでは、重要なトピックがリスクアセスメントのために送信されます。
4. **リスク評価:**このステータスは、プラグインがインストールされ、アクティブ化されている場合にのみ ESG リスク管理 アクセスできます。このステータスでは、重要なトピックリスクが ESG プログラムマネージャーによって評価されます。
5. **監視:**監視の観点から重要なトピックを監督するように設計されたこのステータス。重要なトピック属性のいずれかに変更が加えられるまで、現在のステータスのままです。更新が必要な場合は、重要なトピックを [ドラフト] ステータスに戻す必要があります。これは、後続のマテリアリティ評価の後に発生する場合があります、次の属性に変化が生じる可能性があります。
 - 優先度
 - ビジネス成功の秘訣
 - ステークホルダーにとっての重要性

重要なトピックが [ドラフト] ステータスに戻っても、目標とターゲットにダウンストリームの影響はありません。ホームページの [重要性マトリクスESG ワークスペース] には、[監視] ステータスの重要なトピックのみが表示されます。重要なトピックが 監視 ステータスの場合でも、リスクアセスメントを再開できます。
6. **廃止:**このステータスは、重要なトピックが組織に関連する問題として追跡されなくなった場合に、重要なトピックを廃止するために使用されます。

ESG Management のユースケース

ESG のユースケースは、ESG プログラムの設定、測定基準の定義、測定基準のデータ収集、規制フレームワークへの準拠、開示の生成などの複数のプロセスで構成されています。

プログラムのセットアップESG Management

ESG 管理者および ESG プログラムマネージャーは、ESG プログラムの設定から始める必要があります。セットアップには次の手順が必要です。

- **重要性の評価:**重要性を評価することで、最も重要な重要なトピックと、ステークホルダーと組織に対するそれぞれの影響領域を識別できます。まず、利害関係者にとって最も重要で、最も大きな影響力を持つ重要なトピックを特定します。トピックの識別は外部で行われ、アプリケーションに ESG Management 文書化されます。
- **目標とターゲットの定義:**ESG プログラムマネージャーは、重要なトピックの目標とターゲットを作成することを選択できます。

目標とターゲットは、ESG イニシアチブの成功を推進し、測定する上で重要な役割を果たします。ここでは、簡単に説明します。

1. **目標:**ESGイニシアチブの目標は、サステナビリティへの取り組みの全体的な目的と方向性を定義する、広範で長期的な願望です。多くの場合、会社のミッション、価値観、および利害関係者の期待と一致しています。ESG 目標の例としては、温室効果ガス排出量の削減、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、コーポレートガバナンスの改善などがあります。
 2. **ターゲット:**ターゲットは、より広範な ESG 目標を達成するために設定された、具体的で測定可能な期限付きの目標です。明確さと焦点が明確になり、組織が進捗状況を追跡し、説明責任を実証できるようになります。環境への影響、社会課題、ガバナンスの実践など、ESG のさまざまな側面に対して目標を設定できます。ターゲットを設定するときは、ターゲットがデータを取得するソースも指定する必要があります。
- **環境目標:**これらは、企業の環境フットプリントの削減と持続可能な慣行の促進に関連しています。これには、炭素排出量の削減、水とエネルギーの節約、廃棄物管理、再生可能エネルギー源の採用に関する目標を含めることができます。
 - **社会目標:**社会課題に取り組み、地域社会や従業員にプラスの影響を与えることに重点を置いています。社会的目標の例としては、労働力の多様性の向上、公正な労働慣行の確保、従業員の福利厚生と安全の促進、コミュニティ開発イニシアチブの支援などがあります。
 - **ガバナンス ターゲット:**これらのターゲットは、堅牢なガバナンス フレームワークと倫理的なビジネス慣行の実装を強調しています。これには、透明性と説明責任の強化、取締役会の独立性の強化、責任ある役員報酬の促進、法的および規制要件の遵守の確保が含まれる場合があります。
- **エンティティのスコーピング:**各目標は、進捗状況を追跡する必要があるエンティティに関連付けられています。

測定基準の定義

ESG 測定基準管理者は、包括的なデータ収集プロセスを確立して、すべての業務にわたって関連する ESG データを収集します。データは、測定基準の定義を使用して収集できます。測定基準の定義には、**手動**、**計算**、**自動**の 3 つのタイプがあります。炭素排出量、エネルギー消費、廃棄物管理、従業員の多様性、職場の安全性、サプライチェーンの持続可能性、コーポレートガバナンスなど、業界のベストプラクティスに沿った主要な ESG 指標を特定します。適切な追跡システムを実装し、手動測定基準のデータプロバイダーなどの関連するステークホルダーを関与させることで、データの正確性を確保します。

測定レポート

重要なトピックが特定されたら、ESG 測定基準管理者と ESG プログラムマネージャーが、組織にとって最も重要な測定基準を収集します。事前定義されたしきい値と目標に対するこれらの測定基準のパフォーマンスをレポートしたり、測定基準がしきい値を満たさなかった場合に発生する問題を文書化したりできます。

レポートフレームワーク

ESGプログラムマネージャーは、Global Reporting Initiative(GRI)、Sustainability Accounting Standards Board(SASB)、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)などの認められた基準に基づいてESG報告フレームワークを開発します。このフレームワークは、報告範囲、開示プロトコル、およびデータを定義します。

開示を生成中

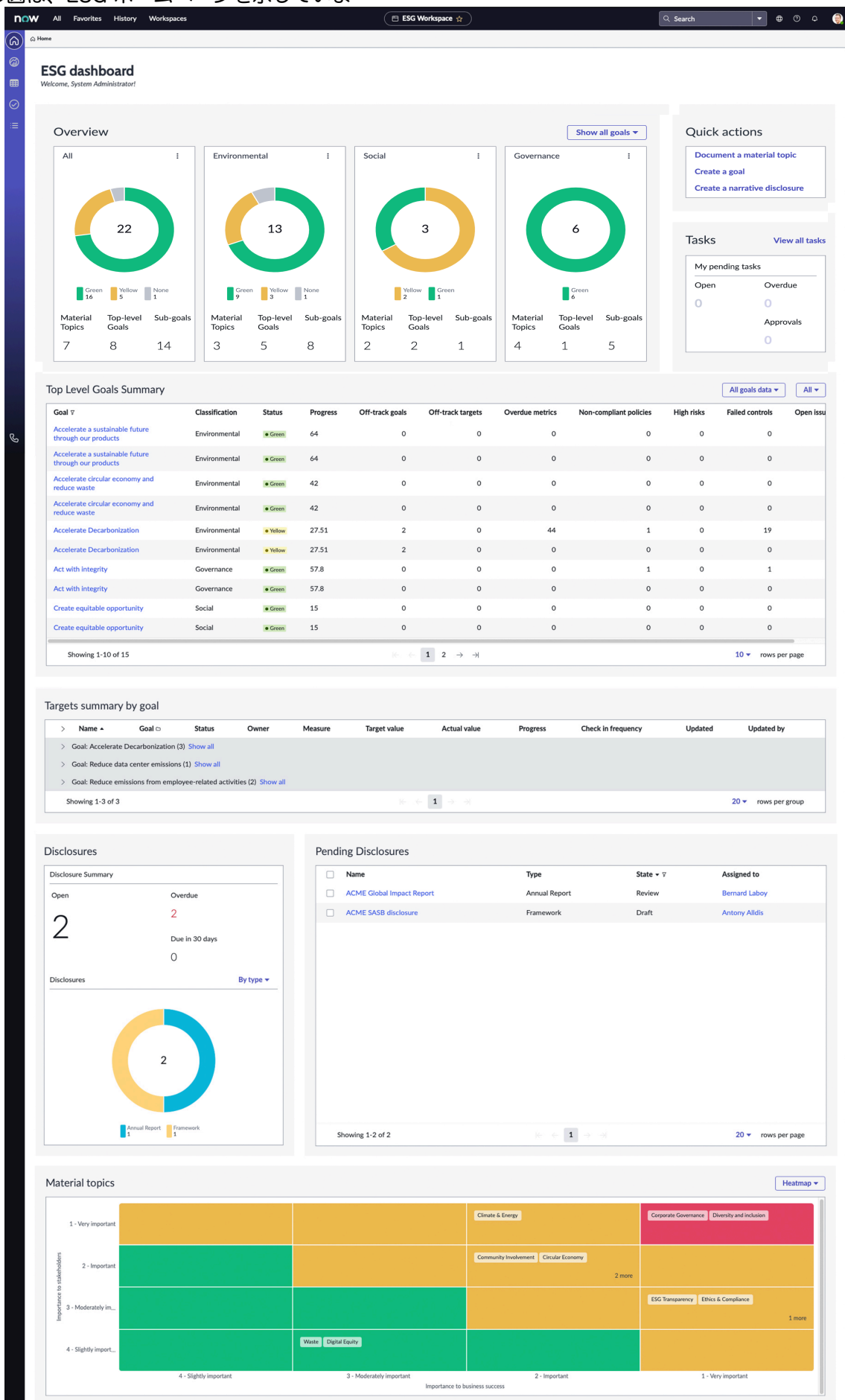
ESG 開示マネージャーは、収集したデータを使用して年次 ESG レポートを生成します。このレポートは、定量的および定性的なデータを含む、会社の持続可能性のパフォーマンスの包括的な概要を提供します。環境への影響、社会的責任、およびコーポレートガバナンスに関連する成果、課題、目標、および将来のイニシアチブを強調します。

ESG ワークスペース

は ESG ワークスペース、さまざまなユーザーがそれぞれのタスクを実行できるように設計された、簡素化されたユーザーインターフェイスです。ESG ワークスペース のホームページには、さまざまなクイックアクションとレポートが表示されます。

ESG ワークスペース には、さまざまなコンポーネントのデータをビジュアル化したさまざまなセクションが表示されます。これらのセクションでは、Environmental, Social, and Governance (ESG) のコミットメントの 3 本の柱について説明します。

次の図は、ESG ホームページを示しています



ダッシュボードの各セクションについて、以降のセクションで説明します。

クイックアクション

ESG ワークスペース にログインすると、最初に ESG ダッシュボードが表示されます。ESG ワークスペース の [クイックアクション] セクションを使用して、次のタスクを実行できます。

- 重要なトピックを文書化する
- 目標を作成
- プログラムを作成
- プロジェクトを作成
- 開示を開始

注:

プログラムとプロジェクトを作成するオプションは、プロジェクトポートフォリオ管理 と統合する場合にのみ使用できます。

タスク

[タスク] セクションには以下の内容が表示されます。

- すべての ESG 関連タスクを表示する単一のページを表示します 
- ワークスペースビューの [タスク] ページで、個々のユーザータスク、ユーザーグループタスク、自分のアイテム、およびウォッチリストを表示できます。
- マネージャーは、承認待ちを表示できます。

[タスク] ページは、ESG ワークスペース の [タスク] アイコン () を選択して開くことができます。

概要

重要なトピックは、会社が選択したエリアです。[概要] セクションには、3 本の柱となる目標、およびサブ目標が関連付けられているすべての重要なトピックのステータスが表示されます。

各リンクをクリックすると、関連するページに移動します。目標がオントラックか、リスクありか、オフトラックかを確認できます。ページでフィルターを使用して、すべての目標を表示することも、トップレベルの目標のみを表示することもできます。

トップレベルの目標の概要

[トップレベルの目標の概要] セクションには、目標とそのステータスの詳細が表示されます。このセクションでは、3 本の柱で目標をフィルタリングできます。トップレベルの目標のみを表示することができます。またフィルターを変更した場合でもそのままトップレベルの目標のみを表示できますが、データにはすべての子レベルの目標が含まれます。このセクションでは、目標の次のアイテムを表示できます。

- 目標：すべての目標を表示します。
- 分類：目標が環境、社会、ガバナンスのいずれに属するかを示します。
- ステータス：目標がオントラックかオフトラックかを示します。
- 進捗状況：目標の進捗状況の値を表示します。
- オフトラック目標：オフトラック目標の数を表示します。
- オフトラックターゲット：オフトラックターゲットの数を表示します。

- 期限切れの測定基準：期限切れの測定基準を表示します。
- 期限切れのプログラム/プロジェクト：目標に関連付けられているプログラムとプロジェクトの数を表示します。
- 非準拠ポリシー：目標に適用される非準拠ポリシーの数を表示します。
- 高リスク：目標のリスクの数を表示します。

i 注:

非準拠ポリシーと高リスクは、Integrated Risk Management (IRM) をインストールした場合にのみ表示されます。

目標別ターゲットの概要

このセクションには、目標別ターゲットと、そのステータス、所有者、測定値、ターゲット値、実際の値、進捗状況、チェックイン頻度、および目標の更新者に関する概要が表示されます。

開示

[開示] セクションには、さまざまな開示のブレイクダウンが表示されます。開示とは、組織の環境、社会、およびガバナンスのパフォーマンスに関連するデータの開示を指します。投資家は、このような開示によって、リスクをもたらす可能性のある企業を特定し、情報に基づいて意思決定を行うことができます。このセクションには、次の情報が表示されます。

- 公開されている開示
- 期限切れの開示
- 30 日以内に期限が切れる開示

開示にはさまざまなタイプがあり、それぞれの開示にはワークフローがあります。[タイプ別] または [ステータス別] フィルターを使用して、開示をフィルタリングできます。

開示処理待ち

[開示処理待ち] セクションには、すべての処理待ちの開示が表示されます。これらの開示は、その状態、タイプ、および開示がアサインされているユーザーとともに表示されます。

重要なトピック

提供されているフィルターを使用すると、次のいずれかの形式で重要なトピックのステータスを表示できます。

- ヒートマップ
- リスト

ヒートマップビューの [重要なトピック] セクションには、ステークホルダーとビジネスの成功にとって重要なトピックのマトリクスが表示されます。ヒートマップ内の各タイルはクリック可能です。リストビューを選択すると、重要なトピックの優先度と分類も確認できます。

i 注:

監視ステータスにある重要なトピックのみがこのレポートに記載されます。

ESG ワークスペースでの検索

[検索] フィールドを使用して、ESG ワークスペース を検索する機能を使用できます。ESG ワークスペース を検索するには、リストから **[ESG ワークスペース]** を選択します。検索結果はコンテキストサイドパネルに表示されます。

[自分のタスク] ページビュー

[自分のタスク] ページには、処理待ちのタスクと、ユーザーグループにアサインされたタスクが 1 つのペインに表示されます。

[タスク] ページのタブ

次の例に示すように、ログインしているユーザーにアサインされたタスクが [タスク] ページに表示されます。

The screenshot shows the ServiceNow interface for the ESG Workspace. The 'Tasks' page is active, displaying a list of tasks under the 'Metric data tasks' tab. The tasks are filtered by 'All' (24 items). The list includes columns for Name, Number, Assigned to, Priority, and State. Tasks are assigned to ESG Admin and ESG PM, with states like 'Awaiting Approval' and 'New'.

Name	Number	Assigned to	Priority	State
Task for test manual MU for ACME Asia	MDTASK0020161	ESG Admin	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test manual MD for Accounts Receivable	MDTASK0020162	ESG Admin	4 - Low	New
Task for test manual MD for ACME Americas	MDTASK0020163	ESG Admin	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test manual MD for Acer	MDTASK0020164	ESG Admin	4 - Low	New
Task for test Manual MD check 2 for ACME Personal Banking	MDTASK0020165	ESG PM	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test Manual MD check 2 for ACME RB India	MDTASK0020166	ESG PM	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test Manual MD check 2 for ACME RB UK	MDTASK0020167	ESG PM	4 - Low	New
Task for test Manual MD check 2 for ACME Midwest	MDTASK0020168	ESG PM	4 - Low	New
Task for test manual MD for ACME Asia	MDTASK0020211	ESG Admin	4 - Low	New

す。

の ESG ワークスペース [タスク] ページには、次のタブが表示されます。

- 自分の保留中タスク：自分にアサインされている処理待ちのタスクと、自分のアクションが必要なタスクの概要が表示されます。次のタイプのステータスを使用して、保留中のタスクをフィルタリングできます。
 - すべて
 - ドラフト/新規
 - 処理中
 - 自分の承認が必要
 - 自分のレビューが必要
 - 期限切れ
 - 保留中の応答



注:

[タスク] ページに表示されるデータは、ユーザーのロールに基づいています。

- 自分のアイテム：ログインしているユーザーにアサインされているタスクのリストが表示されます。

次の例に、ログインしているユーザーの一般的な [自分のタスク] ページを示します。

i 注:

[自分の処理待ちのタスク]、[自分のアイテム] タブでは、進行中のレコードのみを表示できます。クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードは、これらのタブには表示されません。クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードは、それぞれの形式で表示されます ESG ワークスペース。

管理者ロールを持っている ESG Management 場合は、タスクページ構成モジュールを更新してカスタマイズ ESG ワークスペース できます。

ESG ワークスペース ユーザー

ESG ワークスペース では、環境、社会、ガバナンスという柱の関連データが表示され、ロールに応じて適切なアクションを実行できます。これらのロールには、ESG 管理者、ESG プログラムマネージャー、ESG レポートおよび開示マネージャー、ESG 測定基準マネージャー、および ESG データ所有者が含まれます。

ESG ワークスペース は詳細な構成が可能で、ロール主導型です。ロール主導型であるとは、ESG ワークスペース が組織内のユーザーまたはロールごとにカスタマイズされているか、一意であることを意味します。

次の表に、各ロールが組織で実行する主要なタスクを示します。

ESG ユーザーとそのタスク

ユーザー	タスク
ESG 管理者	ユーザーが使用できるようにアプリケーションを設定します ESG Management 。 - 重要なトピックの作成 - ESG 目標の作成 - 目標のターゲットの設定 - 重要なトピックへの目標の追加 - 重要なトピックの承認 - ESG Management でのエンティティの管理 - SASB の信頼できるソースコンテンツのインポート - 排出アクティビティの作成 - 排出係数の作成 - すべての統合を管理 - 測定基準データタスクの期日を計算するための新しいスケジュールを作成します。 - 測定基準を管理します。 - 単位ファミリー、単位、単位変換を作成します。
ESG プログラムマネージャー	- 重要なトピックの作成 - ESG 目標の作成 - 目標のターゲットの設定

ESG ユーザーとそのタスク (続く)

ユーザー	タスク
	- 重要なトピックへの目標の追加 - 重要なトピックの承認 - ESG Management でのエンティティの管理 - 測定基準を管理します
ESG レポートおよび開示マネージャー	内部および外部のステークホルダーに対する開示の作成
ESG 測定基準マネージャー	- 自動測定基準の定義の作成 - 手動測定基準の定義の作成 - 計算済み測定基準の作成 - 測定基準の作成 - ESG Management と Watershed の統合
ESG データ所有者	- 測定基準のデータの入力 - 複数の測定基準の応答の提供
ESG リスクマネージャー	- Create a risk statement  - Generate a risk from a risk statement  - リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始する



注:

このロールは、sn_esg_risk_mgmt プラグインを有効にするとインストールされます

ロールに関する詳細については、「ESG Management とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

持続可能な IT の管理

この 持続可能な IT アプリケーションを使用すると、ハードウェア資産によって生成された排出量を効果的に管理および監視できます。さらに、資産のエネルギー消費量と、資産が寿命に達した後の適切な廃棄を追跡できます。

ESG プログラムマネージャーは、アプリケーション 持続可能な IT を使用して、ラップトップ、サーバー、デスクトップ、プリンター、スキャナーなどのハードウェア資産の持続可能性パフォーマンスを追跡できます。このツールを使用すると、ハードウェア資産の環境への影響を簡単に監視および評価できます。アプリケーションは、ダッシュボードを通じて貴重なインサイトを提供するため、これらの資産を廃止するか再利用するかについて、情報に基づいた意思決定を行うことができます。ダッシュボードには、電力消費量や排出量などの重要なデータも表示されます。持続可能な IT アプリケーションを使用するには、(sn_esg_sustain) プラグインと ハードウェア資産管理 (sn_hamp) プラグインをインストールしてアクティブ化持続可能な IT する必要があります。

持続可能な IT このアプリケーションを使用すると、ハードウェア資産マネージャーは、エネルギー消費の削減に重点を置きながら、資産の購入に関して情報に基づいた意思決定を行うことができま

す。このアプリケーションは、排出量が最も少ないデバイスに関する洞察を提供することで、管理者が環境に優しい選択を優先できるようにします。

このアプリケーションを使用すると、データセンターの排出パフォーマンスを監視し、最も環境に優しいデータセンターや最も環境に配慮したデータセンターを特定できます。

ハードウェア資産の排出量、消費量、電子廃棄物、および Energy Star 資産のデータを収集するために、デフォルトでは、太陽光発電からのエネルギー、バイオマスからのエネルギーなど、27 の測定基準定義が提供されています。データを収集する測定基準の定義をアクティブ化し、エンティティを適切に設定して、正しいデータが収集および表示されるようにする必要があります。データは常に月次ベースで収集され、完了した測定基準データに対してのみ表示されます。

関連情報

のエンティティを設定する方法 持続可能な IT

持続可能な IT ダッシュボード

ダッシュボードには 持続可能な IT 、組織の IT 資産の持続可能性への影響を簡単に評価するためのさまざまな情報が表示されます。

ダッシュボードには 持続可能な IT 、ハードウェア資産、データセンター、および組織の IT フットプリントに関するデータが世界地図上に表示されます。データセンターとは、IT インフラストラクチャを収容する施設のことです。これらのタブについては、以降のセクションで説明します。

注:

ダッシュボードの [ハードウェア資産] タブと [データセンター] タブを表示するには、(sn_hamp) プラグインを有効にする ハードウェア資産管理 必要があります。さらに、[IT フットプリントマップ] タブを有効にするには、Geo Map コンポーネント (sn_geo_map) プラグインを有効にする必要があります。必要な Geo Map コンポーネントの詳細については、ナレッジベースの記事「[Understanding Google Maps APIs in geo-map component \[KB1588661\]](#)」を参照してください Now Support 。

IT フットプリントマップ

ダッシュボードの最初のタブ 持続可能な IT には、データセンターやオフィスビルなどのカーボンフットプリントを示すグローバルマップが表示され、最もエネルギー効率の高い施設が強調表示されます。表示されるデータは、マップマーカーで構成した構成によって決まります。詳細については、「[マップマーカーの構成](#)」を参照してください。マップ上のアイコンをポイントすると、設定されたマーカーの効率の分類、測定基準名、エンティティ名、および利用可能な最新の測定基準データを表示できます。プラグインとともに提供されている任意の測定基準の定義を設定できます 持続可能な IT 。持続可能な IT でグループ化されている測定基準の定義のみを選択できます。たとえば、次の測定基準の定義を使用できます。

- オフィス所在地の炭素強度
- データセンター別の DCiE

注:

DCiEは、データセンターインフラストラクチャの効率を表します。

で 持続可能な ITグループ化された測定基準の定義をフィルタリングする方法の詳細については、「[測定基準の定義をフィルタリング持続可能な IT](#)」を参照してください

アイコンの上にカーソルを移動すると、ポップオーバーが表示されます。ポップオーバーでエンティティ名を選択すると、サイドパネルが開き、次の測定基準定義の選択したエンティティに関連する測定基準が表示されます。

- データセンター別の PUE
- データセンター別の WUE
- データセンター別のキュー
- エネルギー使用によるCO2e排出量
- 総エネルギー使用量
- 場所別のハードウェアエネルギー消費量
- 場所別のハードウェア資産からの CO2e

[リンクを開く] を選択して、測定基準レコードページに移動すれば詳細を確認できます。ダッシュボードの右側にあるエンティティクラスフィルターを使用して、表示するデータを選択できます。

ハードウェア資産

次のビデオは、[ハードウェア資産] タブを示しています。持続可能な IT ダッシュボードの [ハードウェア資産] タブ。

概要:[概要] セクションには、次の測定基準の定義のデータを表示する傾向グラフが表示されます。

- ハードウェア資産からの炭素排出量。
- ハードウェアのエネルギー消費。

チャートをクリックすると、チャートに関連する詳細情報やデータをさらに詳しく調べたり、掘り下げたりすることができます。データの取得元のフィールドは、測定基準の定義フォームで指定されます。詳細については、「[自動測定基準の定義の作成](#)」を参照してください。

エネルギー消費量:エネルギー消費量セクションには、次の形式で表示される情報が表示されます。

- 総エネルギー消費量 (kWh):この数値は、モデル カテゴリ別のハードウェア エネルギー消費量 メトリック定義の総エネルギー消費量を表します。モデルカテゴリ別のハードウェアエネルギー消費量とは、さまざまなカテゴリのハードウェアによって消費されるエネルギーまたは電力の量を指します。ハードウェアモデルカテゴリとは、コンピューター、サーバー、その他のデバイスなど、さまざまなタイプのデバイスを指します。測定基準の定義の構成には、データ収集の目的でハードウェアテーブルのモデルカテゴリ列を指定することが含まれます。
- モデル カテゴリ (kWh) または場所別のエネルギー消費量: この水平棒グラフには、エネルギー消費量データが表示されます。[場所] フィルターまたは [モデルカテゴリ] フィルターのいずれかでデータをフィルターできます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。
- Energy Star 資産: 目盛りグラフには、資産の総数のうち、Energy Star 認定資産の数が表示されます。

排出量: 排出量セクション内では、データは次の形式で表示されます。

- 総排出量 (日数): 前月と比較した場合の総排出量値と排出量の変動の両方を表示できます。
- モデル カテゴリ別または場所別の排出量 (日数): この水平棒グラフには、排出量データが表示されます。[場所] フィルターまたは [モデルカテゴリ] フィルターのいずれかでデータをフィルターできます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。

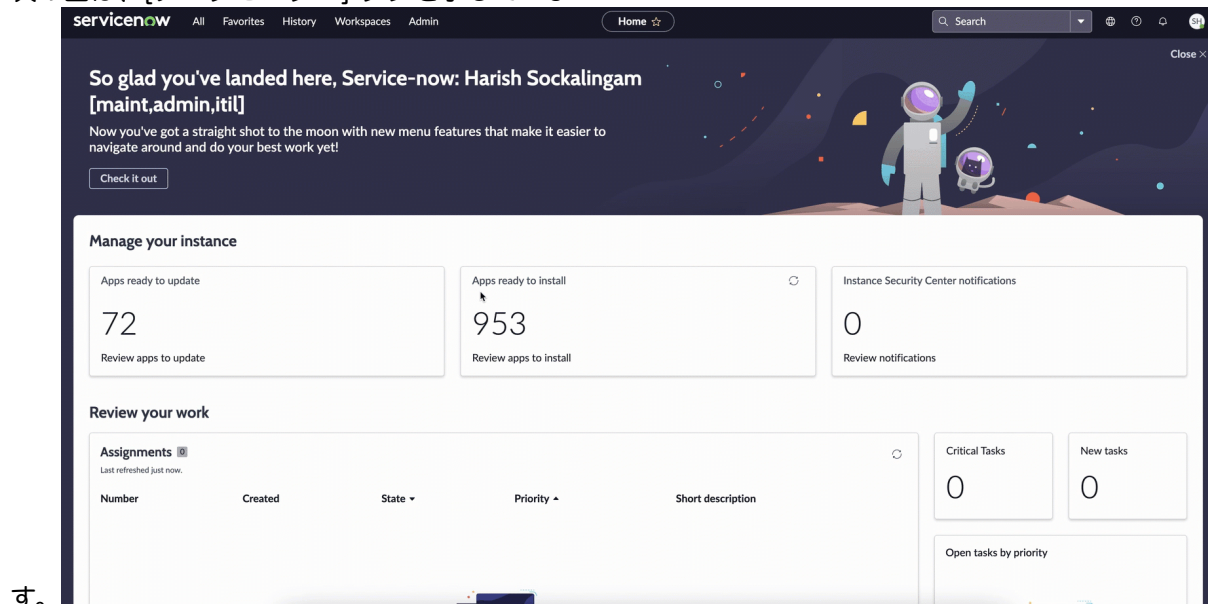
電子廃棄物の再利用、寄付、または埋め立て: このセクションでは、データを次の形式で表示します。

- 廃止された資産 (ポンド): ドーナツグラフには、再利用、寄付、および廃棄された資産の数が表示されます。
- 埋め立て地 (lbs): このセクションの円グラフには、廃棄されたハードウェア資産の重量がモデルカテゴリ別に表示されます。この重量の単位はポンドです。

このセクションのデータは、ハードウェア資産テーブルから取得されます。各チャートはインタラクティブで、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。

データセンター

次の図は、[データセンター] タブを示しています。



す。

概要:[概要] セクションには、次の測定基準の定義のデータを表示する傾向グラフが表示されます。

- エネルギー使用によるCO2e
- 総エネルギー使用量

チャートをクリックすると、各データセンターのエネルギー使用量または排出量に関する詳細情報をさらに詳しく調べたり、掘り下げたりすることができます。[概要] セクションには、排出量とエネルギーのデータの供給元であるデータセンターの数も表示されます。また、DCiE に基づいて、DCiE が最も高いデータセンターが上位にランク付けされている上位 3 つのデータセンターを表示することもできます。最も環境に配慮したデータセンターとは、排出量が最小のデータセンターを指します。

データセンターの効率: データセンターの効率セクションでは、データは次の形式で表示されます。

- 電力使用効率: 電力使用効率 (PUE) は、データセンターのエネルギー効率を評価するために使用される指標です。これは、データセンター施設が消費するエネルギー量と、データセンター施設が収容する IT 機器が使用するエネルギー量を定量化する比率です。
- 水使用効率 (KgCO2e): 水使用効率 (WUE) は、データセンターまたは施設の水効率を評価するために使用される指標です。エネルギー効率を測定する電力使用効率 (PUE) と同様に、WUE は、IT 機器が使用する水に関連して、データセンター施設で消費される水の量を定量化します。
- 炭素使用効率 (KgCO2e/kWh): 炭素使用効率 (CUE) は、データセンターまたは施設の炭素効率と環境への影響を評価するために使用される指標です。データセンターが実行する IT 負荷またはコンピューティング作業の単位あたりに生成される二酸化炭素排出量を定量化します。

エネルギー消費量: エネルギー消費量セクション内では、情報は次の形式で表示されます。

- 総エネルギー消費量 (kWh): この数値は、すべてのデータセンターの合計エネルギー消費量を表します。これは、すべてのデータセンターの全体的なエネルギー使用量の概要を提供します。
- ソース別の総エネルギー消費量: ドーナツ グラフは、さまざまなエネルギー源からのエネルギー消費量の分布をキロワット時 (kWh) で示すために使用されます。エネルギー源は、測定基準の定義の形式で指定されます。半ドーナツグラフの各セクションはインタラクティブで、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。
- データセンター別のエネルギー消費量 (kWh): 棒グラフには、すべてのアクティブなメトリック定義を考慮して、個々のデータセンターのエネルギー消費量が表示されます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。これにより、さまざまなデータセンターのエネルギー使用量をより効果的に分析および比較できます。

排出量: 排出量セクションでは、データは次の形式で表示されます。

- 総排出量 (KgCO2e): この数値は、すべてのデータセンターの総排出量を表します。
- データセンター別の排出量 (KgCO2e): 棒グラフには、すべてのアクティブなメトリック定義を考慮して、個々のデータセンターの排出量が表示されます。用意されているフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートできます。さらに、棒グラフの各棒はインタラクティブであり、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。

i 注:
データは、合計メソッドを使用して集計されます。

ESG Content Accelerator

アプリケーションは ESG Content Accelerator、フレームワーク、信頼できるソースコンテンツ、および測定基準の定義の一元化されたリポジトリです。このアプリケーションを使用すると、ESG フレームワークの採用が促進されます。

からServiceNow StoreインストールESG Content Acceleratorできます。インストール後、アイコン()  を選択するとESG Content Acceleratorアプリケーションを起動できます。

このアプリケーションには、次のフレームワークが含まれています。

- Global Reporting Initiative (GRI)
- Sustainability Accounting Standards Board (SASB)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)
- 国連の持続可能な開発目標(SDGs)
- SustainableIT.org
- 欧州サステナビリティ・レポート・スタンダード(ESRS/CSRD)

i 注:
サポートされているフレームワークのリストはすべてを網羅しているわけではなく、将来のリリースで進化する可能性があります。

ESG Content Accelerator アプリケーションのメリット

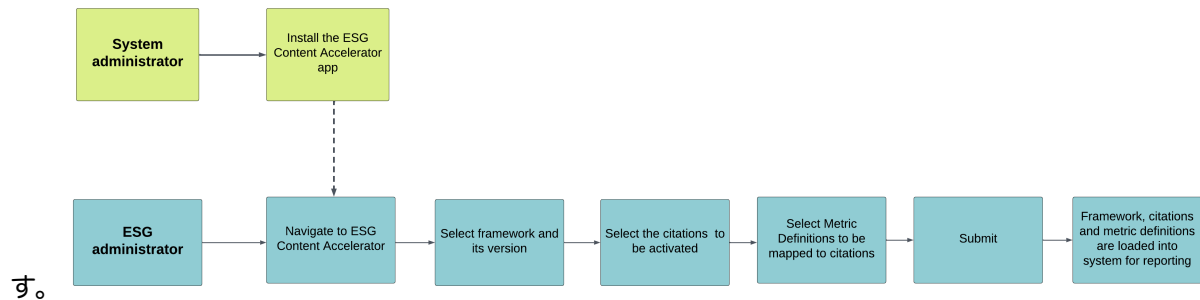
この ESG Content Accelerator アプリケーションのメリットは次のとおりです。

- 使用するフレームワークを選択する機能を提供します。
- 特定のフレームワークに関連付けられている信頼できるソースコンテンツを選択し、インスタンスでアクティブステータスにしてインストールできるようにします。

- 信頼できるソースコンテンツに関連付けられている測定基準の定義を非アクティブステータスでインストールできるようにします。
- 測定基準の定義を手動で作成する必要がなくなります。
- ユーザーが測定基準の定義を編集できるようにします。
- 標準が更新されるたびに更新されます。

アプリケーションのワークフロー **ESG Content Accelerator**

次の図は、アプリケーションのライフサイクル ESG Content Accelerator を示しています。



詳細については、「[を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、信頼できるソースコンテンツをインストール ESG Content Accelerator](#)」を参照してください。

ESG Management の構成

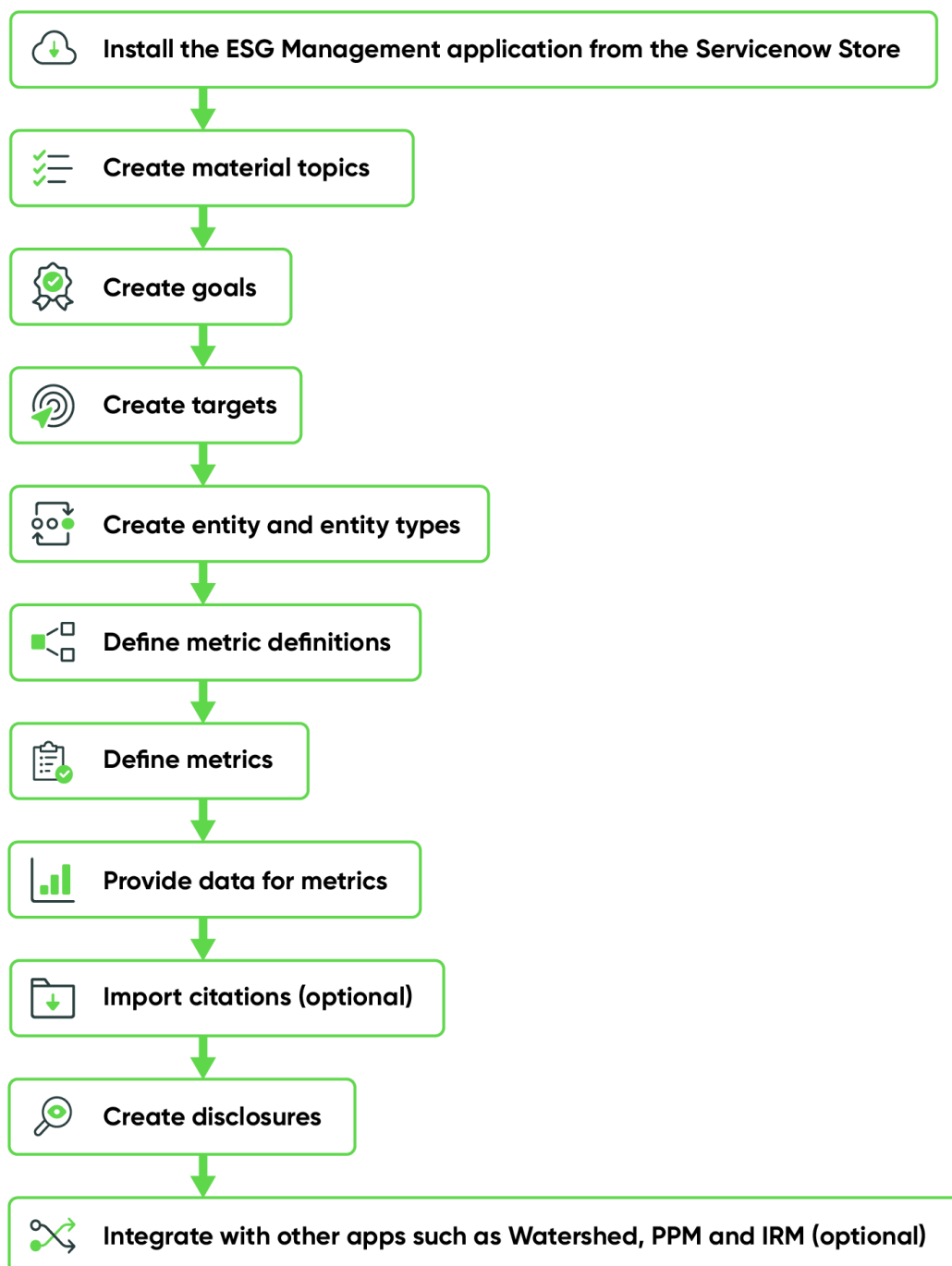
管理者は、このセクションを使用して ESG Management アプリケーションを設定します。最初に、重要なトピック、目標とターゲット、排出アクティビティ、および排出係数を作成する必要があります。その後、測定基準をレポートして組織の ESG パフォーマンスを測定する対象となる、エンティティおよびエンティティタイプを作成できます。

ESG Management の実装

ServiceNow ESG Management アプリケーションチェックリストの手順に従って ServiceNow Store から ESG Management をダウンロードし、操作の準備をします。必須およびオプションのセットアップ手順のほか、実装チェックリストが、セットアップを簡略化するために用意されています。

チェックリストの必須ステップのフローを次に示します。

ESG Management の実装ワークフロー



自動翻訳

ESG Management のインストール

sys_admin ロールを持っていれば、ESG Management アプリケーション (sn_esg) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントの取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。
- ESG Management には次の ServiceNow Store アプリケーションが必要です。ESG Management をインストールする前に、このアプリケーションがインストールされていることを確認します。

必要な ServiceNow Store アプリケーション

GRC: Profiles

GRC: Profiles アプリケーションは、GRC アプリケーションスイートで共有される共通コンポーネントのセットです。このアプリケーションには、一般的なアーキテクチャ、問題管理、およびインジケータが含まれています。

GRC: Common Workspace Elements

GRC Base Workspace は、GRC アプリケーション間で共有されるすべての重大なワークスペースパーツのコンテナです。

Goal Framework

このゴールフレームワーク アプリケーションでは、選択した重要なトピックに向けた進捗状況を追跡する目標を追加できます。

GRC: Metrics

GRC: Metrics アプリケーションを使用すると、他のアプリケーションのパフォーマンスを評価、比較、追跡、およびレポートする際に使用する測定基準を定義できます。

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting

(sn_esg_msoff_intg) は Microsoft 365 for ServiceNow Reporting、ESG レポートマネージャーに開示レポート機能を提供し、次を使用して Microsoft Word システムデータ、リストレポート、チャート、ピボット、マルチピボットレポートをシームレスにレポート ServiceNow ESG Management できるようにします。

i 注:

ESG Management アプリケーションでは、GRC: ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの各種法令・基準等および信頼できるソースコンテンツと、GRC: Profiles アプリケーションのエンティティを使用できます。

必要なロール：admin

このタスクについて

ESG Management とともに次のアイテムがインストールされます。

- ロール
- ジョブスケジュール
- テーブル

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、ESG Management アプリケーション (sn_esg) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「[ServiceNow Store/バージョン履歴のリリースノート](#)」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、ESG Management をインストールする前にインストールする必要があります。

4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

重要:
インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [インストール] を選択します。

エンタイトルメントの完了 **ESG Management**

からServiceNow StoreアプリケーションをインストールしESG Managementした後、アプリケーションへの完全なアクセス権を取得して使用するには、エンタイトルメントを完了する必要があります。

始める前に

必要なロール: admin

手順

1. ServiceNow Store に移動します。
2. **[Environmental, Social, Governance Management]** を検索して選択します。
3. オプション: 製品ページでバージョンを変更するには、[その他のアプリバージョン] リンクを選択します。
 - a. 他のバージョンの詳細を表示するには、任意のバージョンを選択します。
 - b. [詳細を表示] を選択します。
4. [製品を表示] を選択します。
5. [Environmental]、[Social]、**[Governance Management]** を選択します。
6. すべてのインスタンスにアプリケーションに資格を付与するには、[オプトイン] を選択します。

対象リストには、ライセンスされているすべてのアプリケーション依存関係が表示されます。

7. 契約条件に同意する ServiceNow オプションを選択します。
8. [承認] を選択します。
製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントの管理 (**Manage Entitlements**)] ボタンが表示されます。
9. オプション: 「エンタイトルメントの管理」を選択して、エンタイトルメントが付与されているアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更します。
10. 契約条件に同意し ServiceNow でエンタイトルメントを管理した後、シングルクリックで他の製品にエンタイトルメントを付与することができます。

アプリケーションのセットアップチェックリスト **ESG Management** を使用

提供されたチェックリストを使用して、アプリケーションのインスタンス ESG Management を設定する Now Platform ために必要なタスクを完了していることを確認します。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。

始める前に

必要なロール: なし

手順

1. 「**ESG Management アプリケーションのチェックリスト**」を確認してください。
2. トピックの上部にある [PDF として保存] アイコン () を選択します。
3. [トピックの保存] を選択します。
4. 完了したら、各タスクをマークします。

Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーションのインストール

Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG (sn_esg_sasb) アプリケーションを ServiceNow Store からインストールします。SASB 標準により、企業は、財務的に重要な持続可能性情報を特定、管理し、投資家に伝達できます。アプリケーションの一部として ESG Management、SASB 標準がコンテンツパックとして提供されます。

始める前に

i 注:

Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーションをインストールする前に、まず ESG Management アプリケーションをインスタンスにインストールします。

必要なロール: sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > **[System Applications] > [All Available Applications] > [All]**.
2. フィルター基準と検索バーを使用して、Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG (sn_esg_sasb) アプリケーションを検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることもあります。

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリース

ノート情報については、「[ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート](#)」を参照してください。

3. [Install (インストール)] をクリックします。

重要なトピックの作成

ESG の影響を与える領域を特定できるように、組織の重要なトピックを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

重要なトピックは、組織が経済、環境、および人に与える最も大きい影響を反映したトピックです。重要なトピックを作成したら、そのトピックを承認のために送信する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック**。
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

重要なトピックのフォーム

フィールド	説明
名前	重要なトピックの名前。たとえば、「天気とエネルギー」。
分類	重要なトピックの分類。選択肢は次のとおりです。 ○ 環境 ○ 社会 ○ ガバナンス
承認者	重要なトピックのレビューおよび承認の責任者。
ステータス	重要なトピックのステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
ビジネスの成功にとって重要	重要なトピックがビジネスの成功に与える効果。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 非常に重要 ○ 重要 ○ ほどほどに重要 ○ やや重要
ステークホルダーにとっての重要性	ステークホルダーにとっての重要なトピックの重要性。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	○ なし ○ 非常に重要 ○ 重要 ○ ほどほどに重要 ○ やや重要
URL	チームが使用できるオンライン情報へのリンク。
優先度	重要なトピックの優先度。選択肢は次のとおりです。 ○ なし ○ 高 ○ 中 ○ 低
説明	重要なトピックの簡単な説明。

4. [保存] をクリックします。
5. レビューのためにトピックを送信するには、[レビュー準備完了] をクリックします。
6. 重要なトピックを機密としてマークするには、[セキュリティ] セクションで [機密] オプションを選択します。
 - a. [許可されたユーザー] フィールドで、レコードを表示できるユーザーを選択します。
 - b. [許可されたグループ] で、レコードを表示できるグループを選択します。
このセキュリティセクションは、GRC プロパティの下で `sn_grc.enable_record_confidentiality` プロパティが有効になっている場合にのみ表示されます。デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。

タスクの結果

重要なトピックが承認者に送信されます。ステータスが [レビュー] に変化します。

次のタスク

測定基準の作成

重要なトピックの承認または却下

自身が承認者としてアサインされている場合は、重要なトピックをレビューして承認または却下します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 自分の重要なトピックの承認**.
2. レビューする重要なトピックを開きます。
3. トピックを承認または却下するには、[ステータス] フィールドを次のいずれかに設定します。

4. [保存] をクリックします。

タスクの結果

重要なトピックが承認されると、そのステータスが [監視] に変わります。トピックが却下されると、ステータスは [ドラフト] に変わります。

ESG 目標の作成

環境、社会、ガバナンス (ESG) の目標を設定して、選択した重要なトピックに向かっての進捗状況を追跡します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

重要なトピックを作成した後に、重要なトピックに向けた進捗状況を追跡する目標も作成する必要があります。目標の作成後に、次が可能になります。

- ターゲットをアサインして、目標達成の進捗状況を追跡します。
- Integrated Risk Management と統合している場合は、ポリシーを追加できます。目標関連のリスク、ポリシーとコントロールのコンプライアンス、および期限のある問題を監視することもできます。この統合により、ポリシーを作成し、コントロールを実装して、会社の目標を強化できます。
- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合している場合は、目標に対するプログラムとプロジェクトを追加できます。

詳細については、「[ゴールフレームワーク](#)」を参照してください

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 目標**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[目標] フォーム

フィールド	説明
名前	目標の名前。たとえば、「気候変動戦略」。
分類	目標のカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 ○ 環境 ○ 社会 ○ ガバナンス
開始日	目標の開始日。
所有者	目標を所有するユーザー。
ステータス	目標の進捗状況を示すステータス。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	○ 赤 ○ 黄 ○ 緑
ステータス	目標のステータス。
カテゴリ	目標が属するカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 ○ アプリケーション合計 ○ 総コスト ○ 経費 ○ 投資 ○ クラウドアプリケーション ○ 自家製アプリケーション ○ サポート費 ○ 人件費 ○ 標準コンプライアンス ○ 戦略的 ○ オペレーショナル ○ 戦術的
終了日	目標の終了日。
貢献者	目標に貢献しているユーザー。
進捗状況	目標の完了率。進捗値は自動的に計算されます。 進捗値の計算方法の詳細については、「目標の進捗値の計算」を参照してください。
説明	目標の説明。

4. [保存] をクリックします。

次のタスク

目標と、他のサブ目標、ターゲット、測定基準の定義などとの関係を表示するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

関連情報

[ESG ワークスペース の目標の概要](#)

目標の進捗値の計算

目標の進捗値や完了率の値は、さまざまな式を使用して自動的に計算されます。計算式は、ターゲットのみを含む目標であるか、サブ目標とターゲットの組み合わせであるか、また加重平均計算が有効になっているかどうかによって異なります。

シナリオ	目標の進捗値の計算に使用される式
- 目標にターゲットがある。 - 目標にサブ目標がない。 - ターゲットに重み付けスケールが定義されていない。	$\text{目標の進捗値} = \frac{\text{関連するターゲットの進捗値の合計}}{\text{ターゲットの数}}$
- 目標にサブ目標とターゲットがある。 - サブ目標とターゲットに重み付けスケールなし。	$\text{目標の進捗値} = \frac{\text{サブ目標と関連するターゲットの進捗値の合計}}{\text{サブ目標とターゲットの数}}$
- 目標に 2 つのターゲット (ターゲット 1 とターゲット 2) がある。 - 目標にサブ目標がない。 - ターゲットに対して重み付けスケールが定義されており、sn_gf.weighted_average_enabled システムプロパティが Yes に設定されている。	$\text{目標の進捗値} = \frac{[(\text{ターゲット 1 の進捗値} \times \text{ターゲット 1 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 2 の進捗値} \times \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})]}{(\text{ターゲット 1 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})}$
- 目標に 2 つのターゲット (ターゲット 1 とターゲット 2) がある。 - 目標に 2 つのサブ目標 (サブ目標 1 とサブ目標 2) がある。 - サブ目標とターゲットに対して重み付けスケールが定義されており、sn_gf.weighted_average_enabled システムプロパティが Yes に設定されている。	$\text{目標の進捗値} = \frac{[(\text{サブ目標 1 の進捗値} \times \text{サブ目標 1 の重み付けスケール}) + (\text{サブ目標 2 の進捗値} \times \text{サブ目標 2 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 1 の進捗値} \times \text{ターゲット 1 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 2 の進捗値} \times \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})]}{(\text{サブ目標 1 の重み付けスケール} + \text{サブ目標 2 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 1 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})}$

ゴールフレームワーク への既存の目標データの移行

admin ロールを使用すると、スケジュール設定済みジョブを実行して、既存の目標データを ゴールフレームワーク テーブルに移行できます。

始める前に

必要なロール：sys_admin

このタスクについて

IT Business Management の既存ユーザーは、既存の目標を ゴールフレームワーク に移行する必要があります。新規顧客は自動的に新しいフレームワークが与えられるため、この手順に記載されているジョブを実行する必要はありません。

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [目標、戦略、および関連する作業アイテムデータを新しいテーブルに移行] スケジュール設定済みジョブを検索してクリックします。
3. [スクリプトの実行を予定] フォームで、以下の手順を実行します。
 - a. [実行] フィールドで頻度が [オンデマンド] に選択されていることを確認します。
 - b. [このスクリプトを実行] フィールドで、必須パラメーターの値を **[true]** に設定します。

パラメーター	説明
目標データの移行	- 既存のすべての目標レコードを目標 [goal] テーブルから目標 [sn_gf_goal] テーブルに移行します。sys_ID は同じままです。対応するターゲットレコードがターゲット [sn_gf_goal_target] テーブルに作成されます。 - 最初の目標を主目標として、目標と作業アイテム (プロジェクト、デマンド、プログラム) 間の既存の関係を目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに作成します。 i 注: 目標 [goal] テーブルに [方向] フィールドが設定されている既存の目標レコードのみが、目標 [sn_gf_goal] テーブルに移行されます。
戦略データの移行	企業戦略 [enterprise_strategy]、事業部門戦略 [business_unit_strategy]、および戦略的達成目標 [strategic_objective] のテーブルから、既存のすべての戦略レコードを戦略的優先事項 [sn_gf_strategy] テーブルに移行します。sys_ID は同じままです。
目標戦略 M2M データの移行	ゴールフレームワーク では、1 つの目標は 1 つの戦略にのみマッピングできます。既存の目標にマッピングされた 2 つの戦略がある場合、目標のクローンが作成され (1 つは汎用目標として、もう 1 つはサブ目標として)、両方に同じ戦略が設定されます。また、サブ目標については、最初の目標が親目標として設定されます。 たとえば、既存の目標 (G1) が 5 つの戦略 (S1、S2、S3、S4、および S5) にマッピングされているシナリオを考えてみましょう。この場合、G1 の 4 つのクローンがサブ目標 (G2、G3、G4、および G5) として作成され、親目標が G1 として設定されます。サブ目標 (G2、G3、G4、および G5) については、[戦略] フィールドにそれぞれ (S1、S2、S3、S4、および S5) が入力されます。 i 注: クローンされたサブ目標の名前には、Cloned SubGoal: のプリフィックスが付き、その後に親の目標名が続きます。
戦略/作業アイテム関係性	- 戦略と作業アイテム (プロジェクト、デマンド、プログラム) 間の既存の関係を目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに移行します。 - 目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに、目標に対する、(現在の戦略としての) 戦略と作業アイテム間の関連付けがない場合、現在の戦略の戦略値で

パラメーター	説明
データの移行	ダミー目標が作成されます。そして、目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに、ダミー目標と作業アイテムとの目標関係が作成されます。 注: ダミー目標の名前にはプリフィックス Goal: が付き、その後に戦略名が続きます。

4. [今すぐ実行する] をクリックします。

プロジェクトフォームでの優先度と目標の表示

既存ユーザーの場合は、ゴールフレームワークにアップグレードするためにプロジェクトフォームを構成します。ゴールフレームワークのメリットは、目標のターゲットを設定できることです。戦略的優先事項および関連する目標を組織の戦略的計画の一部として定義することもできます。

始める前に

必要なロール：sys_admin

このタスクについて

事前構成されたフォームがある場合は、この構成を行って新しいフレームワーク機能とフィールドを使用できるようにする必要があります。次の画像は、構成前後のフォームフィールドを示しています。

新しいフィールドの構成前

新しいフィールドの構成後

デマンドフォームとプログラムフォームでも同じ手順を実行できます。詳細については、「[ゴールフレームワーク](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて** > プロジェクト管理 > プロジェクト > **すべて**。
2. プロジェクトを開きます。
3. 追加アクションアイコン (≡) をクリックして、次の手順を実行します。
 - a. [構成] をクリックします。
 - b. [フォームレイアウト] をクリックします。
 - c. [フォームビューとセクション] で、[ビュー名] フィールドに、目標と戦略の Glide リストを含むビューを設定します。
 - d. [フォームビューとセクション] で、[セクション] フィールドを [ビジネスケース] に設定します。

- e. [利用可能] リストで、[主要目標 **[+] (Primary goal [+])**] を選択し、ツリーワークフローアイコン () をクリックします。
 - f. [利用可能] リストで、[戦略的優先事項 **[+] (Strategic priority [+])**] をダブルクリックします。
[選択済み] リストに [主要目標.戦略的優先事項 **(Primary goal.Strategic priority)**] が表示されます。
 - g. [保存] をクリックします。
- [スコア] や [財務] など、目標と戦略の Glide リストを持つすべてのビューに対してこの手順を繰り返します。

タスクの結果

プロジェクトフォームには、[戦略的優先事項] フィールドと [主要目標] フィールドが表示されます。

重要なトピックへの目標のマッピング

重要なトピックに目標にマッピングして、選択したトピックに対して実行されるアクションを追跡できるようにします。このマッピング演習に基づいて、最も大きい影響を与える目標に取り組むことができます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック**.
2. 目標をマッピングする重要なトピックを開きます。
3. 目標を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. [目標] 関連リストをクリックします。
 - b. [追加] をクリックします。
 - c. 追加する目標を選択します。
 - d. [追加] をクリックします。
 - e. [保存] をクリックします。

タスクの結果

重要なトピックに目標がマッピングされます。この目標によって、選択したテーマまたはトピックに向けた進捗状況を追跡できるようになりました。

エンティティを目標に関連付ける

目標を作成したら、追跡するエンティティを目標に関連付ける必要があります。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program.manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 目標**.
2. エンティティを追加する目標を開きます。
3. [エンティティ] 関連リストを選択します。
4. [追加] を選択します。
 - a. 追加するエンティティを選択します。
 - b. [追加] を選択します。

ESG ターゲットの作成

環境、社会、社会 (ESG) ターゲットを作成して、ESG の目標に向けた進捗状況を追跡します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

ターゲットを作成すると、目標をどの程度達成しているかをターゲットを使用して確認できます。ターゲットのステータスを、目標に関するレポートカードとして扱うことができます。ターゲットを作成したら、測定基準を作成して収集し、ターゲットが達成されているかどうかを測定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > ターゲット**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[ターゲット] フォーム

フィールド	説明
名前	ターゲットの名前。たとえば、「四半期ごとに多様性プログラムを開始」。
目標	このターゲットが追跡する目標。
開始日	ターゲットを開始する日付
所有者	ターゲットの所有者。
タイプ	達成の方向を示すターゲットタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 最大化：方向は [基準値] から [ターゲット値] です。基準値はターゲット値未満になっている必要があります。 ○ 最小化：方向は [基準値] から [ターゲット値] です。ターゲット値は基準値未満になっている必要があります。

フィールド	説明
	マイルストーン：固定タイプ。[進捗状況] フィールドのみを使用できます。フィールドの値 (0 ~ 100) は、マイルストーンの達成をキャプチャします。
ステータス	ターゲットのステータス。
ステータス	ターゲットの進捗状況を示すステータス。選択肢は次のとおりです。 - 緑：ターゲットが順調であることを示します。 - 黄：ターゲットに改善が必要であることを示します。 - 赤：ターゲットに緊急の配慮が必要であることを示します。
終了日	ターゲットが終了する日付。
貢献者	ターゲットの達成に貢献するユーザー。
チェックイン頻度	所有者または貢献者がターゲットの実際の値を更新する頻度を指定するオプション。利用可能なオプションは、[日次]、[週次]、[隔週]、[月次]、および[四半期ごと] です。
測定	指定された値の測定タイプ。使用可能な測定タイプは、単位 [sn_gf_units] テーブルに格納されています。
基準値	ターゲットの基準値。基準値は、現在または最近の値と見なすこともできます。
実際の値	特定の時点でのターゲットの実際値。このフィールドは、[タイプ] フィールドが [最大化] または [最小化] に設定されている場合にのみ使用できます。
ターゲット値	ターゲットのターゲット値。この値は、チームで達成する必要がある目標です。このフィールドは、[タイプ] フィールドが [最大化] または [最小化] に設定されている場合にのみ使用できます。
進捗状況	完了したターゲットの割合。この値は自動的に計算されます。 [タイプ] フィールドが [最大化] に設定されている場合、進捗状況の値は次の式を使用して計算されます。 $\text{Progress} = (\text{Actual value} - \text{Base value}) / (\text{Target value} - \text{Base value}) \times 100$ [タイプ] フィールドが [最小化] に設定されている場合、進捗状況の値は次の式を使用して計算されます。

フィールド	説明
	$\text{Progress} = (\text{Actual value} - \text{Target value}) / (\text{Base value} - \text{Target value}) \times 100$
重量スケール	目標の他のターゲットと比較したターゲットの重要度を表す数値。サブ目標が存在する場合は、相対的な重み付けとその後の進捗状況の計算でも考慮されます。デフォルトでは、重み付けスケールは 1 です。 i 注: このフィールドは、システムプロパティが <code>sn_gf.weighted_average_enabled</code> [はい] に設定されている場合にのみ使用できます。
ターゲットのソース	ターゲットのソースとして機能する測定基準の定義または測定基準。このフィールドは、[タイプ] フィールドに [最大化] または [最小化] が含まれている場合にのみ表示されます。ソースの追加方法については、「ターゲットのソースの追加」を参照してください。

4. 重要なトピックを機密としてマークするには、[セキュリティ] セクションで [機密] オプションを選択します。
 - a. [許可されたユーザー] フィールドで、レコードを表示できるユーザーを選択します。
 - b. [許可されたグループ] で、レコードを表示できるグループを選択します。
このセキュリティセクションは、GRC プロパティの下で `sn_grc.enable_record_confidentiality` プロパティが有効になっている場合にのみ表示されます。デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
5. [保存] をクリックします。
[測定基準の定義] および [測定基準] 関連リストが表示されます。
6. 測定基準の定義を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. [測定基準の定義] 関連リストをクリックします。
 - b. [追加] をクリックします。
 - c. 追加する測定基準の定義を選択します。
 - d. [追加] をクリックします。

タスクの結果

測定基準の定義を含むターゲットが作成されます。

ターゲットのソースの追加

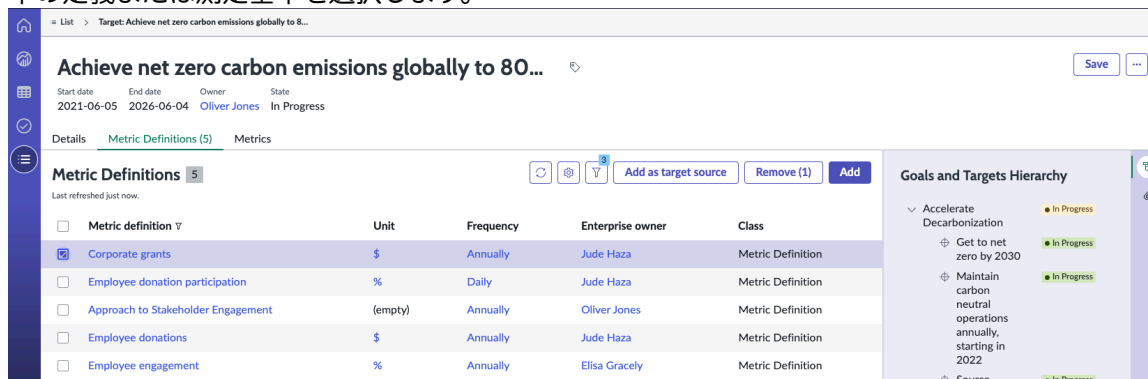
ターゲットを作成したら、ターゲットのソースを追加する必要があります。ソースは、親ターゲットに貢献する測定基準または測定基準の定義にすることができます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > ターゲット**.
2. ソースの追加先にするターゲットを選択して開きます。
3. [測定基準の定義] または [測定基準] 関連リストから、ターゲットのソースとして設定する測定基準の定義または測定基準を選択します。



4. [ターゲットソースとして追加] を選択します。

排出アクティビティの作成

排出アクティビティを作成して、排出につながるアクティビティを追跡します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 排出係数ライブラリ > アクティビティ**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[排出アクティビティ] フォーム

フィールド	説明
名前	排出アクティビティの名前。たとえば、「自動車」。
タイプ	アクティビティのタイプ。たとえば、「高級」。
サブタイプ	アクティビティのサブタイプ。たとえば、「ディーゼル」。

4. [送信] を選択します。

排出係数の作成

排出係数を作成します。この係数は、大気中に排出された汚染物質の量と、その汚染物質の排出に関連付けられたアクティビティを関連付ける代表値です。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

排出係数とは、アクティビティデータを排出量に変換するための係数です。これは、アクティビティまたはプロセスの単位に関連する、指定されたソースの平均排出率です。排出係数を作成するときに、排出量の測定に使用する単位にデータを変換するときの変換元の単位を選択できます。たとえば、アクティビティデータであるマイルを、アクティビティによって発生する排出量に変換できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 排出係数ライブラリ > 係数**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[排出係数] フォーム

フィールド	説明
名前	排出係数の名前。たとえば、「Cars-Mini-Diesel-miles-KgCO2e」。
変換前の単位	データ収集時の単位。
変換後の単位	データ変換先の単位。
排出アクティビティ	係数の排出アクティビティまたはソース。

4. **[送信]** を選択します。

排出係数へのロケーションの追加

係数を作成した後で、排出係数にロケーションを追加します。要素にロケーションを追加する必要があるのは、組織にさまざまなロケーションがあり、各ロケーションが異なる期間に異なる係数値を持つ可能性があるためです。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

通常、係数は、温室効果ガス (GHG) プロトコルなどの標準的なソースから取得されます。ロケーションの各係数は、指定された期間中有効です。排出係数にロケーションを追加するときは、その特定のロケーションの係数値を指定します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 排出係数ライブラリ > 係数**.
2. ロケーションの追加先の排出係数を開きます。
3. **[排出係数のロケーション (Emission factor locations)]** 関連リストで、**[新規]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

排出係数のロケーション

フィールド	説明
排出係数	ロケーションの追加先にする排出係数の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
適用開始日	排出が有効になる最初の日付。
適用終了日	排出が終了する日付。 i 注: 終了日を指定しない場合、係数値は無期限に適用されます。
ロケーション	排出のロケーション。 i 注: ロケーションを指定しない場合、係数値は組織のすべてのロケーションに適用されます。
値	係数の値。たとえば、天然ガスが 0.375kg CO2eq/kWh ICV を排出する場合、値として 0.375 を指定できます。

5. [送信] を選択します。

Example: ロケーションの計算ロジック

各ロケーションに親ロケーションが存在することがあります。たとえば、ロケーションが東京の場合、東京の親ロケーションは日本です。同様に、日本の親ロケーションはアジア太平洋地域になります。[ロケーション] フィールドで [日本] などの親ロケーションを選択し、値を **1.5** として指定した場合、レコードを持たず、かつ親ロケーションが日本であるロケーションに対して、測定量は 1.5 の値を使用して計算されます。[ロケーション] フィールドで [アジア太平洋] を選択し、**2.5** として値を指定した場合、レコードを持たず、親ロケーションがアジア太平洋であるロケーションに対して、測定量は 2.5 の値を使用して計算されます。

新規スケジュールを作成します

スケジュールを作成するか既存のスケジュールを変更して、測定基準データタスクの期日を計算します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

スケジュールを使用して、測定基準データタスクの期日を指定できます。たとえば、期日が週末や祝日をまたがらないように指定できます。別の例としては、勤務時間を指定して、仕様に基づいて期日が自動的に設定されるようにすることができます。デフォルトでは、平日の **8 時～5 時** のスケジュールを使用して期日が設定されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > スケジュール**.
2. 新規 を選択し、一意で意味のある 名前 と 説明 を入力し、フォームに入力します。

[スケジュール] フォームのフィールドの詳細については、「[スケジュールのフィールド](#)」を参照してください。

関連リストのグループを作成する

レコードページ上の関連リストのグループ化を簡素化し、特定のニーズに合わせてカスタマイズして、プロセス内で意味のある名前を割り当てます。この構成により、フォームを操作する際の読みやすさとユーザーエクスペリエンスが向上します。

始める前に

必要なロール：admin または sn_grc_workspace.record_view_admin

このタスクについて

フォームには多数の関連リストがあり、ビューが乱雑になることがあります。表示を簡素化するために、フォームに表示する関連リストを選択して設定するオプションがあります。デフォルトでは、次のテーブルに関連リストを設定する機能が提供されます。

- 計算済み測定基準の定義テーブル
- 目標テーブル
- 手動および自動測定基準の定義テーブル

任意のテーブルを選択してそのテーブルの関連リストを設定できますが、この手順では例として、目標構成テーブルのグループを作成する方法について説明します。関連リストとは別に、グループの下に表示する UX ページを指定することもできます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > レコードビュー構成**.
2. **[ESG ワークスペース構成]** を選択します。
3. **[テーブル構成]** 関連リストで、**[目標構成]** を選択します。
4. **[グループ構成 (Group configurations)]** 関連リストで、**[新規]** を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

グループ構成フォーム

フィールド	説明
テーブル構成	関連リストを構成するテーブルの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
名前	フォームの関連リストに表示されるグループの名前。たとえば、「プログラムのセットアップ」などの名前を指定できます。
アクティブ	構成がアクティブであることを示すオプション。
順序	フォーム上のグループの順序番号。

フィールド	説明
	i 注: [詳細] タブの前に注文を表示する場合は、注文番号を 100 以下にする必要があります。
条件	フォームに表示するために満たす必要のある条件。たとえば、目標のタイプが環境の場合にのみ、フォームに表示する必要があるように指定できます。

6. [送信] を選択します。
7. [グループ構成 (Group configurations)] 関連リストで、作成したエントリーを選択します。
 - a. [グループエントリー (Group entries)] 関連リストで、[新規] を選択します。
 - b. フォームのフィールドに入力します。

グループエントリーフォーム

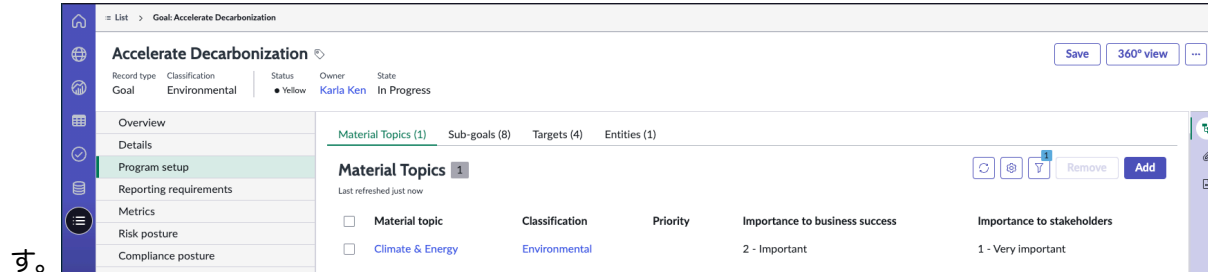
フィールド	説明
グループ構成	関連リストが作成されているグループ。たとえば、この手順では、エントリを構成するグループはプログラムのセットアップです。
順序	UI ページでのエントリーの順序。
アプリケーション	関連リストを作成するアプリケーション。このフィールドは、自動的に [Environmental]、 [Social, Governance Management] に設定されます。
アクティブ	エントリーがアクティブかどうかを示すオプション。
タイプ	グループに含まれるアイテムのタイプを示す選択肢。選択肢は次のとおりです。 ▪ ユーザーエクスペリエンスページ ▪ 関連リスト
関連リスト	必要な関連リストがグループの下に表示されている必要があります。このオプションは、[タイプ] フィールドに [関連リスト] が含まれている場合にのみ表示されます。
スクリーニング	ページの特定のバリエーションまたはバージョン。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
ルーティング	UX 画面のパス。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。

c. [送信] を選択します。

タスクの結果

次の図は、グループ化された関連リストを示しています



持続可能な IT の構成

手順の順序に従ってプラグインを構成します 持続可能な IT 。

持続可能な IT プラグインを有効にする

は 持続可能な IT 、ハードウェア資産によって生成された排出量を効果的に管理および監視するために使用されます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 [すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて](#)。
2. 持続可能な IT フィルター基準と検索バーを使用してプラグイン (sn_esg_sustain) を検索します。

名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、[プラグインをアクティブにする] ダイアログボックスで、[アクティブ化] をクリックします。

注:

ドメイン分離と代理管理者がインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます：別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません：<プラグイン名> のプラグインの有効化。

測定基準の定義をフィルタリング持続可能な IT

フィルターを適用して、プラグインに付属 持続可能な IT する測定基準の定義を取得します。フィルターは、手動、自動、および計算済みの 3 つのタイプの測定基準の定義すべてに適用する必要があります。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > リスト > メトリクス。
2. 測定基準の定義のタイプを選択します。
3. フィルターアイコンを選択します。
4. [詳細表示] を選択します。
5. [Group (グループ)]、[is] (is)、[Sustainable IT (持続可能な IT)] の順に選択して、フィルターを作成します。
6. [更新] を選択します。

のエンティティを設定する方法 持続可能な IT

アプリケーションのデータ収集 持続可能な IT 用にエンティティを設定するには、手動と自動の 2 つの方法があります。いずれかを選択して、データの収集に進むことができます。

エンティティは、次のいずれかの方法で設定できます。

- cmdb_ci_datacenter テーブルを使用してエンティティを作成します。エンティティを作成したら、各エンティティの場所を追加できます。詳細については、「[データセンターの新しいエンティティの作成](#)」を参照してください。通常、この方法はエンティティを構成するための推奨される方法です。
- データセンターのエンティティを手動で作成し、エンティティタイプに追加します。その後、エンティティタイプが測定基準の定義に追加され、測定基準の定義でさまざまなデータセンターからデータを収集できるようになります。詳細については、「[データセンターの 持続可能な IT エンティティの手動セットアップ](#)」を参照してください。

データセンターの新しいエンティティの作成

cmdb_ci_datacenter テーブルを使用して、すべてのデータセンターのエンティティを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > リスト > スコーピング > すべてのエンティティ。
2. [New (新規)] を選択します。
3. [既存のレコードを参照] オプションが選択されていることを確認します。
4. [テーブル] フィールドで、[cmdb_ci_datacenter] を選択します。
5. [適用先レコード] フィールドで、追加するデータセンターを選択します。

6. [場所] フィールドで、データを収集するデータセンターの場所を選択します。
7. [クラス] フィールドで、[サイト] を選択します。
8. データを収集する測定基準の定義にエンティティを追加します。
9. 測定基準の定義フォームを保存します。

タスクの結果

メトリック定義が実行されると、選択したデータセンターのメトリックが収集され、ダッシュボードに表示されます 持続可能な IT。

データセンターの 持続可能な IT エンティティの手動セットアップ

データセンターのエンティティを作成し、エンティティタイプに追加します。その後、エンティティタイプが測定基準の定義に追加され、測定基準の定義でさまざまなデータセンターからデータを収集できるようになります。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

データセンターに関連する排出量データを収集するには、エンティティに一意の名前を付け、すべてのデータセンターの場所からデータを取得できるように場所に関連付ける必要があります。たとえば、「石炭からのエネルギー」という名前の測定基準定義を使用する場合、測定基準の実行時にバンガロール、ニューヨーク、パリ、ベルリンなどの 4 つの場所からの石炭エネルギー排出量データが必要であることを意味します。このタスクを実行するには、New York、Bangalore などの名前のエンティティを作成する必要があります。アプリケーションを使用するには 持続可能な IT、エンティティを作成するときに、その場所をエンティティに追加する必要があります。その後、エンティティタイプ内でエンティティをグループ化できます。たとえば、エンティティタイプを「データセンター」と呼ぶことができます。このエンティティタイプは、「石炭からのエネルギー」という名前の測定基準定義に追加されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > スコーピング > すべてのエンティティ**。
2. Paris データセンターなどの名前で新しいエンティティを作成します。
新しいエンティティの作成方法については、「」を参照してください [エンティティの作成](#)。エンティティの作成時に使用する名前は、ダッシュボードに表示される 持続可能な IT 名前です。エンティティフォームの [場所] フィールドに値を入力することが重要です。特定のデータセンターに複数の場所がある場合は、それに応じてエンティティに名前を付けることができます。
3. データセンターと呼ばれるエンティティタイプを作成します。
新しいエンティティの作成方法については、「」を参照してください [エンティティタイプの作成](#)。エンティティの作成時に使用する名前は、ダッシュボードに表示される 持続可能な IT 名前です。
4. 作成したエンティティをデータセンターエンティティタイプに追加します。
5. 測定基準の収集に使用する測定基準の定義にエンティティタイプを追加します。

タスクの結果

測定基準が実行されると、4 つのエンティティすべてのデータが収集され、ダッシュボードに表示されます 持続可能な IT。

マップマーカの構成

ダッシュボードの 持続可能な IT [IT フットプリントマップ] タブに表示するアイテムを設定します。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > Sustainable IT > マップマーカーク構成**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

マップマーカーク構成テーブル

フィールド	説明
名前	構成の名前。
測定基準の定義	に関連する 持続可能な IT アクティブな測定基準の定義。
マップマーカークアイコン	マップ上で構成を表すために使用されるアイコン。
デフォルトでマップに表示	マップの初期ロード中に、デフォルトでマップ上に構成を表示するオプション。
アクティブ	構成をアクティブとしてマークするオプション。マップの初期ロード中は、アクティブな構成のみがマップに表示されます。
エンティティクラス	選択した測定基準の定義に関連付けられたエンティティの一意のエンティティクラス。
デフォルトのアイコンの色	マップに表示されるときアイコンの 16 進数のカラーコード。このフィールドで自動的に設定されるデフォルトの色を変更できます。

4. **[送信]** を選択します。

次のタスク

データ範囲の構成を定義します。「[マップデータ範囲の構成](#)」を参照してください。

マップデータ範囲の構成

測定基準データ値に基づいてマップマーカークを分類するための基準を定義します。値の範囲を指定し、その範囲内にあるマーカークに対応する分類と色を割り当てることができます。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > Sustainable IT > マップマーカーク構成**.
2. データ範囲を追加するマップマーカーク構成を選択して開きます。
3. **[New (新規)]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

マップデータ範囲の構成

フィールド	説明
名前	データ範囲の名前。たとえば、高エミッションです。
下限間隔	設定する範囲内の最小値。
マップマーカ構成	範囲を定義する構成の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
分類	上限間隔と下限間隔内の値に基づいて範囲に割り当てられる分類。たとえば、250000 CO2e 排出量の範囲は Good として分類できます。
上限間隔	設定する範囲内の最高値。
アイコンの色	指定された範囲のマップに表示されるときアイコンの 16 進数のカラーコード。

5. [送信] を選択します。

を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、信頼できるソースコンテンツをインストール **ESG Content Accelerator**

選択したフレームワークをアクティブ化または更新し、選択したフレームワークの信頼できるソースコンテンツを選択します。これにより、フレームワークと、選択した信頼できるソースコンテンツおよび測定基準の定義がインスタンスにインストールされます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース**。
2. **[ESG Content Accelerator]** を選択します。
3. 必要なフレームワークのバージョンを選択します。
 - a. [アクティブ化] を選択します。
 - b. 免責事項を読み、[同意する] を選択します。
4. 引用ページで、必要な引用を選択します。
5. [次へ] を選択します。
6. [測定基準の定義] ページで、必要な測定基準の定義を選択します。
7. [送信] を選択します。
8. フレームワークを更新するには、フレームワークを選択して **更新**します。

ESG の信頼できるソースコンテンツをフィルター

ESG ドメインに固有の信頼できるソースコンテンツのみを表示するには、機能ドメインを [環境 (Environmental)]、[ソーシャル (Social)]、[ガバナンス (**Governance**)] に設定します。ドメインを選択するこの機能により、自分に関連する引用のみを表示できます。同じ手順が各種法令・基準等にも適用されます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.reporting_disclosure_manager

このタスクについて

インスタンス内の引用と各種法令・基準等を表示すると、利用可能なすべての引用と各種法令・基準等が表示されます。すべての引用や各種法令・基準等がドメインに関連しているわけではありません。この場合、フィルターを適用して、ドメインに固有のドキュメントのみを表示できます。フィルターを適用しても、関連する引用または各種法令・基準等が表示されない場合は、ドキュメントの機能ドメインが [環境]、[社会]、[ガバナンス] に設定されていないことを意味します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示要件 > 信頼できるソースコンテンツ**。
2. フィルターアイコンを選択します。
3. [詳細表示] を選択します。
4. [機能ドメイン]、[次の値を含む]、[環境]、[ソーシャル]、[ガバナンス] を選択して、フィルターを構築します。
5. [更新] を選択します。

関連情報

[Create or deactivate a citation](#) 

ESG Management でのエンティティの管理

組織内のさまざまな事業部門など、投資先として希望するさまざまなエンティティを評価するために、投資家やレポート機関が 環境、社会、ガバナンス管理 (ESG) の略である ESG を使用する方法について説明します。

エンティティには、ユーザー、プロセス、部門、またはアプリケーションを指定できます。たとえば、データセンターからの炭素排出量を削減することが目標である場合は、データセンターをエンティティと見なすことができます。

別の例として、子会社を持つ会社であるとします。その目標は、関連会社の温室効果ガス排出量 (GHG) を測定することです。会社と子会社の両方がエンティティです。会社が親エンティティで、子会社が子エンティティです。通常、親エンティティが子エンティティの GHG のレポートと測定を処理します。

ESG Management 戦略の一環として、ステークホルダーに開示する必要があります。ESG Management 開示は、組織の 環境、社会、ガバナンス管理 パフォーマンスに関連するデータの開示を指します。これらの開示は、エンティティに関連付けられている目標、ターゲット、および測定基準に関するものです。投資家は、これらの開示およびその他の測定基準を使用して、ESG パラメーターに基づいてエンティティのパフォーマンスを算定し評価します。

子エンティティを持つ親エンティティは、ダウnstロームエンティティを持つと言われます。親エンティティを持つ子エンティティは、アップストリームエンティティを持つと言われます。

エンティティを作成した後、エンティティクラスを個別に定義するか、既存のエンティティクラスにリンクさせることによって、類似のエンティティにタグを付けることができます。

エンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティにタグを付けたり、エンティティに関する概念情報を追加したりするために使用されます。たとえば、3 つの都市に支店がある会社を考えてみましょう。オフィス

スペースはエンティティと見なされますが、これらのエンティティのエンティティクラスはオフィスのロケーションです。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、フィルタリング属性に基づくエンティティをまとめたものです。エンティティタイプは、同じ属性を持つエンティティのセットを定義します。エンティティタイプは、一連のフィルター条件に基づくエンティティを記述および識別するために使用されます。

従業員と製品の 2 つのエンティティタイプを考えてみましょう。各エンティティタイプには独自の属性があります。

従業員の場合、その属性は従業員番号、名前、部門、および肩書きです。会社のデータベースの従業員テーブルでは、従業員のサンプル属性が、1001 (従業員番号)、Paul (名前)、マーケティング (部門)、および PM (肩書き) として E1 行に表示されます。

製品の場合、その属性は製品 ID、名前、コスト、および通貨です。会社のデータベース内の製品テーブルでは、エネルギー効率の高い製品のサンプル属性が、800 (製品 ID)、Solar Panel (名前)、200 (コスト)、USD (通貨) として P1 行に表示されます。

エンティティとエンティティタイプは、1 対多の関係にすることができます。たとえば、「希望」というエンティティは「ユーザー」というエンティティタイプと「組織」というエンティティタイプを持つことができます。

関連情報

エンティティの作成

エンティティの作成

エンティティを作成し、目標に対してそのパフォーマンスを測定します。エンティティを定義すると、エンティティの所有者も識別されます。エンティティを定義すると、ESG Management の目標がエンティティに適用されます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > すべてのエンティティ**。
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[新しいエンティティ] フォーム

フィールド	説明
エンティティ	
既存のレコードを参照	新しいエンティティを既存のレコードに対して参照するオプション。
テーブル	エンティティを作成するために照会するテーブル。
適用するレコード	選択したテーブルに関連付けられているレコード。
名前	エンティティの名前。

フィールド	説明
所有者	システム管理者などのエンティティの所有者の詳細。
アクティブ	エンティティがアクティブかどうかを示すオプション。
クラス	アプリケーションやビジネスエンティティなどのエンティティに関連付けられているクラスの名前。
ロケーション	所番地、市区町村、都道府県、国などの詳細を含むエンティティのロケーションレコード。
説明	エンティティの説明。
コンプライアンス	
証明頻度	エンティティに添付されているコントロールの証明の頻度。選択肢は次のとおりです。 ○ 日次 ○ 週次 ○ 毎月 ○ 四半期ごと ○ 半年ごと ○ 年次

4. エンティティを保存するには、[保存] をクリックします。



注:

[新しいエンティティ (New Entity)] フォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しいエンティティが作成されると、[概要] タブ、[詳細] タブ、およびその他の関連リストがフォームに表示されます。

タスクの結果

エンティティが作成されます。[概要] タブ、[階層] タブ、および関連リストを示した [新しいエンティティ (New Entity)] フォームが表示されます。

- エンティティタイプ
- ダウンストリームリスク
- ダウンストリームのコントロール
- ダウンストリームエンゲージメント
- ダウンストリームの問題
- ダウンストリームタスク
- ポリシー例外
- コンテンツ参照
- 目標

i 注:

一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティフォームに表示されます。たとえば、[ダウンストリームリスク] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ダウンストリームエンゲージメント] 関連リストは、Audit Management アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。IRM ライセンスを持っている場合にのみ、[ダウンストリームのコントロール]、[ダウンストリームの問題]、および [ポリシー例外] の関連リストが表示されます。

次のタスク

エンティティの更新

エンティティの更新

既存のエンティティの詳細を更新します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > すべてのエンティティ**.
2. リストからエンティティをクリックします。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[概要] タブ	エンティティのコンプライアンスステータスとリスクステータス。問題、コントロール、およびポリシー例外の詳細の追跡。このフィールドは、ステータスの概要と追跡の詳細を表示するために自動的に設定されます。
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。[詳細] タブの詳細については、「 エンティティの作成 」を参照してください。
[階層] タブ	選択したエンティティのアップストリームエンティティとダウンストリームエンティティ。子エンティティを持つ親エンティティは、ダウンストリームエンティティを持つと言われます。親エンティティを持つ子エンティティは、アップストリームエンティティを持つと言われます。エンティティを選択し、[追加] をクリックして、アップストリームまたはダウンストリームエンティティを親エンティティに追加します。
関連リスト	
エンティティタイプ	エンティティタイプの詳細、説明、エンティティタイプのフィルター条件、およびコンプライアンススコア (%)。

フィールド	説明
ダウンストリームリスク	番号、名前、エンティティ、クラス、リスクステートメント、リスクアセスメント方法論、所有者グループ、エンティティの所有者など、選択したエンティティのダウンストリームリスクの詳細。新しいリスクステートメントを追加するには、[追加] をクリックします。新しいリスクステートメントを作成するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームのコントロール	名前、番号、エンティティ、コントロール目標、状態、ステータス、免除、所有者、説明などのダウンストリームコントロールの詳細。新しいダウンストリームコントロールを追加するには、[追加] をクリックします。
ダウンストリームエンゲージメント	名前、番号、タイプ、親計画、ステータス、エンゲージメントリード、残りの経費予算 (%)、残りのリソース予算 (%)、エンゲージメント開始予定などの、ダウンストリームエンゲージメントの詳細。新しいダウンストリームエンゲージメントを作成するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームの問題	ダウンストリームの問題の詳細 (名前、番号、問題ソース、問題タイプ、ステータス、問題マネージャー、担当者、優先度、期日など)。新しい問題を追加するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームタスク	名前、番号、親、ステータス、担当者、終了予定日などのダウンストリームタスクの詳細。
ポリシー例外	名前、番号、ステータス、サブステート、ポリシー、コントロール目標、問題、理由、要求者、有効開始日、有効期限、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照、説明、バージョンなど、エンティティのコンテンツ参照の詳細。新しいコンテンツ参照を追加するには、[追加] をクリックします。
目標	目標、目標の所有者、状態、ステータス、進捗状況、開始日、終了日など、エンティティに関する目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。

i 注:

一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティフォームに表示されます。たとえば、[ダウンストリームリスク] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ダウンストリームエンゲージメント] 関連リストは、Audit Management アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。IRM ライセンスを持っている場合にのみ、[ダウンストリームのコントロール]、[ダウンストリームの問題]、および [ポリシー例外] の関連リストが表示されます。

4. エンティティへの更新を保存するには、[保存] をクリックします。

5. エンティティを廃止するには、[廃止] をクリックします。
6. エントリを削除するには、[削除] をクリックします。
7. アップストリームエンティティ、ダウンストリームエンティティ、エンティティクラス、およびエンティティに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に探索するには、[**360 度ビュー (360° view)**] をクリックします。

エンティティタイプの作成

システム内のエンティティのエンティティタイプを作成します。エンティティタイプを使用すると、同じ属性を持ち、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース。
2. [スコーピング] で [エンティティタイプ] を選択し、[新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいエンティティタイプフォーム

フィールド	説明
名前	エンティティタイプの名前。
アクティブ	エンティティタイプをアクティブに設定するオプション。
コンプライアンススコア (%)	エンティティタイプのコンプライアンススコア。値はパーセンテージです。このフィールドは自動的に設定されます。
説明	エンティティタイプの説明。

4. エンティティタイプを保存するには、[保存] をクリックします。

注:

新しいエンティティタイプフォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しいエンティティタイプが作成されると、[詳細] タブおよびその他の関連リストがエンティティタイプフォームに表示されます。

5. エンティティタイプを有効にするには、次の手順を実行します。

- a. [アクティブ化] をクリックします。

「このエンティティタイプを有効にしてもよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

- b. エンティティタイプを有効にするには、[OK] をクリックします。

6. エンティティタイプを削除するには、[削除] をクリックします。

タスクの結果

エンティティタイプが作成されます。新しいエンティティタイプフォームが [詳細] タブと関連リストとともに表示されます。

- エンティティ
- リスクフレームワーク
- リスクステートメント
- ポリシー
- コントロール目標
- エンティティフィルター
- ポリシー例外
- コンテンツ参照

i 注:

一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティタイプフォームに表示されます。たとえば、[リスクフレームワーク] 関連リストと [リスクステートメント] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ポリシー]、[コントロール目標]、および [ポリシー例外] の関連リストは、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

次のタスク

。 [エンティティタイプを更新すること](#)もできます。

エンティティタイプの更新

既存のエンティティタイプを更新して、エンティティフィルター、ポリシー、およびコントロール目標を追加します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース。
2. [スコーピング] の [エンティティタイプ] からエンティティタイプをクリックします。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティタイプのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。詳細については、「 エンティティの作成 」を参照してください。
関連リスト	
エンティティ	エンティティの詳細、エンティティの条件 (エンティティが手動で作成された場合)、およびコンプライアンススコア (%)。
エンティティフィルター	エンティティフィルタータイプ、エンティティのテーブル、エンティティフィルターのフィルター条件、使用所有者フィールド、および所有者フィールドの詳細。

フィールド	説明
リスクフレームワーク	選択したエンティティタイプのリスクフレームワークの詳細。[追加] をクリックして、新しいリスクフレームワークを追加します。
リスクステートメント	タイトル、フレームワーク、カテゴリ、説明などのリスクステートメントの詳細。[追加] をクリックして、新しいリスクステートメントを追加します。
ポリシー	名前、番号、タイプ、所有者、ステータス、有効開始日、有効期限、コンプライアンススコア (%) などのポリシーの詳細。[追加] をクリックして新しいポリシーを追加します。
コントロール目標	カテゴリ、タイプ、分類、コンプライアンススコア (%) などのコントロール目標の詳細。[追加] をクリックして新しいコントロール目標を追加します。
ポリシー例外	名前、番号、要求者、理由、ポリシー、コントロール目標、問題、ステータス、サブステート、有効開始日、有効期限、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照、説明、バージョンなど、コンテンツ参照の詳細。新しいコンテンツ参照を追加するには、[追加] をクリックします。

i 注:

一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティタイプフォームに表示されます。たとえば、[リスクフレームワーク] 関連リストと [リスクステートメント] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ポリシー]、[コントロール目標]、および [ポリシー例外] の関連リストは、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

4. エンティティへの更新を保存するには、[保存] をクリックします。
5. エンティティを廃止するには、[廃止] をクリックします。
6. エントリを削除するには、[削除] をクリックします。
7. アップストリームエンティティ、ダウストリームエンティティ、エンティティクラス、およびエンティティに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

エンティティクラスの作成

エンティティに関連付けられるエンティティクラスを作成します。エンティティクラスの親クラス、ルートエンティティ、および階層を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加するために使用されます。エンティティクラスは、部門、事業部門、ビジネスサービスなどの同じ属性を持つエンティティのコレクションを表します。エンティティクラスに基づいてエンティティに関するデータを収集できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > エンティティクラス**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいエンティティクラスフォーム

フィールド	説明
名前	エンティティクラスの名前。
親クラス	エンティティクラスに関連付けられている親クラス (会社や部門など)。
ルートである	新しいエンティティクラスにルートエンティティがあるかどうかを確認する条件。オプションは [True] または [False] です。
階層	新しいエンティティクラスの階層 (アプリケーションやビジネスなど)。

4. エンティティクラスを保存するには、**[保存]** をクリックします。

i 注:

新しいエンティティクラスフォームには、**[詳細]** タブのみが表示されます。エンティティクラスが作成された後にのみ、**[詳細]** タブ、**[エンティティ]** 関連リスト、および **[子クラス]** 関連リストがエンティティクラスフォームに表示されます。

次のタスク

[エンティティクラスの更新](#)

エンティティクラスの更新

エンティティに関連付けられている既存のエンティティクラスを更新します。エンティティクラスは、エンティティにタグを付けたり、エンティティに関する概念情報を追加したりするために使用されます。

始める前に

必要なロール: `sn_esg.program_manager`

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > エンティティクラス**.
2. エンティティクラスを選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティクラスのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。詳細については、「 エンティティクラスの作成 」を参照してください。

フィールド	説明
関連リスト	
エンティティ	名前、所有者、コンプライアンススコア (%) などのエンティティの詳細。新しいエンティティを追加するには、[新規] をクリックします。
子クラス	選択した親エンティティクラスの子クラスの詳細。親エンティティクラスの新しい子エンティティクラスを追加するには、[新規] をクリックします。

4. エンティティクラスを保存するには、[保存] をクリックします。
5. アップストリームエンティティ、ダウンストリームエンティティ、エンティティ、およびエンティティクラスに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

GRC: Metrics

ServiceNow GRC: Metrics アプリケーションを使用すると、組織は目標とターゲットを追跡して、データを収集し、データをレポートできます。

詳細を読む	構成	使用
 測定基準管理者が GRC: Metrics アプリケーションを使用して目標を追跡する方法について説明します。	 アプリケーションを構成します GRC: Metrics 。	 この GRC: Metrics アプリケーションは、測定基準の定義の作成、測定基準のデータの提供、統合の管理などのタスクに使用します。

参照



で GRC: Metrics インストールされるフィールド、テーブル、ロール、プロパティなどのコンポーネントの詳細を取得します。

GRC: Metrics の探索

測定基準は、組織のプロセスの有効性を測定および評価するために使用します。1 つの測定基準または組み合わせた測定基準により、システム、コンポーネント、またはプロセスに関するインサイトが得られます。GRC: Metrics アプリケーションは、他のアプリケーションでプロセスのパフォーマンスを評価、比較、追跡することを可能にします。

測定基準

GRC: Metrics アプリケーションは、ServiceNow Store から ESG Management アプリケーションとともに自動的にインストールされます。測定基準の定義と測定基準の読み取り、作成、更新の責任を担うユーザーロールは、ESG Management 測定基準マネージャー (sn_esg.metrics_manager) です。

GRC: Metrics アプリケーションでは、[測定基準] フォームを使用して測定基準を定義できます。測定基準は、測定基準の定義とエンティティの組み合わせです。測定基準の定義をエンティティに適用すると、測定基準が作成されます。測定基準が定義されると、プロセスの有効性とパフォーマンスを追跡するためのデータが収集されます。たとえば、インシデントの解決にかかる時間を計算することでインシデント解決プロセスの有効性を測定する測定基準を考えてみます。

すべての組織には、独自の測定基準分析を構築および構造化するためのさまざまなデータソースがあります。有用な測定基準を確立するために、測定基準マネージャーは最初に目標を評価して設定する必要があります。次に、マネージャーは、ビジネス上の意思決定と統合される測定基準のターゲットを設定します。

定性的測定基準と定量的測定基準

測定基準は、定性的測定と定量的測定に分類できます。

ESG Management の定性的測定基準は、他の情報に基づいて作成した主観的な意見から得られます。ESG Management セクターの定性的測定基準の例には、ブランドの信頼性、企業価値などがあります。

ESG Management 内の定量的測定基準は、特定の式で具体的な値として測定できる測定基準です。組織の定量的測定基準の例には、レポートされるエネルギーの総使用量、地域別のエネルギー使用量などがあります。

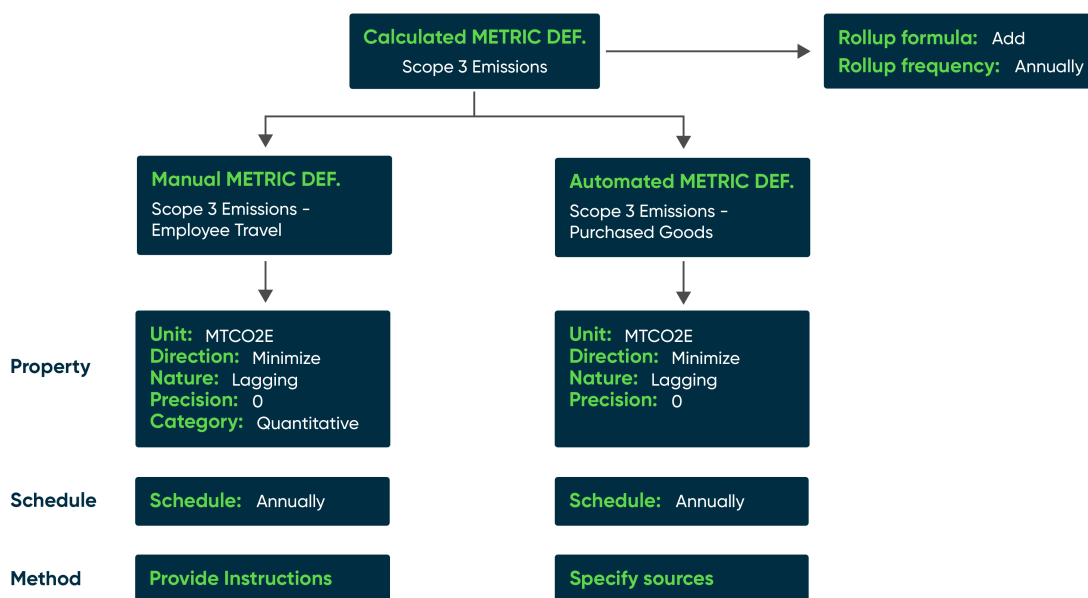
測定基準の例

組織内のビジネスエンティティの温室効果ガス排出量を測定する例を考えてみましょう。温室効果ガス排出は、国際的な温室効果ガス (GHG) プロトコルによりスコープと呼ばれている 3 つのグループに分類されます。

従業員の出張と購入品というカテゴリに対して、スコープ 3 の排出の測定基準を測定するとします。従業員の出張ポリシーは、組織内のすべての従業員に適用されます。測定基準の定義で手順を指定することで、従業員の出張ポリシーの測定基準を手動で収集できます。

一方、購入品の測定基準は、測定基準の定義で指定された条件、メソッド、スケジュール、およびコアプロパティに基づいて自動的に収集されます。測定基準の収集プロセスを次の図に示します。

測定基準の定義



エンティティ別の測定基準データ

エンティティ別の測定基準データテーブル (sn_grc_metric_data_by_entity) には、エンティティの測定基準の定義データと測定基準データ、およびエンティティ階層で定義された親エンティティの集計データが入っています。たとえば、ESG レポート開示マネージャーが特定の場所での年間総排出量を把握する必要があり、その場所に複数のサブ場所がある場合は、データを集計してレポート目的に使用することもできます。たとえば、組織の場所が日本であるとし、そして日本には東京と京都の 2 つのサブ場所があるとし、日本での 2022 年のスコープ 1 の年間総排出量を求める必要があるとし、時間次元機能を使用すれば、データを集計すると年間総排出量を出すことができます。レポート要件に応じて、四半期、週、または月のデータを集計することもできます。

GRC: Metrics のコンポーネント

測定基準は、測定基準の定義、測定基準データ、測定基準の定義データ、測定基準のデータタスクといった複数のコンポーネントで構成されています。これらの要素やパーツはすべて、さまざまな方法で測定基準の収集プロセスに貢献します。

測定基準の定義

測定基準の定義は、測定基準のコアプロパティの設定に役立つテンプレートレベルのレコードです。これらのプロパティには、測定基準の単位、方向、性質、精度、データ収集の頻度、およびカテゴリが含まれます。測定基準自体がスコアを収集して、定義された測定基準テンプレートにそのスコアが集計されます。測定基準の定義を作成して使用することのメリットは、このような測定基準の定義テンプレートを使用することで、測定基準を作成するプロセスを簡素化できることにあります。たとえば、複数の事業部門があり、それぞれの収益データを収集する必要があるとします。測定基準の定義がないと、事業部門ごとに個別のテンプレートを作成し、測定基準のプロパティを繰り返し指定する必要があります。しかし、測定基準の定義を使用すると、このタスクを簡素化できます。測定基準の定義を作成すれば、エンティティ（この場合は事業部門）を簡単に添付し、同じ作業を何度も行うことなく測定基準を収集できます。

GRC: Metrics アプリケーションには、次のタイプの測定基準の定義が入っています。

- 自動測定基準の定義：データは自動的に収集されます。
- 手動測定基準の定義：データは手動で収集されます。
- 計算済み測定基準の定義：データは、他の子測定基準からデータを集計することによって収集されます。

測定基準データ

測定基準を実行すると、測定基準データが作成されます。手動測定基準の場合は、測定基準データタスクがクローズされると、測定基準データの値が測定基準データタスクからコピーされます。スクリプト化された自動測定基準の定義の場合は、スクリプトを実行すると値が更新されます。基本的な自動測定基準の定義の場合は、選択したテーブルから値が更新されます。[不一致 (%)] フィールドには、現在の期間と前の期間の測定基準データの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間の測定基準データを参照します。

測定基準の定義データ

測定基準の定義が実行されて集計されると、測定基準の定義データが自動的に作成されます。測定基準の定義データのページの [不一致 (%)] フィールドに、現在の期間と前の期間の測定基準の定義データの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間の測定基準の定義データを参照します。

測定基準のデータタスク

測定基準のデータタスクは、手動測定基準の定義にのみ適用されます。このタスクは、手動測定基準の定義が実行され、データ所有者がこれらのタスクに対する応答を手動で入力するたびに生成されます。測定基準データテーブルを使用すると、複数の測定基準データタスクに応答を入力できます。詳細については、「[測定基準データテーブル](#)」を参照してください。

測定基準の定義のタイプ

測定基準マネージャーは、測定基準の定義を作成することで、測定基準を定義します。測定基準の定義はテンプレートレベルのレコードです。測定基準の定義では、単位、方向、性質、精度、カテゴリなどの測定基準のコアプロパティを設定します。測定基準はスコアを収集し、これらのスコアは測定基準の定義にロールアップされます。

GRC: Metrics アプリケーションは、次のタイプの測定基準の定義を提供します。

- 自動測定基準の定義：データは自動的に収集されます。
- 手動測定基準の定義：データは手動で収集されます。
- 計算済み測定基準の定義：データは、他の子測定基準からスコアを集計することによって収集されます。

これらのタイプの測定基準の定義については、以降のセクションで詳しく説明します。

自動測定基準の定義

自動測定基準の定義では、測定基準のプロパティ、メソッド、スケジュールなど、測定基準の定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。このメソッドの場合、測定基準マネージャーは、測定基準データの収集に使用するソーステーブルまたはスクリプトと、測定基準データをフィルタリングするためのフィルタリング基準を指定します。次のビデオを参照してください。 [自動測定基準の定義の作成](#)。

手動測定基準の定義

手動測定基準の定義では、データ収集のモードは手動です。特定の測定基準のデータ所有者は、手順に従って測定基準データを提供します。測定基準マネージャーは、測定基準の定義に対し測定基準のプロパティ、メソッド、およびスケジュールを定義する必要があります。このメソッドの場合、測定基準マネージャーとして測定基準の定義の手順を指定します。また、データ所有者タイプ、データ所有者、承認の詳細などのデータ収集の詳細を指定します。

手動測定基準の定義では、測定基準の定義で定義されている頻度に応じて、測定基準データタスクが生成されます。測定基準マネージャーは、タスクのデータを提供するデータ所有者にタスクをアサインできます。詳細については、「[手動測定基準の定義の作成](#)」を参照してください。測定基準データタスクが作成されると、システムで生成されたメール通知がタスク所有者に送信されます。測定基準データの所有者は、測定基準タスクモジュール () を使用して複数の測定基準のデータを提供できます。詳細については、「[複数の測定基準のデータの入力](#)」を参照してください。

測定基準データタスクにはそれぞれ、手動測定基準の定義フォームで定義された期日があります。デフォルトでは、期日は 8 時 ~ 5 時のスケジュールに従って決まります。ただし、ESG 管理者がスケジュールを変更することもできます。詳細については、「[新規スケジュールを作成します](#)」を参照してください。ESG 管理者がスケジュールを上書きする場合は、プロパティを `sn_grc_metric.metric_data_task_schedule` 変更できます。

測定基準の定量的カテゴリと定性的カテゴリはいずれも、手動測定基準の定義を使用して作成できます。

手動測定基準の定義を自動測定基準の定義に、自動測定基準の定義を手動測定基準の定義に変換することができます。手動測定基準の定義にオープンタスクがある場合は、手動測定基準の定義を変換する前に、まずそのタスクをクローズする必要があります。

計算済み測定基準の定義

計算済み測定基準の定義は、その子からスコアを計算します。これには、自動および手動の測定基準の定義、測定基準 (定量的)、および同じ頻度のその他の計算済み測定基準の定義を含めることができます。測定基準マネージャーは、測定基準の定義スコアの計算方法と計算頻度を指定する必要があります。

計算済み測定基準の定義は、その子からスコアをロールアップします。計算済み測定基準の定義で定義されるロールアッププロパティは、ロールアップ式とロールアップ頻度のスケジュールから構成されています。計算済み測定基準の定義には、自動および手動の測定基準の定義と、その子として、親の計算済み測定基準の定義と同じ頻度の測定基準を含めることができます。詳細については、「[計算済み測定基準の作成](#)」を参照してください。

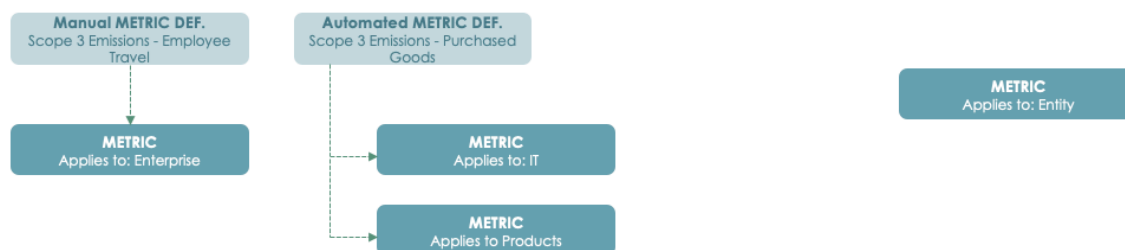
エンティティへの測定基準の定義の適用

測定基準の定義を組織内のエンティティに適用できます。各エンティティに測定基準を定義する代わりに、測定基準の定義を一旦定義してから、その測定基準の定義を複数のエンティティに適用することができます。

たとえば、組織内のエンティティの温室効果ガス排出量を測定するとします。各エンティティの測定基準を定義するのは時間がかかるプロセスです。測定基準の定義を作成することで、測定基準を一旦定義してから、その測定基準の定義をエンティティに適用することができます。

次の図は、測定基準データ定義をエンティティに適用する方法を示しています。購入品の測定基準カテゴリに対する自動測定基準の定義がある場合は、その測定基準を組織内の製品エンティティと IT エンティティに適用できます。従業員の出張などの手動測定基準の定義がある場合は、出張ポリシーが企業全体の全員に適用されるため、組織内の Enterprise エンティティに測定基準を適用できます。

エンティティへの測定基準データ定義の適用



測定基準のしきい値

測定基準のコンテキストでは、しきい値は、測定基準のパフォーマンスを評価するために使用される事前定義された値または制限を参照します。これらのしきい値は通常、特定の基準または目標に基づいて定義され、測定値またはパフォーマンスが目的のレベルを満たしているか、超えているか、下回るかを判断するための参照ポイントとして機能します。

しきい値の 3 色 (赤、オレンジ、緑) は、パフォーマンスまたはステータスのさまざまなレベルを示すために一般的に使用されます。これらの色はステータスを示します。緑色は測定基準が期待どおりに良好に実行されていることを示し、オレンジは注意または警告を示し、赤色は重大な状況を示します。たとえば、測定基準の方向を [最小化] に設定して、汚染を減らすことを目的とした測定基準の定義を確立したシナリオを考えてみましょう。この場合、測定基準値は指定されたしきい値よりも低くなければなりません。この要件は、汚染の増加を防ぎ、代わりにその削減を促進するという意図から発生します。測定基準値が定義された制限よりも高い場合、値は赤またはオレンジで表示されます。しきい値は、定量的測定基準の定義にのみ適用されます。

しきい値のタイプ

測定基準のしきい値には 2 つのタイプがあります。

- 静的：測定基準または測定基準の定義の静的しきい値は、測定基準を追跡するための制限として使用される固定値を参照します。
- 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージ差異は、方向と前の期間データの 2 つの要素に基づいて計算されます。たとえば、特定の地域の電力消費量を追跡し、2023 年 6 月の電力消費量の値が 700 kWh であるとして。測定基準と測定基準の定義の方向は [最小化] です。つまり、消費量を最小限に抑える必要があるため、これ以上増やすことは望ましくないと見なされます。2023 年 7 月に新しいデータを収集し、消費量が 1000 kWh に増加していることがわかりました。このしきい値のステータスを評価するには、さまざまなレベルの変更を表すさまざまなしきい値を定義します。これらのしきい値は、前の期間のデータ (この場合

は 2023 年 6 月から) との差異パーセンテージとして表されます。たとえば、しきい値の範囲を 5% から 10% に設定できます。6 月から 7 月までの変化率がこの範囲内にある場合、しきい値ステータスは「オレンジ」に分類されます。これは、中程度のレベルの変化があったことを意味し、測定基準が目的のターゲット値から逸脱しているが、まだ重大ではないことを示します。ただし、測定基準値の変化率が 15% を超えるか 15% に達すると、しきい値ステータスは「赤」に分類されます。この増加は、目的のターゲット値から大きく逸脱しているため、即時の注意または是正措置が必要な重大な変更を示しています。

関連情報

測定基準のしきい値の作成

測定基準ランディングページ

測定基準ランディングページには、すべての測定基準と測定基準の定義の概要が表示されます。

測定基準ランディングページには、次のルールを持つユーザーのすべての測定基準と測定基準の定義の統合ビューが表示されます。

- sn_esg.metrics_manager
- sn_esg.program_manager

測定基準アイコン () を使用して、測定基準ランディングページを起動できます。

測定基準ランディングページ

Metrics																																																											
ESG metrics Welcome, Oliver Jones																																																											
Overview Filter by All																																																											
Open metrics 173 Overdue metrics 34 Metrics due in next 7 days 27 Awaiting approvals 0 Rejected 1																																																											
<table> <tr> <th>Name</th><th>Frequency</th><th>Data owner</th><th>Approver</th><th>Unit</th></tr> <tr> <td>Auto Entity count for Entity 1</td><td>Weekly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>#</td></tr> <tr> <td>Auto Entity count for Entity 2</td><td>Weekly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>#</td></tr> <tr> <td>Charitable causes supported - ACME Global</td><td>Annually</td><td>Gale Nolau</td><td>(empty)</td><td>#</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for Brisbane DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for Frankfurt DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for Hong Kong DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for Melbourne DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for New York DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for Paris DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage for San Diego DC</td><td>Monthly</td><td>(empty)</td><td>(empty)</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> </table> Showing 1-10 of 413 << < 1 2 3 4 5 > >> 10 rows per page					Name	Frequency	Data owner	Approver	Unit	Auto Entity count for Entity 1	Weekly	(empty)	(empty)	#	Auto Entity count for Entity 2	Weekly	(empty)	(empty)	#	Charitable causes supported - ACME Global	Annually	Gale Nolau	(empty)	#	CO2e emissions from energy usage for Brisbane DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for Frankfurt DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for Hong Kong DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for Melbourne DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for New York DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for Paris DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide	CO2e emissions from energy usage for San Diego DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
Name	Frequency	Data owner	Approver	Unit																																																							
Auto Entity count for Entity 1	Weekly	(empty)	(empty)	#																																																							
Auto Entity count for Entity 2	Weekly	(empty)	(empty)	#																																																							
Charitable causes supported - ACME Global	Annually	Gale Nolau	(empty)	#																																																							
CO2e emissions from energy usage for Brisbane DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for Frankfurt DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for Hong Kong DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for Melbourne DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for New York DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for Paris DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
CO2e emissions from energy usage for San Diego DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide																																																							
Aggregated metric data Filter by All																																																											
Metric definition groups General 14 Energy 2 Emissions 13 Water 1 Biodiversity 0																																																											
<table> <tr> <th>Name</th><th>Frequency</th><th>Unit</th></tr> <tr> <td>Approach to Stakeholder Engagement</td><td>Annually</td><td>(empty)</td></tr> <tr> <td>Auto Entity count</td><td>Weekly</td><td>#</td></tr> <tr> <td>Charitable causes supported</td><td>Annually</td><td>#</td></tr> <tr> <td>CO2e emissions from energy usage</td><td>Monthly</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e from hardware assets by location</td><td>Monthly</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>CO2e from hardware assets by model category</td><td>Monthly</td><td>Kilograms of carbon dioxide</td></tr> <tr> <td>Corporate grants</td><td>Annually</td><td>\$</td></tr> <tr> <td>CUE by Data Center</td><td>Monthly</td><td>Kilograms of carbon dioxide/Kilowatt-hour</td></tr> <tr> <td>WUE by Data center</td><td>Daily</td><td>(empty)</td></tr> <tr> <td>E-waste - Disposed</td><td>Monthly</td><td>Pounds</td></tr> </table> Showing 1-10 of 82 << < 1 2 3 4 5 > >> 10 rows per page					Name	Frequency	Unit	Approach to Stakeholder Engagement	Annually	(empty)	Auto Entity count	Weekly	#	Charitable causes supported	Annually	#	CO2e emissions from energy usage	Monthly	Kilograms of carbon dioxide	CO2e from hardware assets by location	Monthly	Kilograms of carbon dioxide	CO2e from hardware assets by model category	Monthly	Kilograms of carbon dioxide	Corporate grants	Annually	\$	CUE by Data Center	Monthly	Kilograms of carbon dioxide/Kilowatt-hour	WUE by Data center	Daily	(empty)	E-waste - Disposed	Monthly	Pounds																						
Name	Frequency	Unit																																																									
Approach to Stakeholder Engagement	Annually	(empty)																																																									
Auto Entity count	Weekly	#																																																									
Charitable causes supported	Annually	#																																																									
CO2e emissions from energy usage	Monthly	Kilograms of carbon dioxide																																																									
CO2e from hardware assets by location	Monthly	Kilograms of carbon dioxide																																																									
CO2e from hardware assets by model category	Monthly	Kilograms of carbon dioxide																																																									
Corporate grants	Annually	\$																																																									
CUE by Data Center	Monthly	Kilograms of carbon dioxide/Kilowatt-hour																																																									
WUE by Data center	Daily	(empty)																																																									
E-waste - Disposed	Monthly	Pounds																																																									

ランディングページには、次のセクションが表示されます。

- 概要
- 集計された測定基準データ

概要

[概要] セクションでは、次のタイルに手動測定基準のデータが表示されます。

- オープン測定基準の数：手動測定基準の定義のオープンタスクの数
- 測定基準データタスクが期日を過ぎている測定基準の数：測定基準データタスクが期限切れになっている測定基準の数。
- 今後 7 日以内に期限が切れる測定基準の数：次の 7 日間に測定基準を送信する必要がある測定基準の数。
- 測定基準データタスクの承認待ちの測定基準の数：承認されていない測定基準データタスクの数。
- 却下された測定基準の数：却下された測定基準データタスクの数。

タイルを選択すると、ページ上のデータがフィルターされます。提供されているレポート分類フィルターを使用して、表示されるデータをフィルターすることもできます。レポート分類フィルターに表示されるオプションは、ユーザーが構成できます。オプションの構成方法の詳細については、「[測定基準の定義のグループ化の作成](#)」を参照してください。

このページに表示されるデータは常に最新のデータです。

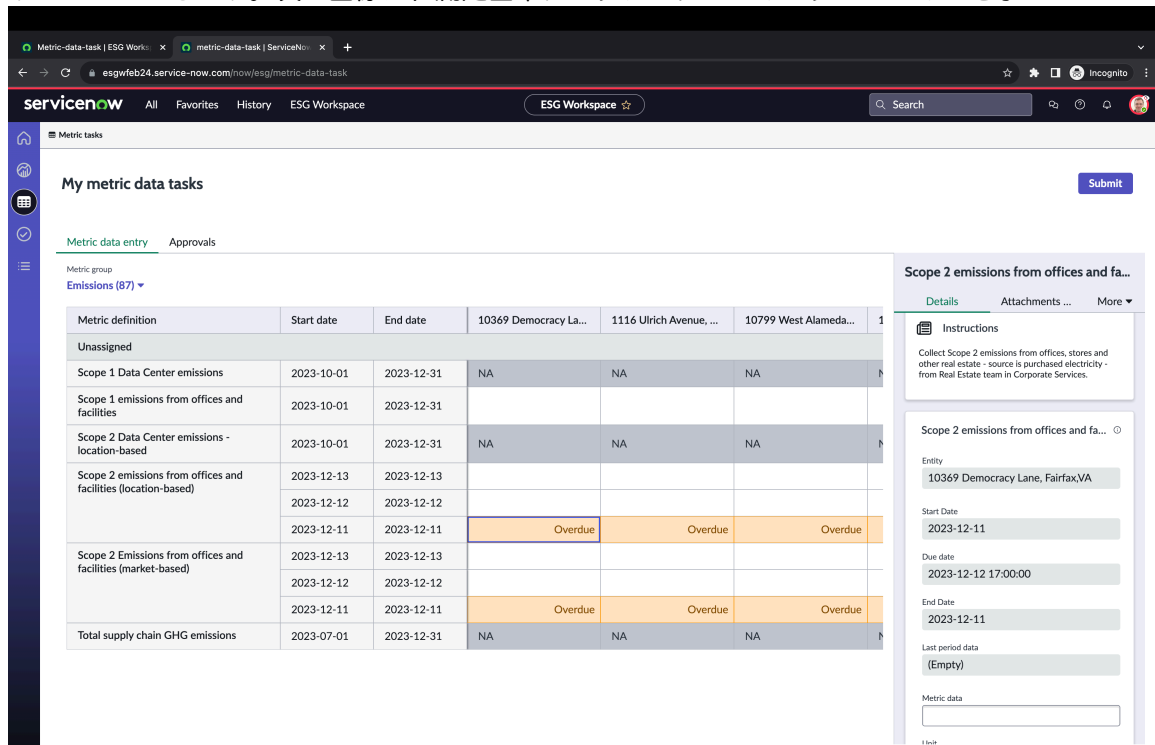
集計された測定基準データ

[集計された測定基準データ] セクションには、測定基準の定義のデータが表示されます。水平方向にスクロールしてタイルを選択すると、そのタイルに関連するデータが表示されます。タイルには、測定基準の定義で指定したグループが表示されます。たとえば、[排出量] を選択すると、排出量に関連するすべての測定基準の定義が表示されます。

測定基準データテーブル

測定基準データテーブルを使用すると、タスク管理ワークフローを備えたスプレッドシートのような使いやすいインターフェイスを使用して、組織全体の測定基準のデータを収集できます。

データ所有者は、測定基準データテーブル (📊) にアクセスして、自分にアサインされたタスクを完了することができます。次の画像は、測定基準データテーブルのインターフェイスを示しています。



す。

測定基準データテーブルには次のメリットがあります。

- 組織全体のデータ収集が簡素化されます。
- 複数のタスク間を移動しなくても、データ所有者が対応すべきすべての測定基準を 1 か所で表示できます。
- データに対するすべての変更と変更を行ったユーザーの監査記録を維持します。
- 測定基準をエンティティごとに分けて表示できます。
- データを入力する際に従うべき指示など、追加情報が参照用にデータ所有者に提供されます。
- ユーザーがコンテキストサイドパネルでファイルを添付し、関連するドキュメントとリンクを添付できるようになります。
- ESG プログラムマネージャーと測定基準マネージャーが、データ所有者から送信されたデータを確認し、コメント付きでデータを承認または却下できるようになります。
- データ所有者が [アクティビティ] タブで却下コメントを表示できるようになります。
- 定量的測定基準の過去 3 つのデータの傾向を確認できるようになります。
- オープンタスクがある測定基準グループを表示するためのフィルターが提供され、オープンタスクの数が括弧内に表示されます。
- タスクの承認者と承認ステータスを確認できます。
- 前の期間のデータと比較したときのデータの差異の割合が表示されます。
- 測定基準がしきい値を超えた場合に、しきい値ステータスが表示されます。
- 最後の期間のデータを確認できます。

測定基準の統合

測定基準統合ツールを使用すると、フラットファイルを使用してデータを正規化し、一括ロードすることで、サードパーティ ESG Management データを管理できます。フラットファイルおよび正規化データという用語は、データの電子的保存方法を指します。

測定基準の統合は、GRC: Metrics の一般的なインポートユーティリティツールであり、スプレッドシートなどの外部ソースから測定基準データにデータをインポートするために、複数の統合で使用できます。このツールは、さまざまなマッピング構成を使用して、既存の測定基準データの作成や更新に必要なデータを取得します。

測定基準統合ツールのメリットは次のとおりです。

- 一括データアップロード用のフラットファイル正規化を提供します。
- 独自の統合の構成を有効にするか、Watershed 統合などの ServiceNow によって提供されるデフォルト構成を使用します。
- 測定基準の定義の自動作成を有効にします。
- 一括でのデータ作成や更新を自動化する機能を提供します。
- エンティティタイプとエンティティの作成を自動化する機能を提供します。
- 測定基準の独自の正規化ルールとアップロードルールを設定する機能を提供します。
- 更新または作成されるデータのアップロード形式を確認するために、データのステージングを支援します。
- ユーザーが、エラーログを使用して、データベースにロードする前にデータをクリーンアップできるようにします。

[測定基準統合] フォームでは、[データマッピングを作成](#)することもできます。データマッピングを使用すると、測定基準の定義を使用して Watershed スプレッドシートなどの任意のデータソースの列をマッピングできます。システムに従ってデータがマッピングされていることを確認する必要があります。たとえば、Watershed でエンティティに「Office at Atlanta, US」という名前を付けているのに対して、測定基準の定義では「Atlanta, US-office」というエンティティ名が付いていることがあります。この違いにより、データのインポート時に不一致が発生します。この問題を防ぐには、データマッピングが正確であることを確認する必要があります。データをマッピングするときは、測定基準がエンティティ、エンティティタイプ、および測定基準の定義の組み合わせから派生されることを理解することが重要です。したがって、データマッピングに次のテーブルが必要です。

- sn_grc_profile
- sn_grc_profile_type
- sn_grc_metric_definition

GRC: Metrics の構成

GRC: Metrics を構成して、組織のニーズを満たすことができます。

測定基準管理者は、次のタイプの測定基準の定義を構成できます。

- [自動測定基準の定義](#)
- [手動測定基準の定義](#)
- [計算済み測定基準の定義](#)

手動測定基準の定義の作成

測定基準のデータを手動で収集するための手動測定基準の定義を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

手動測定基準の定義では、データ収集のモードは手動です。定性的および定量的測定基準を設定するためのオプションがあります。

i 注:

自動測定基準の定義または手動測定基準の定義を作成するためのフォームは、同じ sn_grc_metric_definition テーブルを指します。2 つのフォームの違いは収集のメソッドです。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 手動測定基準の定義**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
フィールドの詳細については、「[\[手動測定基準の定義\] のフィールド](#)」を参照してください。
4. **[保存]** をクリックします。

タスクの結果

測定基準の定義は [測定基準の定義] リストに保存されます。

次のタスク

エンティティタイプを関連付けて、測定基準を作成し、測定基準の定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「[測定基準の定義の更新](#)」を参照してください。

[手動測定基準の定義] のフィールド

[手動測定基準の定義] フォームのフィールドについて詳しく説明します。

新しい手動測定基準の定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	手動測定基準の定義の名前。たとえば、「インシデントの数」。
アクティブ	手動測定基準の定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	手動測定基準の定義の簡潔な説明。
カテゴリ	測定基準データのカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 • 定性的：定性的データは本質的に無形であり数値ではありません。プロセスまたはビジネスアクティビティの特性によって定義されます。 • 定量的：定量的データは本質的に有形であり数値で表されます。数値または重要業績評価指標によって定義されます。

新しい手動測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	注: [性質]、[方向]、[精度]、および [単位] の各フィールドは、手動測定基準の定義のカテゴリが [定量的] の場合にのみ表示されます。
集計方法	すべてのエンティティの測定基準データを計算するために使用される方法。たとえば、人員、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際の測定基準がある場合、各エンティティのスコアをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。集計方法の選択は、測定基準の収集の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間での規模やサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均がより適切であると思われます。最高のパフォーマンスを発揮するエンティティを特定するには最大値が適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定するには最小値が適切であると思われます。集計は、測定基準の定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。 • 合計：すべてのエンティティの測定基準データの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティの測定基準データの平均によって、単一のスコアが作成されます。 • 最大：すべてのエンティティの中で最も高い測定基準データが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低い測定基準データが単一スコアとして使用されます。
単位	手動測定基準の定義の単位。
精度	スコア的小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に 0 に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 の測定基準の定義で値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。

新しい手動測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
頻度	測定基準の定義でスコアを収集する必要がある頻度。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
最初の開始日	頻度に応じたデータ収集の測定基準定義の実行開始日。このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定量的] に設定されている場合に表示されます。
データコレクション	
データ所有者タイプ	手動測定基準の定義を担当するデータ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
データ所有者	手動測定基準の定義を担当するデータ所有者。リストからデータ所有者を選択します。
説明	データ所有者向けの説明。手動測定基準の定義の収集方法。
承認が必要	手動測定基準の定義に承認が必要かどうかを示すオプション。 i 注: [承認が必要] オプションを有効にすると、[承認者タイプ] フィールドと [承認者] フィールドが表示されます。
承認者タイプ	測定基準の定義の承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
承認者	測定基準の定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。

新しい手動測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	- 承認者：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 - 承認者グループ：[ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。
測定基準のプロパティ	
タイプ	スコアが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 - 自動 - 手動 [手動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	手動測定基準の定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 - ユーザー - ユーザーグループ
方向	測定基準を表示する方向。選択肢は次のとおりです。 - なし：測定基準の方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 - 最小化：目的の測定基準の方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。 - 最大化：目的の測定基準の方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。 - マイルストーン：測定基準の方向が適用されないが、測定基準がマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。
グループ	測定基準が関連する領域。
レポート分類	測定基準をカテゴリ分けする際に使用するタグ。
期日オフセット	測定基準データタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、測定基準の定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力した場合、測定基準データタスクの期日はその月の終了から 15 日後になります。
Enterprise 所有者	手動測定基準の定義のエンタープライズ所有者。

新しい手動測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
性質	手動測定基準の定義の性質。選択肢は次のとおりです。 - なし：測定基準の方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 - 先行 (予測型) 測定基準：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要な測定基準を使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要な測定基準により、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 - 遅行 (影響度を測定する) 測定基準：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行測定基準は、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。この測定基準により、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。この測定基準を経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行測定基準は、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 - 現在の測定基準：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在の測定基準は、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。この測定基準は、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	測定基準に関連するサブグループ。
主要測定基準	ビジネスの重要な測定基準であるかどうかを示すオプション。
機密性	

新しい手動測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
i 注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。
	i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

自動測定基準の定義の作成

測定基準のデータを収集するための自動測定基準の定義を作成します。測定基準の定義では、測定基準の方法と主要なプロパティ (測定基準の単位、方向、性質など) を指定します。

始める前に

必要なロール: `sn_grc_metric.manager`、`sn_risk.user`、および `sn_compliance.user`

このタスクについて

自動測定基準の定義では、測定基準の定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。条件では、測定基準データの収集に使用するテーブルを指定できます。たとえば、特定の月に記録されたすべてのインシデントのデータを取得する場合は、インシデントテーブルをデータ収集のソースとして指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 自動測定基準の定義**。
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
フォームのフィールドの詳細については、「」を参照してください [自動測定基準の定義のフィールド](#)。
4. **[Save (保存)]** をクリックします。

- i** 注:
- 新しい自動測定基準の定義フォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しい自動測定基準の定義が作成されると、追加の関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。

タスクの結果

自動測定基準の定義は [測定基準の定義] リストに保存されます。

次のタスク

エンティティタイプを関連付けて、測定基準を作成し、測定基準の定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「[測定基準の定義の更新](#)」を参照してください。

自動測定基準の定義のフィールド

このトピックでは、[自動測定基準の定義] フォームのフィールドについて説明します。

新しい自動測定基準の定義フォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	自動測定基準の定義の名前たとえば、「インシデントの数」。
アクティブ	自動測定基準の定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	自動測定基準の定義の簡潔な説明。
単位	自動測定基準の定義の単位。データを表示する際の単位を定義できます。
集計方法	集計方法とは、すべてのエンティティの測定基準データを計算するために使用される方法を指します。たとえば、人、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際の測定基準がある場合、各エンティティのデータをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。集計方法の選択は、測定基準の収集の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間での規模やサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均がより適切であると思われます。最高のパフォーマンスを発揮するエンティティを特定するには最大値が適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定するには最小値が適切であると思われます。集計は、測定基準の定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。 • 合計：すべてのエンティティの測定基準データの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティの測定基準データの平均によって、単一のスコアが作成されます。

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• 最大：すべてのエンティティの中で最も高い測定基準データが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低い測定基準データが単一スコアとして使用されます。
クラス	測定基準の定義が属するクラス。選択肢は次のとおりです。 • KPI：目標に対してリスクエクスポージャーがどの程度管理されているかを示します。このオプションを使用して、エンティティと追加エンティティを測定基準の定義に追加します。 • KRI：指定されたリスクまたは一連のリスクに対するエクスポージャーの量を示します。このオプションを使用して、測定基準の定義にリスクとリスクステートメントを追加します。このオプションは、高度なリスク プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 • KCI：特定のリスクエクスポージャーを削減または緩和するために実装されたコントロールの有効性を示します。このオプションを使用して、コントロールとコントロール目標を測定基準の定義に追加します。このオプションは、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 i 重要: このフィールドは、IRM アプリケーションスイートから測定基準の定義が作成された場合にのみ表示されます。環境、社会、ガバナンス管理 では表示されません。
精度	スコアの小数点以下の桁数。 インジケータの [精度] が 0 の場合、インジケータは結果を最も近い整数に丸めます。たとえば、[精度] が 0 のインジケータが値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 インジケータの [精度] が 0 より大きい場合、指定された精度に最も近い小数点に丸めます。たとえば、[精度] が 1 のインジケータは、4.45 の結果を 4.5 に丸めます。

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
頻度	測定基準が実行される収集頻度。測定基準の定義でデータを収集する頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
最初の開始日	自動測定基準の定義の収集頻度スケジュールの開始日。
データコレクション	
メソッドタイプ	自動測定基準のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • 基本：合計、平均、最大、最小、個別のカウントなどの集計方法を使用することを示します。 • スクリプト：カスタムスクリプトを使用してデータを収集することを示します。複数のテーブルからデータを収集する場合などにこのオプションを使用できます。 • 外部ソース：データが外部ソースから収集されることを示します。たとえば、組織内の従業員数とその性別比に関するデータを入手したい場合は、人事データを格納するアプリケーションである Workday などの外部ソースから情報を取得できます。 i 注: [スクリプト化] を選択した場合は、フォームを保存し、[スクリプトを追加] を選択してスクリプトを追加する必要があります。sn_grc_metric.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを追加できます。
テーブル	測定基準に対するデータの取得元のテーブル。このフィールドは、[メソッドタイプ] フィールドが [基本] に設定されている場合にのみ表示されます。
基準	データの収集元となるレコードの条件。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加することでフィルターを作成し、[設定] をクリック

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	します。たとえば、期日が当月にあるインシデントのみのデータを収集するという条件を作成できます。 i 注: このフィールドを変更する前に、[テーブル] フィールドの値を選択します。
集計	選択したテーブルからデータを集計するために使用される方法または計算。[集計] フィールドでオプションを選択すると、[集計] フィールドの横に新しい [集計フィールド] が表示されます。[集計フィールド] には、選択したレコードが表示されます。[集計] フィールドの選択肢は次のとおりです。 • カウント：選択したテーブルから取得されたレコードの数。たとえば、インシデントの数が必要な場合は、このオプションを選択します。 • i 注: [カウント] が選択されている場合、[集計フィールド] は表示されません。 • 合計：[集計フィールド] で選択されている列の合計。 • 平均：[集計フィールド] で選択された列の値の平均。 • 最大：[集計フィールド] で選択された列の最大値。 • 最小：[集計フィールド] で選択された列の最小値。 • 個別のカウント：[集計フィールド] でグループ化された結果セット内のグループの数。
テーブルフィールド	[テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。たとえば、インシデントテーブルの [問い合わせユーザー] 列を選択できます。この選択により、インシデントテーブルに関連付けられている問い合わせユーザーを把握し、自身のエンティティの問い合わせユーザーと比較できます。 i 注: このフィールドを変更する前に、テーブルを選択します。

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
集計フィールド	集計を実行する必要がある [テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。 i 注: [集計] フィールドで [カウント] が選択されている場合、このフィールドは表示されません。
エンティティフィールド	エンティティテーブルの列またはフィールド。エンティティは、[テーブルフィールド] で選択されたフィールドと [エンティティフィールド] で選択されたフィールドに基づいて照合されます。このフィールドは自動的に [適用するレコード] に設定されます。この手順のインシデントテーブルのコンテキストでは、このフィールドを使用して、たとえば、どのインシデントがどの発信者によってログに記録されたかを比較できます。
測定基準のプロパティ	
タイプ	データが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 • 自動 • 手動 自動測定基準の定義を作成する手順であるため、[自動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	自動測定基準の定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
方向	測定基準を表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：測定基準の方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的の測定基準の方向が下向きまたは降順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、燃料消費量を最小限に抑える場合です。 • 最大化：目的の測定基準の方向が上向きまたは昇順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内で天然資源の使用を最大化する場合です。

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• マイルストーン：測定基準の方向が適用されないが、測定基準がマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が新しい再生可能エネルギー製品を市場に投入する場合、今後の発売日がマイルストーンと見なされます。
グループ	測定基準が関連する領域。たとえば、測定基準は、性別の多様性、エネルギー、水の消費量などの領域に関連している場合があります。
レポート分類	測定基準をカテゴリ分けする際に使用するタグ。
Enterprise 所有者	測定基準の所有者であり、測定基準を担当するユーザー。たとえば、収益の収集などの測定基準の場合、事業部門の副社長またはゼネラルマネージャーがエンタープライズ所有者になる可能性があります。
性質	自動測定基準の定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし：測定基準の方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 先行 (予測型) 測定基準：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要な測定基準を使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要な測定基準により、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) 測定基準：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行測定基準は、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。この測定基準により、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。この測定基準を経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行測定基準は、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在の測定基準：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在の測定基準は、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単

新しい自動測定基準の定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。この測定基準は、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	測定基準に関連するサブグループ。
主要測定基準	測定基準がビジネスの重要な測定基準であるかどうかを示すオプション。
機密性	
i 注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。
	i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

計算済み測定基準の作成

自動測定基準の定義、手動測定基準の定義、および計算済み測定基準の定義を集計して、計算済み測定基準の定義を作成します。

始める前に

必要なロール: `sn_esg.metric_manager`

このタスクについて

他の測定基準の定義と組み合わせることができる計算済み測定基準の定義を作成し、子測定基準の定義で収集されたデータを使用して、複雑なシナリオでデータを計算および集計することができます。測定基準の定義を集計する頻度と方法を指定することもできます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 計算済み測定基準の定義**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。

3. フォームのフィールドに入力します。
フィールドの詳細については、「」を参照してください [計算済み測定基準の定義のフォーム](#)。
4. **[Save (保存)]** をクリックします。
5. データを集計するには、**[集計]** を選択します。

タスクの結果

測定基準の定義は [測定基準の定義] リストに保存されます。

次のタスク

測定基準の式を指定します。「[計算済み測定基準の定義で計算式を構築する](#)」を参照してください。

計算済み測定基準の定義のフォーム

計算済み測定基準の定義のフォームのフィールドについて説明します。

新しい計算済み測定基準の定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	計算済み測定基準の定義の名前。たとえば、「従業員の数」。
アクティブ	計算済み測定基準の定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	計算済み測定基準の定義の簡潔な説明。
単位	測定基準の定義の単位。スコアの表示単位を定義できます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。
精度	スコア的小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に 0 に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 の測定基準の定義で値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
頻度	計算済み測定基準の定義の頻度。このフィールドは、測定基準の定義でスコアをロールアップする頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと

新しい計算済み測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 半年ごと • 年次
計算	
計算レベル	計算が実行されるレベル。選択肢は次のとおりです。 • 測定基準の定義：測定基準の定義レベルでデータを計算する場合、すべての子測定基準の定義または子測定基準にわたるデータが計算に使用されます。 • エンティティ：エンティティレベルでデータを計算し、式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、すべての子測定基準の定義にわたる共通エンティティが照合され、エンティティごとにデータが計算されます。データを集計して測定基準の定義レベルで全体的なスコアを取得するには、[エンティティ] を選択します。
集計方法	エンティティレベルで測定基準スコアを集計する方法。選択肢は次のとおりです。 • なし • 合計 • 平均 • 最大 • 最小 このフィールドは、[計算レベル] フィールドが [エンティティ] に設定されている場合にのみ表示されます。
測定基準のプロパティ	
エンタープライズ所有者タイプ	計算済み測定基準の定義を担当するエンタープライズ所有者。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
Enterprise 所有者	測定基準の定義の Enterprise 所有者。
方向	測定基準を表示する方向。選択肢は次のとおりです。

新しい計算済み測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	- なし：測定基準の方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 - 最小化：目的の測定基準の方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、データセンターからの炭素排出量を最小限に抑える場合です。 - 最大化：目的の測定基準の方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内でエネルギー効率の高いリソースの使用を最大化する場合です。 - マイルストーン：測定基準の方向が適用されず、測定基準がマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が 2029 年末までに 100% 再生可能エネルギーを使用することを目標としている場合、その目標の日付がマイルストーンと見なされます。
性質	計算済み測定基準の定義の性質。選択肢は次のとおりです。 - なし： - 先行 (予測型) 測定基準：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要な測定基準を使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要な測定基準により、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 - 遅行 (影響度を測定する) 測定基準：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行測定基準は、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。この測定基準により、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。この測定基準を経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行測定基準は、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 - 現在の測定基準：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在の測定基準は、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単

新しい計算済み測定基準の定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できません。この測定基準は、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
グループ	測定基準が関連する領域。たとえば、測定基準は、エネルギーや水の排出量などの領域に関連している場合があります。
レポート分類	測定基準をカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	測定基準が関連するサブグループ。
主要測定基準	ビジネスの重要な測定基準であるかどうかを示すオプション。
機密性	
i 注: このセクションは、次の状況が当てはまる場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。
	i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

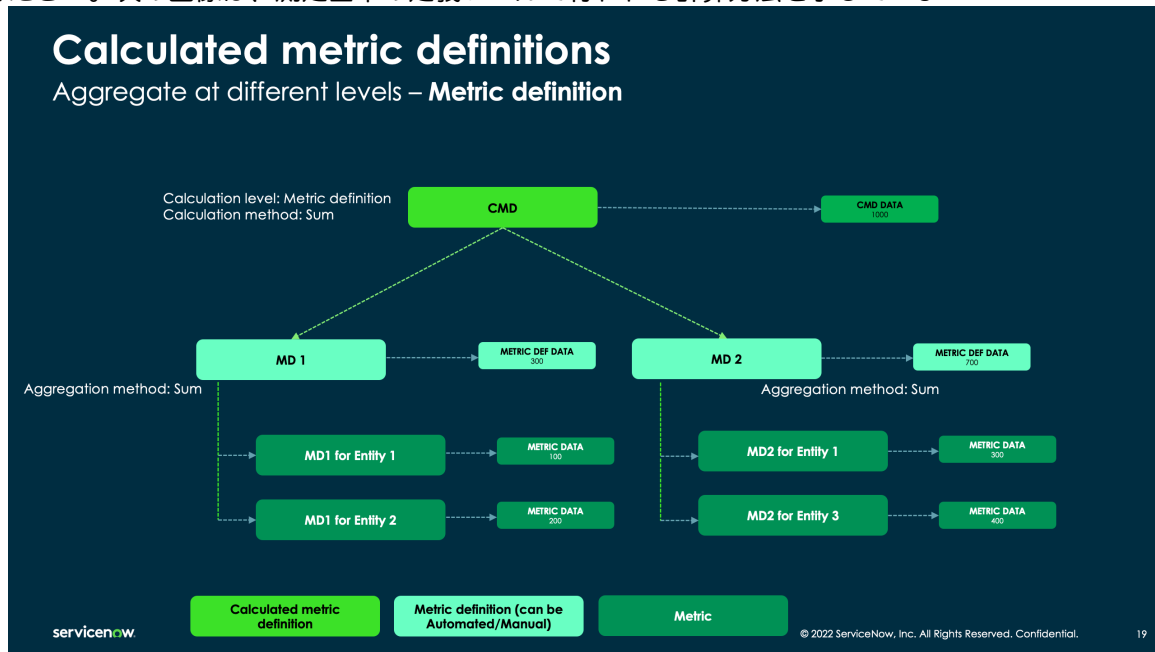
計算済み測定基準の定義で計算式を構築する

計算済み測定基準の定義では、必要に応じて計算を実行する式を作成できます。

計算式は、オペランド、演算子、および関数で構成されます。たとえば、2 つの測定基準定義 (男性従業員数と女性従業員数) から合計従業員数を計算する場合、選択された測定基準定義がオペランドであり、演算子はオペランドに対して特定の演算を実行して結果を取得する記号または関数です。演算子の例としては、加算 (+)、減算 (-)、乗算 (*)、除算 (/) などがあります。

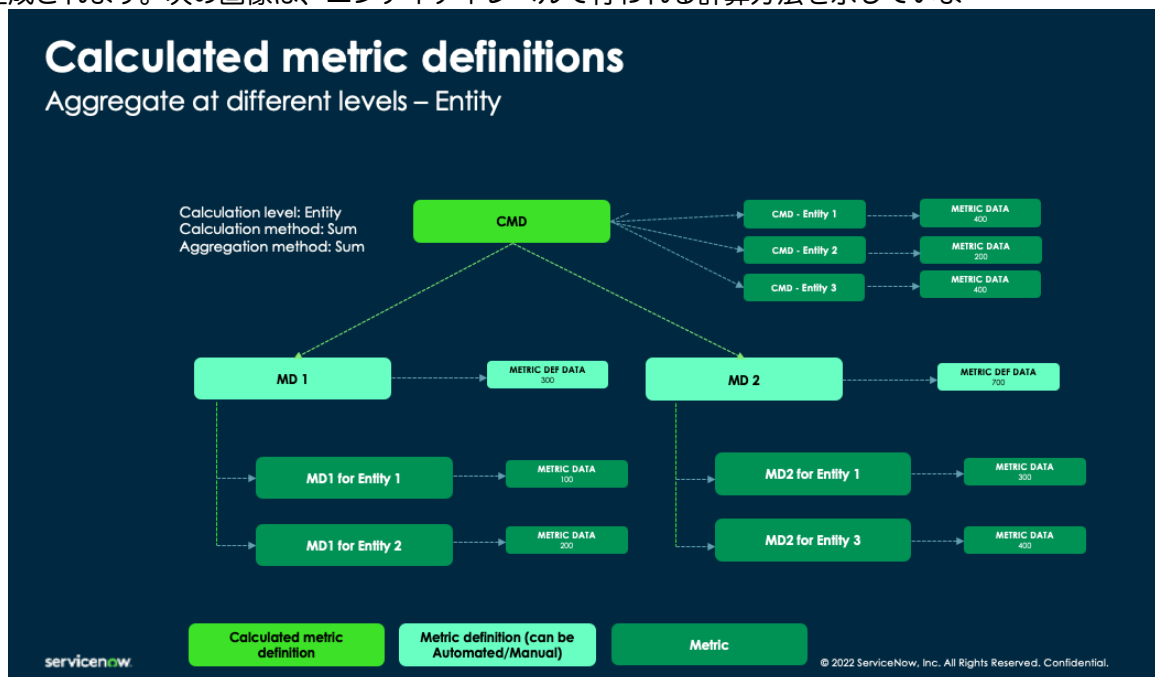
計算済み測定基準の定義で式を作成するときは、測定基準の定義レベルまたはエンティティレベルのいずれかで構築することができます。計算済み測定基準の定義フォームを保存し、測定基準の定義スコア計算の式を構築する前に、計算済み測定基準の定義フォームで計算レベルを指定する必要があります。2 つのレベルは次のとおりです。

- 測定基準の定義：[計算レベル (**Calculation level**)] フィールドで [測定基準の定義] を選択した場合、すべての子測定基準の定義または子測定基準にわたるデータが計算に使用されます。[実行]を選択すると、式が適用され、計算された測定基準の定義データが生成されます。詳細については、「[計算式ビルダーの構成](#)」を参照してください。次の画像は、測定基準の定義レベルで行われる計算方法を示しています



す：

- エンティティ：[計算レベル (**Calculation level**)] フィールドで [エンティティ] を選択し、式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、計算済み測定基準の定義に対して子測定基準が作成されます。これらの測定基準は、式でオペランドとして使用されている測定基準の定義に関連付けられている個別のエンティティごとに作成されます。測定基準の定義を実行すると、式が適用され、測定基準データが生成されます。測定基準の定義を集計すると、測定基準データが集計され、計算された測定基準データが生成されます。次の画像は、エンティティレベルで行われる計算方法を示しています



す：

計算式ビルダーの構成

計算式を作成する前に、式のコンテキスト、テーブル、および識別子を指定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

計算済みメトリックの定義で計算式を作成する前に、計算式ビルダーを構成する必要があります。構成時に、計算式コンテキスト、使用するテーブル、およびそれらの条件を指定できます。ESG Management のコンテキストで、測定基準の定義レベルで計算式を構築する場合は、構成時に測定基準の定義テーブルと測定基準テーブルを選択する必要があります。エンティティレベルで計算式を作成するには、測定基準の定義と排出係数テーブルを選択する必要があります。他のアプリケーションは、使用に必要なテーブルを使用できます。

手順

1. 移動先 **すべて** > 計算式ビルダー > 構成.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

計算式ビルダーの構成フォーム

フィールド	説明
式のコンテキスト	特定のオプションの計算式を作成するために使用できる構成。ESG に使用できる選択肢は次のとおりです。 ○ 計算レベル：エンティティ ○ 計算レベル：測定基準の定義 i 注: 他のアプリケーションのユーザーは、さまざまなコンテキストオプションを選択できます。
アプリケーション	アプリケーションのスコップ。このフィールドは自動的に設定されます。
テーブル	計算式を構築する際に使用するテーブル。
条件	式を構築するときに、選択したテーブルからレコードをフィルタリングするために使用する基準。たとえば「ドメインが ESG である」という条件を作成できます。
表示フィールド	[名前] フィールドや [ID] フィールドなどのオペランドで一意に表示される名前。
識別子	特定のテーブル名に関連付けられている小文字の 2 文字の短縮形の組み合わせ。たとえば、テーブル名が「ハードウェアアクセサリ (Hardware accessories)」の場合、識別子は ha になります。

フィールド	説明
	注: fnは関数を参照するため、識別子としてfnを使用することはできません。

4. [送信] を選択します。

計算済み測定基準の定義への計算式のインポート

Microsoft Excel スプレッドシートに保存されている計算式を計算済み測定基準の定義に直接インポートします。インポートすることで、計算を実行するための計算式をすばやく構築できます。

始める前に

必要なロール: システム管理者

このタスクについて

スプレッドシートに保存された式があり、それを計算済み測定基準の定義に含めて、式の作成に使用することがあります。このような場合、数式のインポート機能が役に立ちます。スプレッドシートに、列名がまったく同じ次の列が含まれていることを確認することが重要です。

- 名前
- 頻度
- 計算式
- 計算レベル
- ドメイン領域

手順

1. 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > データソース**.
2. [測定基準定義のデータソース] を選択します。
3. 添付ファイルを管理アイコンを選択し、数式を含むファイルをアップロードします。
4. [すべてのレコードをロード] 関連リンクを選択します。
5. [変換の実行] を選択します。
6. [変換] を選択します。

タスクの結果

計算済み測定基準の定義は、すべての測定基準の定義のリスト内の式で使用可能になります。

計算式の作成

エンティティまたは測定基準の定義を使用して独自の計算式を作成します。

始める前に

必要なロール: sn_esg.program_manager

sn_risk.user (リスクユーザーの場合)

このタスクについて

計算式の作成では、最大、最小、平均などの関数と、+、-、/、* などの演算子を使用して計算方法を定義できます。計算式を正常に作成するには、少なくとも 1 つのメトリック定義オペランドまたはエンティティオペランドが存在することが重要です。

i 注:

この計算式は、Safari を除くすべてのブラウザーを使用して作成できます。

手順

1. 計算式の作成に使用しているアプリケーションに応じて、次のいずれかの場所に移動します。
 - すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 計算済み測定基準の定義。
 - すべて > リスク管理 > リスクワークスペース > メトリクス > 計算済み測定基準の定義。
2. 式を構築する測定基準の定義を開き、計算式をビルド > 計算式ビルダー。
3. 計算式のテキストフィールドに「\」と入力して、計算式の作成を開始します。
4. 測定基準の定義レベルまたはエンティティレベルで式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. 測定基準の定義レベルで計算式を作成するには、測定基準の定義または測定基準を 2 つ選択し、その間の演算子を選択します。

Example

たとえば、従業員の通勤による GHG 排出量 + データセンター排出量 (市場ベース) を選択して合計を計算できます。

- b. エンティティレベルで計算式を作成するには、測定基準の定義または排出係数を 2 つ選択し、その間の演算子を選択します。
5. 数式をコピー、リセット、またはプレビューするには、次の手順を実行します。
 - a. 計算式をコピーするには、[コピー] を選択します。
 - b. 計算式を初期状態にリセットするには、リセット を選択します。
 - c. 識別子のない数式をきちんとした形式で表示するには、[プレビュー] を選択します。
6. 数式を保存するには、[計算式を保存] を選択します。
7. 数式を実行するには、[実行] を選択します。
数式を実行する前に保存することが重要です。
8. 計算式ビルダーページで、[サポートが必要な場合] を選択すると、計算式の作成に必要な手順に関するガイダンスが表示されます。

測定基準の定義の更新

新しい測定基準を収集するために、既存の測定基準の定義を更新します。新しい目標、ターゲット、およびエンティティを測定基準の定義に関連付けることができます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

同じフォームを使用して、自動測定基準の定義、手動測定基準の定義、および計算済み測定基準の定義を更新できます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス。
2. リストから測定基準の定義を選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

測定基準の定義のタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブと関連リスト	
[詳細] タブ	自動測定基準の定義における測定基準の定義、測定基準のプロパティ、メソッド、スケジュールなどの測定基準の詳細。 手動測定基準の定義における収集方法、スケジュール、データ収集の詳細、承認などの測定基準の詳細。 計算済み測定基準の定義における測定基準、測定基準のプロパティ、およびロールアッププロパティの詳細。[詳細] タブのフィールドについては、[測定基準の定義] フォームで説明されています。
エンティティタイプ	測定基準に関連付けるエンティティタイプの詳細。たとえば、名前、説明、および条件 (アクティブ、更新が必要、処理中のエンティティなど) が表示されます。新しいエンティティタイプを追加するには、[追加] をクリックします。 i 注: [エンティティタイプ] 関連リストは、自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対してのみ表示されます。計算済み測定基準の定義に対しては表示されません。
追加エンティティ	測定基準の定義に関連付けることができる追加のエンティティ。名前、所有者、クラス、コンプライアンススコア (%) などの詳細を表示します。新しいエンティティを追加するには、[追加] をクリックします。 i 注: この関連リストは、自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対してのみ表示されます。計算済み測定基準の定義に対しては表示されません。
子測定基準の定義	親測定基準の定義に関連付けられた子測定基準の定義。子測定基準の定義の名前、頻度、説明などの詳細を表示します。新しい子測定基準の定義を追加するには、[追加] をクリックします。

フィールド	説明
	注: この関連リストは計算済み測定基準の定義に対してのみ表示されます。自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対しては表示されません。
測定基準	測定基準の名前、関連エンティティ、アクティブステータスなどの測定基準の詳細。新しい測定基準を追加するには、[新規] をクリックします。
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどの目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
ターゲット	名前、所有者、状態、ステータス、進捗状況、実際の値、ターゲット値、終了日などのターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。
測定基準の定義データ	収集頻度、収集定義、間隔終了日、値、状態などの測定基準の定義データの詳細。 注: この関連リストは、自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対してのみ表示されます。計算済み測定基準の定義に対しては表示されません。
計算済み測定基準データ	間隔終了日、ロールアップ頻度、値など、計算済み測定基準データの詳細。 注: この関連リストは計算済み測定基準の定義に対してのみ表示されます。自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対しては表示されません。

4. 測定基準の定義を保存するには、[保存] をクリックします。

5. 計算済み測定基準の定義の計算済み測定基準データを計算するには、[集計] をクリックします。
[集計] アクションは、現在の間隔終了日とその親測定基準の定義へのロールアップ頻度について、計算済み測定基準データを計算します。計算済み測定基準データレコードは、[計算済み測定基準データ] 関連リストの下に表示されます。計算済み測定基準の定義スコアは、それが現在の間隔に対して存在しない場合、作成されます。

- 測定基準の定義を削除するには、[削除] をクリックします。
- 測定基準の定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

測定基準の作成

データに対して計算を実行するための測定基準を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

測定基準を作成するには、測定基準の定義とエンティティが必要です。測定基準の定義により、エンティティのスコアを収集する方法が定義されます。測定基準の定義がエンティティに関連付けられると、測定基準が作成されます。

手順

- 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**。
- [New (新規)]** をクリックします。
- フォームのフィールドに入力します。

新しい測定基準フォーム

フィールド	説明
名前	測定基準の名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	測定基準の簡潔な説明。
測定基準の定義	測定基準に関連付けられた測定基準の定義。
エンティティ	測定基準に関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	測定基準を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
タイプ	自動測定基準の定義のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	測定基準の定義をアクティブとしてマークするオプション。
主要測定基準	測定基準の定義を主要測定基準としてマークするオプション。
エンタープライズ所有者	測定基準の定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
測定基準のプロパティ	
方向	測定基準の定義の方向。このフィールドは自動的に設定されます。
精度	測定基準の定義の精度。このフィールドは自動的に設定されます。
単位	測定基準の定義の単位。このフィールドは自動的に設定されます。

フィールド	説明
性質	測定基準の定義の性質。このフィールドは自動的に設定されます。
方法 (Method)	
テーブル	測定基準の定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
基準	テーブルをクエリするための条件。このフィールドは自動的に設定されます。
集計	測定基準の定義を集計する方法。このフィールドは自動的に設定されます。
参照フィールド	測定基準の定義方法の参照フィールド。このフィールドは自動的に設定されます。
スケジュール	
スケジュール	測定基準の定義の収集頻度。このフィールドは自動的に設定されます。
次回実行日	次回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
承認が必要	承認が必要な場合に有効にするオプション。
分類	
グループ	測定基準に関連する領域。
レポート分類	測定基準をカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	測定基準に関連するサブグループ。
セキュリティ	
i 注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 ○ GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 ○ レコードが [ドラフト] ステータスである。	
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

4. [保存] をクリックします。

i 注:

新しい測定基準が作成されると、関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。[概要] タブで測定基準データの概要を確認できます。測定基準を実行すると、[測定基準の概要 (Metrics overview)] ページに、測定基準データの詳細が、データの収集期間とともに表示されます。

タスクの結果

測定基準は [測定基準] リストに保存されます。

測定基準のしきい値の作成

測定基準と測定基準の定義に対して、オレンジのしきい値や赤色のしきい値などのしきい値を作成します。しきい値とは、測定基準のパフォーマンスを評価するために使用される事前定義された値を参照します。これらのしきい値は通常、特定の基準または目標に基づいて定義され、測定値またはパフォーマンスが目的のレベルを満たしているか、超えているか、下回るかを判断するための参照ポイントとして機能します。

始める前に

必要なロール: en_esg.metric.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**。
2. しきい値を追加する定量的測定基準の定義を開きます。
3. [しきい値] 関連リストを選択します。
 - a. [新規] を選択します。
 - b. フォームのフィールドに入力します。

測定基準定義のしきい値フォーム

フィールド	説明
しきい値タイプ	しきい値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 - 静的：測定基準または測定基準の定義の静的しきい値は、測定基準を追跡するための制限として使用される固定値を参照します。 - 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージの差異は、方向と前のデータの 2 つの要素に基づいて計算されます。 詳細については、「 測定基準のしきい値 」を参照してください。
オレンジのしきい値	ターゲット値の分散の中程度の変化を示すパーセンテージ値。
有効期限開始	データが有効になる日付。
ターゲット値	パーセンテージの差異の比較対象である前のデータ。

フィールド	説明
赤色のしきい値	ターゲット値の分散の重大な変化を示すパーセンテージ値。
有効期限	データの有効期限。

4. [送信] を選択します。

5. しきい値を測定基準にコピーするには、[しきい値のコピー] を選択します。

測定基準単位の作成

測定基準スコアを表示するときの単位を定義します。単位は、数値、パーセンテージ、通貨、時間数、または定義したその他の任意の単位にすることができます。よく使用される単位は、デフォルトで ESG Management アプリケーションとともに提供されています。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > ユニット**。
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい単位フォーム

フィールド	説明
名前	単位の名前。たとえば、メガワット時。
フォーマット	単位の形式。たとえば、{0} MWh とすると、略語 MWh でメガワット時数が表現されます。
単位ファミリー	単位が属するファミリー。たとえば、ガロンは体積単位ファミリーに関連付けることができます。

4. 測定基準単位を保存するには、[保存] をクリックします。

タスクの結果

測定基準単位は [測定基準] リストに保存されます。

単位ファミリーの作成

単位ファミリーを作成して、類似の単位をグループ化します。たとえば、マイルやキロメートルなどのさまざまな距離単位をグループ化できます。単位ファミリーは、単位変換の際に単位を整理するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

単位ファミリーの作成では、単位の変換もサポートされます。測定基準データ入力時の単位が、測定基準の定義のレポート単位と異なる場合があります。このような場合は、単位を変換する必要があります。たとえば、測定基準データが米国ガロンで入力され、測定基準の定義のレポート単位がリッ

ターであるとしてします。ガロンとリッターが体積などの同じ単位ファミリーに属していれば、単位を変換できます。

さまざまな単位の変換に、さまざまな式が使用されます。測定基準の定義のレポート単位が、[計算済み]の変換係数を持つ単位ファミリーに属する場合、その測定基準の測定基準データタスクは、測定基準の定義と同じ単位で指定する必要があります。たとえば、測定基準の定義における温度のレポート単位が摂氏であり、温度の変換係数が [計算済み] に設定されている場合、その測定基準の定義のすべての測定基準データタスクは摂氏でのみ指定できます。このような場合、ユーザーは変換に使用する必要がある式を指定できます。詳細については、次のリンクを参照してください。[計算式ビルダーの構成](#)

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > 単位ファミリー**。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[単位ファミリー (Unit family)] フォーム

フィールド	説明
名前	単位ファミリーの名前。たとえば、「温度」。
変換係数	ファミリーから単位を変換するときに適用する必要がある変換係数。選択肢は次のとおりです。 ○ 直接：ファミリー内での単位の変換を直接実行できる場合に、このオプションを使用します。たとえば、直接変換を使用してキロメートルをマイルに変換できます。 ○ 計算済み：変換式が複雑な場合に、このオプションを使用します。たとえば、摂氏の温度を華氏に変換する場合、式は $^{\circ}\text{F} = ^{\circ}\text{C} \times (9/5) + 32$ になります。

4. [送信] を選択します。

測定基準データの別の単位への変換

測定基準データを優先レポート単位に変換します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

データの優先レポート単位は、測定基準の定義で指定されます。ユーザーが測定基準データタスクにデータを入力するときに、測定基準の定義で設定されている単位とは異なる単位で入力する可能性があります。たとえば、ユーザーは水使用量に関するデータをリッターで入力しても、組織は米国ガロンでのレポートを必要としていることがあります。したがって、測定基準の定義もガロンに設定されています。この場合、リッターはガロンに変換する必要があります。

注:

測定基準データタスクでは、同じ単位ファミリーに属する単位のみをこのデータに使用できます。単位変換は、単位ファミリー変換係数が [直接] に設定されている単位にのみ適用されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > 単位変換**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[単位変換] フォーム

フィールド	説明
名前	単位変換の名前。たとえば、リッターからガロン。
変換前の単位	変換元の単位。
変換後の単位	変換先の単位。
単位ファミリー	単位が属する単位ファミリー。たとえば、「体積」。
値	変換値。たとえば、リッターからガロンへの変換値は 0.264172 です。

4. [送信] を選択します。

GRC: Metrics を使用したデータ提供

GRC: Metrics アプリケーションを使用すると、ビジネス目標を追跡し、主なリスクインジケータ (KRI) と重要業績評価指標 (KPI) を定義して、管理者に進捗状況に関するインサイトを提供するレポートを生成できます。

測定基準の更新

測定基準を更新して、目標、測定基準データ、およびターゲットを追加します。信頼できるソースコンテンツを測定基準に関連付けます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**.
2. リストから測定基準を選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

測定基準のタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブ	
名前	測定基準の名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	測定基準の簡潔な説明。
測定基準の定義	測定基準に関連付けられた測定基準の定義。

フィールド	説明
エンティティ	測定基準に関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	測定基準を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは、エンタープライズ所有者タイプを表示するように自動的に設定されます。
タイプ	自動測定基準の定義のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	測定基準の定義をアクティブとしてマークするオプション。
主要測定基準	測定基準の定義を主要測定基準としてマークするオプション。
エンタープライズ所有者	測定基準の定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
測定基準のプロパティ	
方向	測定基準の定義の方向。このフィールドは自動的に設定されます。
精度	測定基準の定義の精度。このフィールドは自動的に設定されます。
単位	測定基準の定義の単位。このフィールドは自動的に設定されます。
性質	測定基準の定義の性質。このフィールドは自動的に設定されます。
メソッド	
メソッドタイプ	測定基準データの収集に使用されるメソッドのタイプ。
テーブル	測定基準の定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
基準	テーブルをクエリするための条件。このフィールドは自動的に設定されます。
集計	測定基準の定義を集計する方法。このフィールドは自動的に設定されます。
参照フィールド	測定基準の定義方法の参照フィールド。このフィールドは自動的に設定されます。
スケジュール	
スケジュール	測定基準の定義の収集頻度。このフィールドは自動的に設定されます。
初回ランタイム	初回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
次回実行時間	次回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
データ収集の詳細	

フィールド	説明
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
承認が必要	測定基準で承認が必要な場合に有効にするオプション。
[測定基準のデータタスク] タブ	名前、番号、担当者、優先度、状態などの測定基準データタスクに関する情報。
関連リスト	
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどの測定基準に関連付けられた目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
測定基準データ	開始日、終了日、値、コレクター測定基準のデータ、収集頻度、タイプなどの測定基準データの詳細。 開始日：この開始日は、データ収集の開始日です。 終了日：この終了日は、スコアが計算される間隔が決まる、期間の終了日です。終了日は、測定基準の定義の頻度によって異なります。終了日はスコアの追跡に使用されます。すべてのスコアは時間に依存しており、間隔終了日への参照があります。 収集頻度：[収集頻度] フィールドのオプションは次のとおりです。 ○ 日次：毎日作成されるスコア。 ○ 週次：週の終わりの日付 (日曜日) までに作成されるスコア。月曜日が週の始まりで、日曜日が週の終わりです。 ○ 月次：月末までに作成されるスコア。 ○ 四半期ごと：四半期末までに作成されるスコア。たとえば、Q1 は 3 月 31 日に終了し、Q2 は 6 月 30 日に終了し、Q3 は 9 月 30 日に終了し、Q4 は 12 月 31 日に終了します。 ○ 半年ごと：6 か月期間の末日までに作成されるスコア。半年の終了日は 6 月 30 日と 12 月 31 日です。 ○ 年ごと：年末までに作成されるスコア。年の終了日は 12 月 31 日です。
ターゲット	名前、状態、所有者、開始日、終了日、タイプ、測定などの測定基準に関連付けられたターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。

フィールド	説明
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。

- 測定基準を保存するには、[保存] をクリックします。
- 測定基準の定義を削除するには、[削除] をクリックします。
- 測定基準を実行するには、[実行] をクリックします。
現在の間隔に存在しない場合は、測定基準データスコアが作成されます。現在の間隔の測定基準または測定基準の定義を再実行すると、スコアのみが更新されます。
- 測定基準の定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

測定基準データタスクのデータ入力

測定基準データタスクを使用して、手動測定基準のデータを入力します。測定基準データは、目標に向けた進捗状況の分析に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.data_owner

手順

- 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 自分の測定基準データタスク。
- データを提供するタスクを開きます。
- [対応中に移動] を選択します。
- [測定基準情報] フォームの [測定基準の入力] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
測定基準データ	測定基準の値。このフィールドは、測定基準フォームの [カテゴリ] フィールドで [定量的] が選択されている場合にのみ表示されます。
単位	データの単位。たとえば、米国ガロン。 i 注: データは任意の単位で入力でき、測定基準の定義で指定されたレポート単位に変換されます。
応答	測定基準の応答。このフィールドは、測定基準フォームの [カテゴリ] フィールドで [定性的] が選択されている場合にのみ表示されます。
送信した応答が正確であることを認定して承認します。(I certify and acknowledge that the response I have submitted is accurate.)	データの正確性を認定するオプション。

フィールド	説明
追加コメント (顧客に表示)	測定基準データの追加情報。

5. [保存] を選択します。
6. 証拠またはサポート情報を提供するには、[関連ドキュメント] 関連リストで [新規] を選択します。
7. [関連ドキュメント] フォームのフィールドに入力します。

[関連ドキュメント] フォーム

フィールド	説明
名前	サポート情報の名前を提供します。
URL	サポート URL を追加するには、ロックアイコンを選択します。
測定基準のデータタスク	このフィールドには、情報を提供している測定基準データタスクの名前が自動的に設定されます。

8. [送信] を選択します。

複数の測定基準の応答の提供

測定基準タスクモジュールを使用すると、複数の測定基準の応答を使いやすい形式で提供できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.data_owner

このタスクについて

データ所有者は、複数の測定基準データタスクのデータまたは応答を提供する必要があります。提供するデータは、複数のソースからもたらされるため、複数のデータ所有者が存在する場合があります。このようなシナリオでは、データ入力の監査記録を維持することは困難です。測定基準タスクモジュールを使用すると、複数の測定基準データタスクのデータを入力できます。フィルターを使用して、データを提供する測定基準グループを選択します。入力および送信した応答、およびデータまたは応答の送信の日付が過ぎているかどうかを確認できます。クローズ済みステータスでないタスクに対してのみ、測定基準データ応答を提供できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース**。
2. [測定基準データテーブル] アイコン ()
3. [測定基準グループ] リストから、データを提供する測定基準グループを選択します。
オープンな測定基準データタスクがあるグループのみがフィルターに表示されます。
4. データを入力するエンティティのセルをダブルクリックします。
5. [送信した応答が正確であることを認定して承認します (**I certify and acknowledge that the response I have submitted is accurate**)] オプションを選択します。
6. [保存] を選択します。
データを入力するセルごとにこの手順を実行します。セルをスクロールして、すべてのタスクに対して応答を入力できます。

7. 応答を送信するタスクを選択します。

8. 入力したデータの証拠を提供するには、コンテキストサイドパネルの [添付ファイルおよびリンク] タブを選択し、必要に応じてリンクと添付ファイルを追加します。

9. [送信] を選択します。

測定基準データタスクのレビュー

測定基準データタスクをレビューし、レビューに基づいてタスクを承認または却下します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.reader

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース。

2. [測定基準データテーブル] アイコン ([)

3. 測定基準データタスクをレビューし、次のいずれかのアクションを実行します。

測定基準データのオーバーライド

データ所有者によってもたらされた測定基準データが不正確な場合は、測定基準データを変更またはオーバーライドします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

測定基準データタスクがクローズされた後で、ESG 管理者は必要に応じて測定基準データを変更できます。管理者は、データを変更するための有効な理由も指定する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > リスト > メトリクス > 自分の測定基準データタスク。

2. 変更するレコードを開きます。

3. [測定基準情報] フォームの [測定基準の入力] セクションで、[測定基準データのオーバーライド (Override Metric Data)] オプションを選択します。

4. [測定基準データのオーバーライド (Override Metric Data)] フィールドに新しい値を入力します。

5. [理由 (Justification)] フィールドに、データを上書きするための妥当な理由を入力します。

6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。

7. [保存] を選択します。

タスクの結果

測定基準データタスクの値がオーバーライドされ、測定基準データで同じ値が更新されます。

測定基準データタスク応答のオーバーライド

測定基準管理者は、定量的測定基準に対してもたらされた応答を変更する必要がある場合、データを編集して変更の理由を入力できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 測定基準のデータタスク。
2. データを編集するタスクを開きます。
3. [測定基準の入力] セクションで、[応答をオーバーライド (**Override Response**)] オプションを選択します。
4. [オーバーライドされた応答 (**Overridden response**)] フィールドに新しい応答を入力します。
5. [理由 (**Justification**)] フィールドに、前のデータを上書きするための妥当な理由を入力します。
6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。

測定基準の定義のグループ化の作成

類似した測定基準の定義のグループとサブグループを作成します。これらのグループを作成すると、レポートと追跡が容易になります。選択肢を使用して、グループとサブグループの値を設定できます。

始める前に
必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

類似した測定基準の定義が多数ある場合は、それらの測定基準の定義のグループまたはサブグループを作成できます。たとえば、スコープ 1、スコープ 2、およびスコープ 3 はすべて排出の異なるタイプですが、「排出」という名前の 1 つのグループと「温室効果ガス排出」という名前のサブグループにまとめることができます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > 管理 > 選択肢。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

GRC 選択肢テーブル

フィールド	説明
セット	選択肢を作成するエリア。このフィールドは [ESG 測定基準] に設定されています。このフィールドは変更できます。
名前	選択肢の名前。たとえば、「排出」。
レポート分類	測定基準の定義と測定基準を分類したときのタグ。たとえば、 GRI 、 SASB 、または運営委員会レビュー。
選択肢カテゴリ	選択肢の分類。たとえば、グループ、サブグループ、ラベル。

フィールド	説明
順番	サブグループ内の測定基準の定義の順序。デフォルトでは、グループとサブグループに追加されるときに、100、200 などから順番を指定できます。
親	親の選択肢。

タスクの結果

グループ化は、[分類] セクションの測定基準の定義フォームで使用する準備ができています。

一意の測定基準の定義名の作成

必要なレコードテーブルの `sn_grc_metric_definition` で値の計算式を指定して、Watershed スプレッドシートなどの外部ソースからデータをインポートするための一意の測定基準の定義名を作成します。

始める前に

必要なロール： `sn_grc_metric.admin`

このタスクについて

データを含む外部ソースは測定基準の定義にインポートする必要があり、各測定基準の定義には一意の名前を付ける必要があります。測定基準の定義名は、スプレッドシートの単一の列を使用することも、複数の列を組み合わせ使用することもできます。この手順では、例として Watershed Integration for ESG および `sn_grc_metric_definition` テーブルを使用します。`sn_grc_metric_definition` テーブルで式を指定して、一意の測定基準の定義名を作成できます。他のテーブルについても同じ手順を繰り返すことができます。デフォルトで次のテーブルがインストールされています。

- `sn_grc_profile`
- `sn_grc_profile_type`
- `sn_grc_metric_definition`

次の画像は、サンプルスプレッドシートの文字列と値の列を示しています。

値の式の組み合わせ

	A	B	C	D	E	F	G
1	year	ghg_protocol_category	business_category	location	Sum of kgco2e	Sum of renewable KW	Sum of non-renewable KW
2	2020	1 Scope 1	offices	Adelaide, AU	1223.68333	-	260057.3277
3	2020	1 Scope 1	offices	Arlington, US	1115.097139	-	8911.607406
4	2020	1 Scope 1	offices	Augsburg, DE	265093.8515	-	1308976.813
5	2020	1 Scope 1	offices	Aurora, IL	6857.805272	-	56104.98315

手順

1. 移動先 すべて > メトリクス > 測定基準の統合。
2. **[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. [データマッピング] セクションで、式を指定するデータマッピングを選択します。
4. [必須レコード] フォームの [値の式] セクションで、[新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[値の式] フォーム

フィールド	説明
ソーステーブル。	ソーステーブルの名前。このフィールドは、自動的に [Watershed データ [sn_esg_watershed_data]] に設定されます。
必須レコード	変更されるテーブルの名前。 i 注: この手順では、使用する例は sn_grc_metric_definition テーブルです。
列	GHG プロトコルカテゴリを含む列。
フォーマット	名前のフォーマット。選択肢は次のとおりです - 文字列：テキスト文字列を指定する場合は、このオプションを使用します。 - 値：列の任意の値を使用する場合は、このオプションを使用します。 - 文字列 + 値：列値の先頭にテキストを追加する場合は、このオプションを使用します。 - 値 + 文字列：列値の末尾にテキストを追加する場合は、このオプションを使用します。[文字列] フィールドにテキストを指定します。
文字列	このフォーマットで使用するテキスト。
シーケンス	式の順序を指定します。同じ必須レコードの複数の値の式は、指定された順序に従って連結されます。

6. [送信] を選択します。

測定基準および測定基準の定義の概要ページ

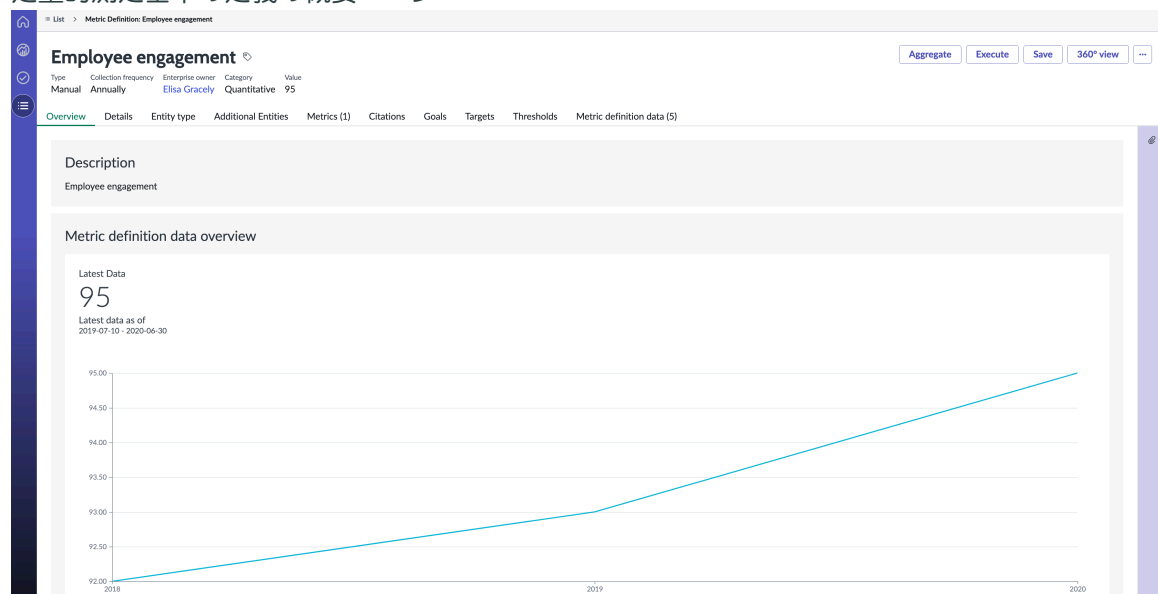
測定基準および測定基準の定義の概要ページは、測定基準の傾向を視覚化し、注意が必要なタスクとアクティビティを監視する際に役立ちます。

概要ページは次で利用できます。

- 自動、手動、計算済みの定量的測定基準の定義
- 定性的測定基準

概要ページには、最新の測定基準データタスクがクローズされた場合にのみ、リストとグラフの形式で最新のデータが表示されます。定量的測定基準の定義についてはグラフが表示され、定性的測定基準についてはリストが表示されます。定性的測定基準の定義の場合、測定基準の定義の説明は概要ページにのみ表示されます。表示されるデータには、データ収集期間の開始日と終了日が表示されます。次の画像は、自動測定基準の定義の概要ページを示しています。

定量的測定基準の定義の概要ページ



次の画像は、データの開始日と終了日を含む定性的測定基準の概要ページを示しています。

定性的測定基準の概要ページ

Name of the organization - ACME Global

Type: Manual | Collection frequency: Annually | Enterprise owner: Elisa Gracely | Metric definition: Name of the organ...

Description
Name of the organization

Metric data overview

Start Date	End Date	Data	State
2022-01-24	2023-01-23	ACME Global	Completed

Showing 1-1 of 1 | 20 rows per page

Attachments
No Attachments Available
Browse for a file to add it as an attachment

定性的測定基準の定義

Approach to Stakeholder Engagement

Type: Manual | Collection frequency: Annually | Enterprise owner: Oliver Jones | Category: Qualitative

Description
The organization shall describe its approach to engaging with stakeholders, including
i. the categories of stakeholders it engages with, and how they are identified;
ii. the purpose of the stakeholder engagement;
iii. how the organization seeks to ensure meaningful engagement with stakeholders.

GRC: Metrics の参照

複数のプロパティ、テーブル、およびロールが GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされます。

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント

ESG Management アプリケーションがアクティブになると、GRC: Metrics アプリケーションが自動的にインストールされます。GRC: Metrics アプリケーションは、ここにリストされているいくつかのテーブル、プロパティ、およびロールを追加します。

インストールされるロール

次のロールが GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされます。

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるロール

ロール	説明	内容
sn_grc_metric.admin	このロールはアプリケーションの admin ロールです。このロールは次の操作を実行できます。 - 測定基準の定義、測定基準、および測定基準単位を作成、読み取り、書き込み、削除します。 - 測定基準データタスクの結果をオーバーライドします。 - 測定基準データを読み取ります。 - スケジュールを作成します。	sn_grc_metric.manager
sn_grc_metric.manager	アプリケーションのエンタープライズ所有者および承認者ロール。このロールは次の操作を実行できます。 - 重要なトピック、目標、ターゲット、測定基準の定義、測定基準、信頼できるソースコンテンツ、および測定基準単位を作成、読み取り、書き込み、および削除します。 - 測定基準データタスクの結果をオーバーライドします。 - 測定基準データ、測定基準データタスク、開示、および各種法令・基準等を読み取ります。 とのデータ連携がある場合 プロジェクトポートフォリオ管理 - プロジェクトとプログラムの作成、読み取り、書き込み - プロジェクトとプログラムの削除	sn_grc_metric.user

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	内容
	Integrated Risk Management と統合されている場合、このロールは次の操作を実行できます： - コントロール目標、コントロール、リスクステートメント、およびポリシーを作成、読み取り、書き込み、削除します。 - リスクと問題を読み取ります。	
sn_grc_metric.user	このロールは読み取り専用のロールです。このロールを持つユーザーは、測定基準の定義と測定基準の作成、編集、更新を実行できません	なし
sn_grc_metric.developer	このロールを持つユーザーは、自動測定基準の定義でスクリプトを編集できます。	なし

インストールされるテーブル

次のテーブルが GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされます。

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるテーブル

名前	説明
ベース測定基準の定義 (sn_grc_metric_base_definition)	すべての測定基準の定義のベーステーブル。
計算済み測定基準の定義 (sn_grc_metric_composite_definition)	2 つ以上の測定基準の定義に関するデータを集計するために使用される計算済み測定基準の定義。
測定基準の定義 (sn_grc_metric_definition)	自動および手動の測定基準を定義するために使用される測定基準の定義。
測定基準 (sn_grc_metric_metric)	測定基準の定義がエンティティに適用されるときに生成される測定基準インスタンス。
測定基準単位 (sn_grc_metric_unit)	測定基準の定義または測定基準の単位。

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

名前	説明
親データ (sn_grc_metric_parent_data)	測定基準データの親テーブル。
測定基準の定義データ (sn_grc_metric_collector_data)	自動および手動の測定基準の定義のデータ。
測定基準データ (sn_grc_metric_metric_data)	測定基準インスタンスのデータ。
測定基準のデータタスク (sn_grc_metric_data_task)	手動測定基準のデータを収集するタスク。
エンティティタイプの測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_definition_profile_type)	エンティティタイプと測定基準の定義の関連性。
エンティティの測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_definition_profile)	エンティティと測定基準の定義の関連性。
計算済み測定基準定義への測定基準 (sn_grc_metric_m2m_metric_composite_definition)	測定基準と計算済み測定基準の定義の関連性。
子測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_metric_definition)	測定基準と測定基準の定義の関連性。
測定基準の定義に対するコントロール目標 sn_grc_metric_m2m_definition_control_objective	コントロール目標と測定基準の定義の関連性。
測定基準定義のコントロール sn_grc_metric_m2m_definition_control	コントロールと測定基準の定義の関連性
単位ファミリー sn_grc_metric_unit_family	類似の単位をグループ化するための単位ファミリー。
単位変換	測定基準データを優先レポート単位に変換します。

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

名前	説明
sn_grc_metric_unit_conversion	
計算済み測定基準定義への測定基準 sn_grc_metric_m2m_metric_composite_definition	測定基準と計算済み測定基準の定義との関連性。
測定基準データ処理キュー sn_grc_metric_data_process_queue	計算済み測定基準の定義のデータを更新したり、すべてのタイプの測定基準の定義のエンティティ階層データを更新したりするために、キューにある測定基準の定義を示します。
エンティティ別の測定基準データ sn_grc_metric_data_by_entity	測定基準の定義のエンティティのデータと、エンティティ階層で定義された親エンティティの集計データが含まれます。
時間次元 sn_grc_metric_time_dimension	その年の各日の日、日、週、四半期、月、semi_annual、年が含まれます。

ジョブスケジュール

アプリケーションとともにインストールされたジョブスケジュールは、GRC: Metrics 特定の時間またはスケジュールで自動的に実行されます。定期的なスケジュールでのレポートの実行やデータのエクスポートなど、さまざまなタスクを実行するようにジョブスケジュールを設定できます。

GRC:測定基準と併せてインストールされるジョブスケジュール

名前	説明
集計測定基準の定義	このジョブは 30 分ごとに実行されます。アクティブでステータスが「処理待ち」のすべてのタイプの測定基準の定義データをプルします。各測定基準定義データの「ステータス」と「値」は、その期間の対応する測定基準データの集計に基づいて更新されます。
CMD 妥当性チェック	このジョブは、毎日 1 回午前 12 時に実行されます。計算済み測定基準の定義ごとに、重複する子測定基準の定義と子測定基準に基づいて、「ステータス」が有効/無効に更新され、「メモ」が更新されます。
計算済み測定基準の定義の実行	このジョブは、エンティティレベルと測定基準データ定義レベルの両方の計算済み測定基準の定義ごとに実行され、計算された値で更新されます。
測定基準の実行	このジョブは、毎日午後 4 時 30 分に 1 回実行されます。これは、測定基準データを作成する各測定基準定義とその測定基準に対して実行されます。測定基準データタスクがその期間に存在しない場合は、そのタスクが存在しない場合です。

GRC:測定基準と併せてインストールされるジョブスケジュール(続く)

名前	説明
エンティティ別の測定基準データの生成	このジョブは毎日実行され、すべての測定基準定義のエンティティ階層ロールアップを実行します。
時間ディメンションの生成	このジョブは毎年 1 日に実行され、その年の時間ディメンションを作成します。

インストールされるプロパティ

GRC:Metrics と併せてインストールされるプロパティ

名前	説明	デフォルト値
sn_grc_metric.metric_data_refresh_schedule	期日の計算に使用するスケジュールを指定	08fcd0830a0a0b2600079f56b1adb9ae
sn_grc_metric.all_words	測定基準の統合を使用して測定基準データをインポートするときに、値のすべてのカンマ区切りの定義済み文字列を「すべて」に置き換えるために使用されます。	(空白)、空白、NA、すべて、空、(空)

ESG Management の使用

ESG Management アプリケーションを使用すると、さまざまなフレームワークから信頼できるソースコンテンツをインポートして開示を作成できます。

ESG Management アプリケーションを使用して、次のタスクを実行できます。

- すべての重要なトピック、目標、ターゲット、アクティビティ、および排出係数を使用して ESG プログラムを設定します。
- 測定基準を定義して、企業全体の ESG プログラムのデータ収集を自動および手動で開始します。
- 内部および外部のステークホルダーに対する開示を作成します。
- ESG フレームワークには Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG や Sustainability Accounting Standards Board (SASB) などのコンテンツパックを使用します。

ESG Management における開示

ESG 開示とは、企業や組織が環境、社会、ガバナンス (ESG) のパフォーマンスに関する情報とレポートを提供する慣行を指します。これらの開示は、企業がさまざまな ESG 関連の問題をどのように管理し、対処しているかについての洞察を提供するように設計されています。sn_esg.reporting_disclosure_manager ロールを持つユーザーは、開示レポートを管理する責任があります。

ESG開示の重要性

ESG 開示が重要である理由はいくつかあります。

- 透明性と説明責任:ESG開示は透明性を高め、投資家、顧客、従業員、一般市民などのステークホルダーが主要なESG分野における企業のパフォーマンスを理解できるようにします。この透明性は、説明責任と信頼を育みます。
- リスク管理:ESG 情報を開示する企業は、環境、社会、ガバナンスの要因に関連する潜在的なリスクをより適切に特定して管理できます。これは、長期的な持続可能性とレジリエンスにとって非常に重要です。
- 投資家の意思決定:投資家は、意思決定プロセスにおいてESG要素を考慮する傾向が強まっています。ESG 開示は、企業の持続可能性、倫理的慣行、および長期的な実行可能性を評価するための情報を投資家に提供します。
- 企業の評判: ESG パフォーマンスが高ければ、企業の評判とブランド価値を高めることができます。逆に、ESGの実践が不十分な場合、風評被害につながり、顧客や投資家の信頼に影響を与える可能性があります。
- 法規制の遵守: 一部の地域では、企業が ESG 情報を開示するための規制要件があります。これらの規制の遵守は、法的および経済的影響を回避するために不可欠です。
- ステークホルダーのエンゲージメント:ESG開示は、責任あるビジネス慣行に対する企業のコミットメントを示すことで、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを促進します。ESGの課題についてステークホルダーと関わることで、関係とコラボレーションの改善につながる可能性があります。

ナラティブの開示

バージョン 18.0.3 以降、すべての ESG Management 新規ユーザーはナラティブ開示にのみアクセスできます。説明の開示とは、アドインを使用して Microsoft 365 for ServiceNow Reporting 作成される開示を参照します。ナラティブ開示を作成する場合、開示をローカルシステム上にMicrosoft OneDrive保存するか、ローカルシステムに保存するかを選択できます。Microsoft OneDriveナラティブ開示の統合は、バージョン 18.0.3 以降Washington DCでESG Management利用できます。ナラティブ開示の作成時に生成されるドキュメントは、アドインを使用して Microsoft Word 開くことができ、構成されたデータ ポイントはドキュメントに ServiceNow Reporting 挿入できます。挿入されたデータに変更がある場合は、データが変更されたこと、およびドキュメントを更新する必要がある Microsoft Word ことを通知するメールが開示データの所有者に自動的に送信されます。

ナラティブ開示では、複数の協力者が開示の作成に貢献できます。開示レポートのタイプごとにテンプレートを定義することもできます。各レポートタイプを理解するには、「[ナラティブ開示レポートの種類](#)」を参照してください。各開示は、1 人以上の承認者によって承認されます。

開示を生成する場合、自動生成されたドキュメントがプライマリドキュメントと見なされることに注意することが重要です。さらに、開示プロセスの一環として二次ドキュメントを添付するオプションがあります。

Narrative Disclosure を作成するには、sn_docs_onedrive プラグインと com.snc.word_doc_api プラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

インスタンスをMicrosoft OneDrive統合ServiceNow する手順については、「[Microsoft OneDrive for Document Services](#)」を参照してください。

データ開示

データ開示は、開示を作成し、開示で使用されるデータを Excel 形式でエクスポートするための既存の開示機能です。データ開示は、バージョン 18.0.3 より前のバージョンのユーザーが利用できます。作成と更新を含むデータ開示の詳細については、次を参照してください [ESG経営における開示](#)。

ESG ワークスペース の [概要] タブから、Excel 形式で開示をダウンロードできます。

開示レポートの種類

ESG Managementアプリケーションは複数のタイプの開示レポートを提供し、各タイプは特定の目的で使用されます。

アプリケーションは ESG Management 、次のタイプの開示レポートをサポートしています。

- **アニュアルレポート:**アニュアルレポートは、企業が財務実績と事業活動全体を株主やその他の利害関係者に伝えるために、各会計年度末に発行する包括的な文書です。通常、財務諸表、経営陣の議論と分析、コーポレートガバナンス情報が含まれ、持続可能性とESGの問題にも触れる場合があります。
- **ESGレポート:**ESGレポートは、サステナビリティレポートまたは企業の社会的責任(CSR)レポートとも呼ばれ、特に企業の環境、社会、ガバナンスのパフォーマンスに焦点を当てています。持続可能性、倫理的慣行、社会的責任に関連する会社の取り組み、イニシアチブ、およびパフォーマンスに関する詳細情報を提供します。ESGレポートは、責任あるビジネス慣行へのコミットメントを伝えようとしている企業にとって、ますます重要になっています。
- **規制とフレームワーク:**企業は、多くの場合、規制要件または確立されたフレームワークに従って特定の情報を開示する必要があります。規制開示は政府当局によって義務付けられており、財務報告、環境影響評価、およびその他の関連情報が含まれる場合があります。開示フレームワークとは、Global Reporting Initiative (GRI) や Sustainability Accounting Standards Board (SASB) などの組織または業界団体によって設定された報告基準またはガイドラインを指し、ESG 事項に関する報告のための構造化されたフレームワークを提供します。
- **情報の要求:**情報の要求は、企業がサプライヤーまたはパートナーから詳細な情報を求める形式化されたプロセスです。ESGの文脈では、RFIには、サプライヤーの持続可能性慣行、環境への影響、労働基準、およびその他のESG関連要因に関する質問が含まれる場合があります。これにより、同社はサプライチェーンのESGパフォーマンスを評価し、ビジネスパートナーについて十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。
- **格付けとインデックス:**格付けとインデックスの開示では、企業が ESG パフォーマンスに基づいて企業を評価およびランク付けする外部組織に情報を提供します。企業は、持続可能性の評価、インデックス、またはランキングを編集する事業体にデータと詳細を開示する場合があります。これらのアセスメントは、投資家、ステークホルダー、顧客が企業の ESG の状況に基づいて意思決定を行う際によく使用されます。
- **サプライヤーアンケート:**サプライヤーアンケートは、企業が ESG 関連のプラクティスなど、ビジネスのさまざまな側面に関する情報をサプライヤーから収集するために使用するドキュメントまたは一連の質問です。アンケートには、環境への影響、社会的責任、労働慣行、ガバナンスなどのトピックが含まれる場合があります。企業はこの情報を使用して、サプライチェーンの ESG パフォーマンスを評価し、持続可能性の目標に沿った情報に基づいた調達決定を行います。
- **その他:**その他の種類の開示。

開示の承認ワークフロー

ナラティブ開示で作成中に 1 人または複数の承認者が指定されている場合、開示が次のステータスに移行するには、指定された承認者が承認を付与する必要があります。

開示を作成する際に、1 人または複数の承認者を指定できます。複数の承認者が指定されている場合、開示を [完了] ステータスに移行するには、すべての承認者が承認を与える必要があります。承認者が開示を却下した場合は、[対応中] ステータスに戻り、承認のために承認者に再送信する必要があります。

開示テンプレートの作成

さまざまなタイプの開示に合わせて調整された独自の Microsoft Word 開示テンプレートを作成します。特定の開示を作成するときにこれらのテンプレートを利用します。テンプレートは、効率性と一貫性のためにカスタマイズされたテンプレートを実装することで、開示プロセスを合理化するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > 開示テンプレート**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

開示テンプレートフォーム

フィールド	説明
開示タイプ	開示のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 年次報告書 ○ ESG レポート ○ 規制とフレームワーク ○ 情報の要求 ○ 評価とインデックス ○ サプライヤーアンケート ○ その他
テンプレートドキュメント	追加するドキュメント。 i 注: ファイル拡張子は.docxである必要があります。

4. [クリックして追加...] を選択します。
5. [ファイルを選択] を選択します。
 - a. ファイルを選択します。
 - b. [開く] を選択します。
 - c. **[OK]** を選択します。

i 注:
ファイルのサイズが 10 MB を超えないようにし、開示タイプごとに 1 つのテンプレートのみが許可されていることを確認してください。さらに、ローカルストレージで開示を作成するためのカスタムプロパティのドキュメント ID および開示番号がテンプレート Word ドキュメントにないことを確認します。これらのカスタムプロパティは、開示ドキュメントの作成後に更新または削除しないでください。

リモート・ストレージに関するナラティブ・ディスクロージャーの作成

ESG Management組織の説明的な開示を作成し、などのMicrosoft OneDriveリモートストレージに保存します。開示には、ESG レポート、年次報告書など、いくつかのタイプがあります。

始める前に

インスタンスを統合ServiceNow Microsoft OneDriveする手順に従っていることを確認します。
「[Setup Microsoft OneDrive for Document Services](#)」を参照してください。

必要なロール：sn_esg.reporting_disclosure_manager または sn_esg.program_manager

このタスクについて

開示を作成するときに、開示をローカル・システムに保存するか、などの Microsoft OneDrive リモート・ストレージに保存するかを指定できます。作成された開示は、プライマリドキュメントとして機能します。この手順では、リモート記憶域でナラティブ開示を作成する手順を示します。

i 注:

開示を作成した後は、Ctrl + A キーと Delete を使用して開示ドキュメントのコンテンツを削除しないでください。これを行うと、ドキュメントに関連付けられたメトリックは削除されず、追跡されます。開示ドキュメントの作成後にカスタムプロパティの [ドキュメント ID] と [開示番号] が更新または削除されていないことを確認します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい開示フォーム

フィールド	説明
番号	開示の識別番号。このフィールドは自動的に設定されます。
ステータス	開示のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
名前	開示の名前。
説明	開示の説明。
タイプ	開示のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 年次報告書 ○ ESG レポート ○ 規制とフレームワーク ○ 情報の要求 ○ 評価とインデックス ○ サプライヤーアンケート ○ その他 i 注: テンプレートが利用可能な場合、開示ドキュメントはテンプレートに基づいて作成されます。それ以外の場合は、空白のドキュメントが作成されます。
所有者	開示をさまざまなステータスに移行し、開示の同期などのアクションを実行するユーザー。 i 注: このフィールドでは、sn_esg.reporting_disclosure_manager ロールを持つユーザーのみを選択できます。

フィールド	説明
リモートストレージにアップロード	開示をリモートストレージに Microsoft OneDrive保存する必要があるかどうかを決定するオプション。このオプションを選択すると、フォームに「リモート・ストレージ」セクションが表示されます。
データ分類	開示情報の分類。選択肢は次のとおりです。 - 公開:開示を公開するかどうかを決定します。 - 非公開:開示を非公開にする必要があるかどうかを決定します。
承認者	開示を承認する必要があるユーザー。 i 注: このフィールドでは、sn_esg.reporting_disclosure_manager ロールを持つユーザーのみを選択できます。
リモートストレージ	
ストレージタイプ	開示を保存する必要がある場所。使用可能なオプションは [OneDrive] です。このオプションを選択すると、空白のドキュメントが作成されます。
ドキュメントパス	ユーザーのホームフォルダー内のパス Microsoft OneDrive。このフィールドは、[リモートストレージにアップロード] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
協力者	開示ドキュメントに寄稿するユーザー。このフィールドは、[リモートストレージにアップロード] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。 i 注: このフィールドでは、sn_esg.reporting_disclosure_manager ロールを持つユーザーのみを選択できます。

4. 開示を保存するには、 **保存** を選択します。
5. 作成されたドキュメントを開いて編集するには、ドキュメントを開きます。
文書にデータポイントを挿入するには、Word 文書でアドインを開きます。詳細については、「[開示レポートへの Microsoft Word データのインポート](#)」を参照してください。
6. データを同期する前にドキュメントを閉じてください。
次の手順を実行する前に、データが追跡テーブルに反映されるまで 1 分間待ちます。
7. 開示データの同期 を選択して、開示ドキュメントに加えられた変更を同期し、変更が [概要] ページの [開示の概要] に反映されるようにします。
開示データの同期 ボタンは、ストレージの種類 フィールドが **OneDrive** に設定されている場合にのみ使用できます。
8. 開示を次のステータスに移動するには、[対応 中に移動] を選択します。
9. 必要な承認者からの承認を要求するには、[承認を要求] を選択します。

ローカルシステムでナラティブ開示を作成

組織の Narrative ESG Management 開示を作成し、ローカルシステムに保存します。開示を作成した後、ドキュメントをダウンロードして編集し、測定基準を追加して、インスタンスに ESG Management アップロードし直すことができます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.reporting_disclosure_manager または sn_esg.admin

このタスクについて

開示を作成するときに、開示をローカル・システムに保存するか、などの Microsoft OneDrive リモート・ストレージに保存するかを指定できます。作成された開示は、プライマリドキュメントとして機能します。この手順では、ローカルストレージでナラティブ開示を作成する手順を示します。

注:

開示を作成した後は、Ctrl + A キーと Delete を使用して開示ドキュメントのコンテンツを削除しないでください。これを行うと、ドキュメントに関連付けられたメトリックは削除されず、追跡されます。開示ドキュメントの作成後にカスタムプロパティの [ドキュメント ID] と [開示番号] が更新または削除されていないことを確認します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい開示フォーム

フィールド	説明
番号	開示の識別番号。このフィールドは自動的に設定されます。
ステータス	開示のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
名前	開示の名前。
説明	開示の説明。
タイプ	開示のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ○ 年次報告書 ○ ESG レポート ○ 規制とフレームワーク ○ 情報の要求 ○ 評価とインデックス ○ サプライヤーアンケート ○ その他
所有者	開示の受託者。
リモートストレージにアップロード	開示をリモートストレージに Microsoft OneDrive 保存する必要があるかどうかを決定するオプション。このオプションを選択すると、フォームに「リモート・ストレージ」セクションが表示されます。この手順では、このオプションを選択しないでください。
データ分類	開示情報の分類。選択肢は次のとおりです。 ○ 公開: 開示を公開するかどうかを決定します。 ○ 非公開: 開示を非公開にする必要があるかどうかを決定します。
承認者	開示を承認する必要があるユーザー。

4. 開示を保存するには、**[保存]** をクリックします。

次の手順を実行する前に、データが追跡テーブルに反映されるまで 1 分間待ちます。

5. 作成されたドキュメントを変更してアップロードするには、「」 [開示文書のアップロード](#)を参照してください。
6. 開示を次のステータスに移動するには、[対応 中に移動] を選択します。
7. 必要な承認者からの承認を要求するには、[承認を要求] を選択します。

開示文書のアップロード

ローカルに ESG Management 作成された開示をアプリケーションインスタンスにアップロードします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. ローカルに作成された開示を開きます。
3. 開示 **文書のアップロード** を選択します。
4. ダウンロードアイコンを選択すると、ドキュメントがダウンロードされます。
5. 既に存在するドキュメントを削除します。
6. ドキュメントに必要な編集を行います。
7. 新しいドキュメントをアップロードするには、[ファイルの添付] を選択し、アップロードするドキュメントを参照します。
8. **[Save (保存)]** を選択します。

タスクの結果

開示ドキュメントが同期されます。データの同期には時間がかかります。

開示ドキュメントを追加

作成する開示のセカンダリ関連ドキュメントまたはサポートドキュメントを追加します。開示レポートの補足文書には、環境および社会指標を詳述したサステナビリティレポート、ガバナンス構造を示すコーポレートガバナンス文書、および企業のESGパフォーマンスを検証する第三者認証が含まれる場合があります。さらに、倫理やサプライチェーンの実践に関するポリシーなどの関連ポリシーは、包括的なESG開示に貢献します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

このタスクについて

開示を作成すると、その開示がプライマリドキュメントになります。セカンダリドキュメントを追加することはできますが、プライマリドキュメントを削除することはできません。ドキュメントが更新されるたびに、最新バージョンのドキュメントのみがインスタンスに保存されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. ドキュメントを追加する開示を開きます。
3. **[ドキュメント]** 関連リストを選択します。

4. [追加] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

開示文書フォーム

フィールド	説明
名前	ドキュメントの名前。
タイプ	ドキュメントのタイプ。プライマリドキュメントは常に自動的に作成される開示用の空白のドキュメントであるため、このフィールドは自動的に [セカンダリ] に設定されます。
URL	ドキュメントが別の場所でホストされている場合のドキュメントの URL。
ドキュメント	添付するサポートファイル。

6. [Save (保存)] を選択します。
7. ドキュメントの詳細を表示するには、ドキュメントを選択し、[添付ファイル] サイドパネルに詳細を表示します。

開示に測定基準を追加する

開示データに貢献するために役立つ測定基準を開示に追加します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

このタスクについて

開示に測定基準を手動で追加した後、それらの測定基準が開示に寄与しなくなった場合、または誤って追加した場合は、それらの測定基準を削除することもできます。ただし、アプリケーションから Microsoft 365 for ServiceNow Reporting 追加された測定基準は削除できません。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**。
2. 関連測定基準を追加する開示を開きます。
3. [関連測定基準] 関連リストを選択します。
4. [追加] を選択します。
5. 追加する測定基準を選択します。
6. [追加] を選択します。
7. [保存] を選択します。

レポートフレームワーク

アプリケーションは ESG Management 、持続可能性レポートフレームワークを使用して、組織が経済、環境、社会、およびガバナンスのパフォーマンスをレポートできるようにします。ESG Management アプリケーションは、ESG データをレポートするために使用できる Global Reporting Initiative (GRI) または Sustainability Accounting Standards Board (SASB) 標準をサポートしています。

GRI 標準を使用することにより、どの組織でも、経済、環境、および人々への影響を比較可能な信頼できる方法で理解し、レポートすることができるため、持続的な開発への貢献に関する透明性が向上します。

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) は、企業が投資家に財務的に重要な持続可能性情報を開示するための標準を設定する ESG ガイダンスフレームワークです。SASB 標準により、企業は、財務的に重要な持続可能性情報を特定して管理し、投資家に伝達できます。

ESG Management アプリケーションは、Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG および Sustainability Accounting Standards Board (SASB) のコンテンツパックに付属しています。

詳細は、「[Global Reporting Initiative \(GRI\) フレームワーク](#)」または「[Sustainability Accounting Standards Board \(SASB\) フレームワーク](#)」を参照してください。

信頼できるソースコンテンツフォームでの更新

ESG Management アプリケーションがインスタンスにインストールされると、[レポート] セクションに [レポート要件と推奨事項 (**Reporting requirements and recommendations**)] というタイトルの新しいフィールドが表示されます。このフィールドは、レポート組織によって提供されるレポート要件に関するガイドラインを提供します。

注:

[レポート要件] フィールドは、ESG Management アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

信頼できるソースコンテンツフォームの [レポート要件] フィールドで、レポート組織が提供する次のサンプル情報を参照してください。レポート組織は、次の情報をレポートするものとします。a. 組織の GHG 排出原単位比。b. その比率を計算するために選択された組織固有の測定基準 (分母)。c. 原単位比に含まれる GHG 排出量のタイプ: 直接 (スコープ 1)、エネルギー間接 (スコープ 2)、その他の間接 (スコープ 3)。d. 計算に含まれるガス: CO₂、CH₄、N₂O、HFC、SF₆、NF₃、またはすべて。2.7 開示 305-4 で指定された情報を編集するときに、レポート組織は次の操作を行うものとします: 2.7.1 絶対的な GHG 排出量 (分子) を組織固有の測定基準 (分母) で割ることによって比を計算します。2.7.2 その他の間接的 (スコープ 3) GHG 排出量について原単位をレポートしている場合、直接 (スコープ 1) の原単位比およびエネルギー間接 (スコープ 2) 排出量とは別に、この原単位比をレポートします。レポートの推奨事項 2.8 開示 305-4 で指定された情報を編集する場合、レポート組織は、時間の経過に伴う透明性または比較可能性に役立つ場合は、次のように GHG 排出原単位比のブレイクダウンを提供する必要があります: 2.8.1 事業部門または施設。2.8.2 国。2.8.3 ソースのタイプ。2.8.4 アクティビティのタイプ。

Global Reporting Initiative (GRI) フレームワーク

Global Reporting Initiative (GRI) 標準を使用することにより、組織は、経済、環境、および人々への影響を比較可能な信頼できる方法で理解し、レポートすることができます。GRI 標準は、ユーザーが持続的な開発への貢献に関する透明性を高める役に立ちます。GRI 標準は、さまざまなレポート会社、投資家やポリシー立案者などのステークホルダー、キャピタルマーケット、市民社会に関連しています。

重要:

このリリース以降 Washington DC は、Global Reporting Initiative (GRI) ESG Content Accelerator 将来の廃止に向けて準備されています。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは ESG Content Accelerator アプリケーションで提供されます。詳細については、Now Support ナレッジベース記事の「[Deprecation Process \(廃止プロセス\)](#) [KB0867184]」を参照してください。

Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG アプリケーションを使用すると、顧客は Global Reporting Initiative (GRI) フレームワークを採用して ESG Management 開示を公開できます。Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG アプリケーションを ESG Management アプリケーションとともに使用すると、ユーザーはレポートのニーズに合わせて、信頼できるソースコンテンツとして利用可能な事前定義された GRI 開示を利用できます。

ESG Management アプリケーションをインストールし、プラグインを有効にします Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG。

アプリケーションは Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG、フレームワークに従った Global Reporting Initiative (GRI) レポートを容易にするための GRI 標準の引用とガイダンスの完全なセットを提供します。アプリケーションの一部として Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG、GRI 各種法令・基準等と 178 件の引用が同梱されています。ESG Management プログラムマネージャーは、必要に応じて、開示内の信頼できるソースコンテンツを表示し、関連付けることができます。

免責事項

i 注:

GRI規格には、権威あるテキストが含まれています。Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG の内容と GRI 標準の間に不一致がある場合は、GRI 標準のテキストが優先されるものとします。

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) フレームワーク

ESG Management アプリケーションは Sustainability Accounting Standards Board (SASB) 標準をサポートしています。Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーションを使用すると、顧客は ESG Management の SASB フレームワークを採用して開示を公開できます。

i 重要:

このリリース以降 Washington DC は、Sustainability Accounting Standards Board (SASB) ESG Content Accelerator 将来の廃止に向けて準備されています。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは ESG Content Accelerator アプリケーションで提供されます。詳細については、Now Support ナレッジベース記事の「[Deprecation Process \(廃止プロセス\)](#) [KB0867184]」を参照してください。

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) は、企業が投資家に持続可能性情報を開示する際の標準を設定するレポートフレームワークです。レポートフレームワークでは、SASB 標準は企業に財務的に重大な影響を与えると予想される ESG の問題に焦点を当てています。

Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーション

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) アプリケーションには、業界別にまとめられた SASB 標準の完全なコレクションが含まれています。これらの標準は、SASB フレームワークに沿ってレポートをサポートし、自動化します。Sustainability Accounting Standards Board (SASB) アプリケーションは、ESG Management アプリケーションの補足としてのみ使用されます。

このアプリケーションを ESG Management アプリケーションとともに使用すると、ユーザーはレポートのニーズに合わせて、信頼できるソースコンテンツとして利用可能な事前定義された SASB 開示を利用できます。

コンテンツパックには SASB 各種法令・基準等と引用が含まれ SASB でおり、アプリケーションのユーザーは ESG Management 関連するアクティビティをスムーズに SASB 開始できます。各種法

令・基準等は、信頼できるコンテンツに確実に準拠するためのリスク、ポリシー、コントロール、監査、およびその他のプロセスを定義します。各種法令・基準内項目には、相互に関連する可能性のある各種法令・基準等の規定が含まれています。各種法令・基準内項目は、各種法令・基準等を管理可能なテーマに分類します。引用を作成するか、UCF 各種法令・基準等からインポートして、引用間に必要な関係を作成できます。

SASB 認定要件の詳細については、[SASB のドキュメント](#) を参照してください。

Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーションには、さまざまなセクターが用意されています。各セクターの下に、さまざまな業界が表示されます。たとえば、消費財セクターの下には、アパレル、アクセサリなどの業界が一覧表示されます。

これらすべてのセクターがすべての顧客に関連しているとは限りません。したがって、関連する信頼できるソースコンテンツをインポートするために、[SASB の信頼できるソースコンテンツをインポート] という新しいアプリケーションモジュールが ESG ワークスペース に用意されています。

アプリケーションを設定するためのロール

組織内の sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーが、SASB フレームワークの設定や、Sustainability Account Standards Board (SASB) Content Accelerator for ESG アプリケーションのダウンロードを担います。

SASB の信頼できるソースコンテンツのインポート

組織に関連している SASB の信頼できるソースコンテンツをインポートします。SASB 標準により、世界中の企業が、財務的に重要な持続可能性情報を特定して管理し、投資家に伝達できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理**.
2. **[New (新規)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

SASB 信頼できるソースコンテンツインポートフォーム

フィールド	説明
セクター	信頼できるソースコンテンツがブルされる選択されたセクター。
業界	信頼できるソースコンテンツがブルされる選択された業界。 i 注: 特定のセクターに関連付けられている信頼できるソースコンテンツをインポートする場合は、業種フィールドを空のままにしてそのセクターを選択し、信頼できるソースコンテンツをインポートします。
説明	選択したセクターと業界の説明。[業界] フィールドが空の場合、業界の説明はすべての関連業界として表示されます。

フィールド	説明
	たとえば、選択したセクターが [消費財 (Consumer Goods)] であり、[業種] フィールドが空の場合、説明は「[消費財 (Consumer Goods)] セクターおよびすべての関連業界の信頼できるソースコンテンツのインポート」と表示されます。 [すべてインポート] オプションを選択すると、説明が「すべてのセクターと業界の信頼できるソースコンテンツのインポート」と表示されます。
すべてインポート	コンテンツパックからすべての信頼できるソースコンテンツをインポートするオプション。このオプションは、すべてのセクターと業界に関連するすべての信頼できるソースコンテンツをインポートします。このオプションを選択すると、[セクター] および [業種] フィールドが読み取り専用フィールドとして使用可能になります。 i 注: 信頼できるソースコンテンツフォームの [ステータス] フィールドには、インポートのステータスが [未開始]、[処理中 (In progress)]、および [完了] として表示されます。

4. 信頼できるソースコンテンツインポートレコードを保存するには、[保存] をクリックします。

5. 選択したセクターまたは業界に関連する信頼できるソースコンテンツをインポートするには、[インポート] をクリックします。

インポートが既に進行中の場合、現在のインポートが完了するまで、信頼できるソースコンテンツインポート用に別のレコードを送信することはできません。インポートが既に進行中のときに信頼できるソースコンテンツインポート用に別のレコードを送信すると、次のメッセージが画面に表示されます：インポートプロセスは別の選択で進行中です。しばらくしてからもう一度お試しください。

[インポート] をクリックすると、次のメッセージが画面に表示されます：信頼できるソースコンテンツのインポートが開始されました。このプロセスには時間がかかる場合があります。

すべての信頼できるソースコンテンツがインポートされると、[信頼できるソースコンテンツインポート (Citation Import)] フォームの [ステータス] フィールドにステータスが [完了] と表示されます。

タスクの結果

新しくインポート SASB された信頼できるソースコンテンツは、 開示要件 > 信頼できるソースコンテンツ で、ESG ワークスペース。

次のタスク

信頼できるソースコンテンツを測定基準と測定基準の定義に関連付けます。詳細については、「[自動測定基準の定義の作成](#)」を参照してください。

他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携

ESG Management を プロジェクトポートフォリオ管理 および Integrated Risk Management (IRM) と統合できます。これらの統合により、目標を追跡するためのその他のオプションが得られます。

統合：プロジェクトポートフォリオ管理

ESG Management とプロジェクトポートフォリオ管理 を統合すると、ESG の目標を達成するためのアクティビティについて、計画、ロードマップの構築、優先順位付けを行えます。ESG に関連するすべてのプログラムとプロジェクトは、以下で確認できます。すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ。

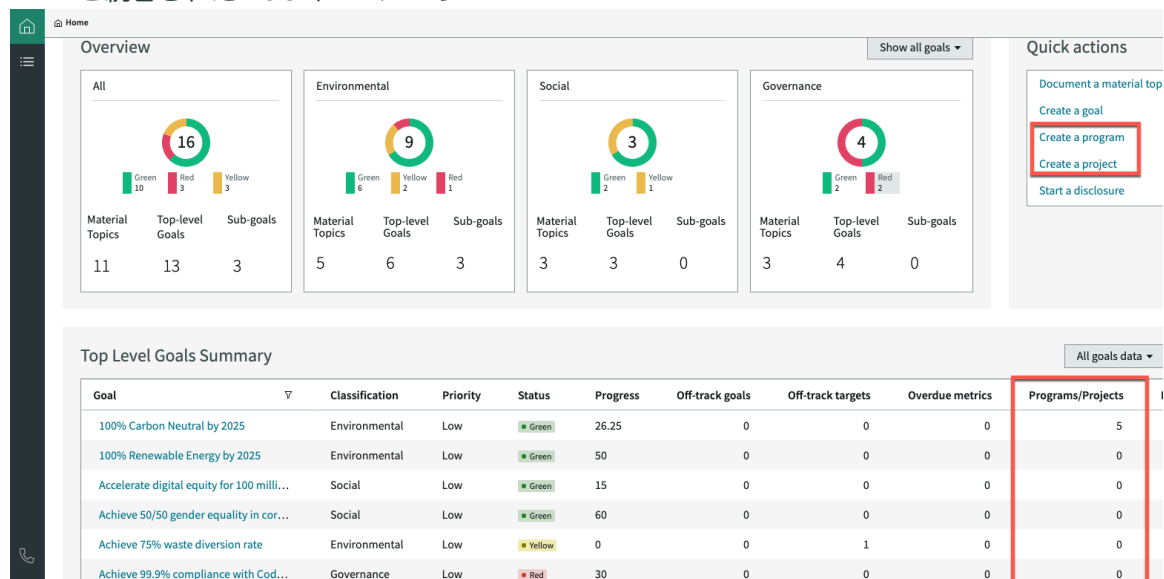
重要なトピックの目標を作成するときは、それらの目標を達成するためにいくつかのアクティビティを実行します。実行する作業は、プログラムとプロジェクトの形で取り込まれます。プロジェクトポートフォリオ管理 と統合した場合、目標に対するプログラムとプロジェクトを作成できます。プログラム管理およびプログラムの作成方法の詳細については、「[プログラム管理](#)」を参照してください。

プロジェクトフォームで実行する必要がある構成を確認するには、「[プロジェクトフォームでの優先度と目標の表示](#)」を参照してください。

ゴールフレームワーク とともにインストールされるテーブルを確認するには、「[と一緒にインストールされるロール ゴールフレームワーク](#)」を参照してください。

次の図は、プロジェクトポートフォリオ管理 統合を表示した ESG ホームページを示しています。統合により、[クイックアクション] セクションに新しいアクションが追加され、[トップレベルの目標の概要] セクションに [プログラム/プロジェクト] 列が作成されます。

PPM と統合された ESG ホームページ



自動翻訳

プロジェクトポートフォリオ管理 と統合すると、[目標] フォームに [プログラム/プロジェクト] 関連リストが表示されま

100% Carbon Neutral by 2025

Classification: Environmental Status: Green Owner: Karla Ken State: In Progress

Overview Details **Programs/Projects** Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking

In-scope entities



Goals summary

Total sub-goals

3

Complete On track At risk Off track
0 3 0 0

Targets summary

Total targets

1

Complete On track At risk Off track
0 1 0 0

Open metrics

Total Due in 30...

4 0

Overdue
0

す。

統合：IRM

ESG Management を IRM と統合すると、リスク、リスクステートメント、ポリシー、コントロール目標、および問題を目標に追加できます。たとえば、目標にポリシーを追加すると、関連するすべてのコントロール目標とコントロールがこの目標に関連付けられます。この統合は、目標に脅威を与えるリスクを特定して評価する際に役立ちます。

注:

ESG ユーザーは、ポリシーを作成する必要はありません。ポリシーは IRM 管理者によって作成されます。ユーザーは、ポリシーを目標に関連付けることのみが必要です。

IRM と統合すると、[目標] フォームの [その他] リストの下に追加オプションが表示されま

100% Carbon Neutral by 2025

Classification: Environmental Status: Green Owner: Karla Ken State: In Progress

Overview Details Programs/Projects Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking

In-scope entities



Goals summary

Total sub-goals

3

Complete On track At risk Off track
0 3 0 0

Targets summary

Total targets

1

Complete On track At risk Off track
0 1 0 0

Total Due in 30...

4 0

Overdue
0

- Policies
- Control Objectives
- Additional Control Objectives
- Controls
- Additional Controls
- Issues
- Risk Statements
- Risks
- Additional Risks (1)

す。

ESG Management とともにインストールされるロールとテーブルの詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

関連情報

[ゴールフレームワーク](#) への既存の目標データの移行

Advanced Risk アセスメントとの統合 ESG Management

この機能 ESG リスク管理 により、ビジネスの ESG リスクを評価できます。この機能は、Advanced Risk アセスメントとの統合 ESG Management です。リスクアセスメント機能を使用するには、sn_esg_risk_mgmt プラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

Advanced Risk アセスメント機能を使用すると、リスクアセスメントを意思決定プロセス全体の一部として統合できます。

リスクアセスメントには、定量的と定性的の 2 つのタイプがあります。定性的リスクアセスメントは、リスクの可能性と影響に関する査定人の認識に依存します。方法が純粋に定性的である場合、評価は高、中、低などのリスト値に基づいています。この場合、リスクスコアはロールアップされません。この方法には数学的依存関係が最小限であるため、定性的リスクアセスメントは簡単かつ迅速に実行できます。この方法では、評価対象のプロセスまたは資産に関する査定人のナレッジを活用することもできます。リスクアセスメントを初めて使用するユーザーは、通常、定性的アセスメントを使用します。定量的リスクアセスメントは、ファクトベースで測定可能な高度に数学的なデータに焦点を当てています。高度なシミュレーション技術を使用する定量的リスク評価では、リスクは純粋に数値で定量化されます。

この ESG リスク管理 アプリケーションは両方のタイプのリスクアセスメントを提供し、エンティティと重要なトピックの両方を評価するために使用されます。オブジェクトベースのアセスメントは重要なトピックに焦点を当てていますが、リスクベースのアセスメントはエンティティに適用されます。結果のリスクアセスメントスコアは、リスクベースのアセスメントのために集計されます。オブジェクトベースのアセスメントでは、エンティティ、リスクステートメント、コントロールなどの包括的な GRC セットアップがない場合でも、レコードまたはオブジェクトのリスク ServiceNow を評価できます。オブジェクトアセスメントの例には、変更管理の評価や引用の評価が含まれます。Advanced Risk アセスメントの詳細については、ドキュメント [Advanced Risk Assessment](#) を参照してください。

sn_esg_risk_mgmt プラグインとともにインストールされるロールの詳細については、「[」](#)を参照してください [ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)。

のワークフロー ESG リスク管理

重要なトピックとエンティティのリスクアセスメントを実行するには、ESG 管理者、ESG リスクマネージャー、および ESG データ所有者が一連の定義された手順を実行する必要があります。

ESG リスクアセスメントを正常に実行するには、次の手順が必要です。

1. システム管理者は、次の *Migrate to Advanced Risk Assessments* 場所にあるプロパティを有効にします。 **Advanced Risk** アセスメント>管理>プロパティ。
2. ESG 管理者として、次のタスクを完了します。
 - a. デフォルトで提供されている 2 つのリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成します。1 つの RAM は重要なトピックを評価するために設計されており、もう 1 つの RAM はエンティティの評価用に調整されています。方法論を設定するときは、固有リスクや残存リスクなど、評価するリスクを指定します。これらの各タイプを理解するには、「[」](#)を参照してください [Advanced Risk Assessment](#)。
 - b. リスクアセスメントの要素を構成します。要素は、リスク査定人が回答するリスクアセスメント中に表示される質問です。因子とそのタイプの詳細については、[Factors in Advanced Risk Assessment](#) を参照してください。

3. ESG リスクマネージャーは、次のタスクを完了します。

- a. リスクステートメントを作成し、エンティティをリスクステートメントに関連付けます。リスクステートメントの作成方法については、「」を参照してください [Create a risk statement](#)。
 - b. リスクを作成します。リスクの作成方法については、「」を参照してください [Generate a risk from a risk statement](#)。
 - c. リスクアセスメントスコープを作成して、エンティティのリスクを定義および特定し、アセスメントの査定人と承認者を特定し、アセスメントの頻度を定義し、リスクアセスメントを開始します。リスクアセスメントスコープの作成方法については、「」を参照してください [Create a risk assessment scope and initiate assessments](#)。
4. リスクベースのアセスメントの場合、ESG データ所有者は、の ESG ワークスペース[タスク] ペインからアセスメントに回答し、レビューし、承認者が定義されている場合は承認のためにアセスメントを送信します。承認者が定義されていない場合、リスクスコアはリスクとエンティティにロールアップされます。
5. オブジェクトベースのアセスメントの場合、ESG プログラムマネージャーは、の [タスク] ペイン ESG ワークスペースからアセスメントに回答し、レビューし、承認のために送信します (承認者が定義されている場合)。

リスクアセスメント方法論を構成

デフォルトで提供されるリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成します。RAM は、リスクアセスメントエンジンの構成またはレコードです。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

RAM を使用して、組織内のリスクまたはオブジェクトを評価できます。たとえば、RAM を構成して、リスクアセスメントのタイプとリスクアセスメントが実行されるエンティティを指定できます。デフォルトで提供される RAM は 2 つあり、ドメイン領域は **ESG** に設定されています。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > リスク管理 > リスクアセスメント方法**.
2. 変更または設定する RAM を選択します。
3. フォームでフィールドを変更します。
RAM フィールドの詳細については、「」を参照してください [Risk Assessment Methodology form](#)。

リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始する

エンティティのリスクを定義および特定するためのリスクアセスメントスコープを作成します。アセスメントの査定人と承認者を特定し、アセスメントの頻度を定義します。スコープを作成したら、リスクアセスメントを開始します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_risk_mgmt.risk_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > リスクアセスメント計画 > スコープ対象エンティティ**.
2. **[New (新規)]** を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

リスクアセスメントスコープフォームのフィールドの詳細については、「」を参照してください
[Create a risk assessment scope and initiate assessments](#)。

重要なトピックに関するリスクアセスメントを開始する

リスクアセスメントを開始し、重要なトピックの所有者に送信することで、重要なトピックに対するリスクを評価します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program.manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック**.
2. リスクを評価する重要なトピックを開きます。
3. [リスク評価の開始] を選択します。

タスクの結果

リスクアセスメントは重要なトピックの所有者に送信されます。その後、査定人がアセスメントに回答します。

リスクアセスメントに応答

リスクアセスメントを実施して、アプリケーションのリスクを評価します ESG Management 。

始める前に

必要なロール : sn_esg.data_owner

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > 自分のタスク**.
2. 評価するリスクアセスメントを開き、次のいずれかを実行します。
 - アセスメントを開始する場合は、[始めましょう] を選択します。
 - リスクアセスメントを他のユーザーにアサインする必要があると思われる場合は、[再アサイン] を選択して必要な詳細を入力してください。
 - このリスクが以前に評価された場合、以前の評価を表示するには、[前回の評価の確認] を選択します。
3. 固有のアセスメントを実行するには、すべての固有のアセスメントの質問に回答します。
4. オプション: 定性的および定量的重み付けを表示するには、[総合評価] を選択します。
5. スコアを保存して表示するには、[保存] を選択します。
6. オプション: 計算された固有リスクの結果を変更するには、次の操作を行います。
 - a. [計算されたスコアを変更したい] オプションを選択します。
 - b. [固有リスクを上書き] リストから、適切な値を選択します。
 - c. 計算されたスコアの変更の理由を説明するコメントを入力します。
 - d. [保存] を選択します。

7. 軽減コントロールの実装後に残っているリスクを評価するには、[残存アセスメントに移動 (**Move to residual assessment**)] をクリックし、要素に対応します。
スコアを変更する理由を入力することで、計算された残存スコアを変更することもできます。
8. オプション: アセスメントを変更する場合は、[アセスメントを編集] を選択します。
9. 承認者を定義した場合は、[レビューと送信] を選択します。
アセスメントホームページが表示されます。アセスメントの概要を確認できます。
10. 承認を要求、アサインを編集、または再アサインするには、次のいずれかを選択します。

ESG Management と Watershed の統合

Watershed は、組織が炭素排出量と再生可能エネルギーおよびその影響を測定できるようにするツールです。また、組織が排出量の削減に取り組み、カーボンフットプリント削減の進捗状況をレポートできるようにします。

ESG Management ユーザーは Watershed を使用して、そのビジネスのスコープ 1、2、3 の排出量を計算できます。企業の温室効果ガス (GHG) の排出量は 3 つのスコープに分類されます。次の表で、各スコープの違いについて説明します。

スコープ 1、2、3 の排出量の差異

スコープ 1	スコープ 2	スコープ 3
次のソースからの直接的な GHG の排出量： - 燃料燃焼 - 社用車からの排出量 - 所有または制御されているプロセス機器での化学製品製造による排出量 - 一時的排出量	次のソースからの間接的排出量： - 購入電力 - 熱および蒸気。	次のソースからの間接的排出量： - 購入品およびサービス - 出張 - 従業員の通勤 - 廃棄物処理 - 販売した製品の使用 - 輸送と配送 (アップストリームおよびダウンストリーム) - 投資 - リース資産とフランチャイズ

Watershed はスプレッドシートでデータを管理し、それらのスプレッドシートを ESG Management プログラムマネージャーに提供します。sn_esg.program_manager ロールを持つ ESG Management プログラムマネージャーは、スプレッドシートから ESG Management アプリケーションのソーステーブルにデータをインポートする必要があります。ソーステーブルは、ServiceNow インスタンスの測定基準の定義で指定されます。

の機能 Watershedを使用するには、プラグインを Watershed Integration for ESG アクティブ化して、[測定基準の統合を構成する必要があります。](#)

i 注:

- データを正常にインポートするには、import_admin ロールを sn_grc_metric.admin ロールに追加する必要があります。
- [メソッドタイプ] が [外部ソース] である自動測定基準の定義のみが、データのインポートをサポートしています。システムに手動測定基準の定義が既にある場合は、データをインポートする前に [タイプ] を [自動] に、[メソッドタイプ] を [外部ソース] に変更する必要があります。詳細については、「[自動測定基準の定義の作成](#)」を参照してください。

スプレッドシートからデータをインポートする前に、測定基準の定義を作成することも、システムに依存してプレースホルダーを作成し、後で詳細を追加することもできます。

測定基準は、測定基準の定義で定義した頻度に基づいて生成されます。測定基準値は、その単位とともに、測定基準の定義における測定基準の関連リストに表示されます。この値は、測定基準の定義で指定された式に基づいてロールアップされます。

i 注:

任意の測定基準データを優先レポート単位に変換できます。

デフォルトでは、Now Platform は Watershed からインポートできる次のデータを提供します。

- 炭素排出量
- 再生可能エネルギー
- 再生不能エネルギー

水使用量や廃棄物処理などの他のデータをインポートすることもできます。他のタイプのデータをインポートするには、[測定基準の統合](#)を使用してデータをインポートします。

Watershed Integration for ESG の変更

Watershed Integration for ESG 構成を変更して、Watershed からデータをインポートして測定基準を生成する方法を指定します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

Now Platform は、Watershed からデータをインポートするための事前構成された統合を提供します。ただし、要件に基づいて構成プロパティを更新または変更することができます。たとえば、構成を変更するときに、測定基準の定義を自動的に作成するかどうかや、測定基準データをオーバーライドするかどうかを指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Watershed > 測定基準の統合**.
2. [測定基準の統合] ページで、**[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. フォーム上のフィールドを編集します。

[Watershed 統合 (Watershed Integration)] フォーム

フィールド	説明
名前	マッピングの名前。
ソース	マッピングのソース。このフィールドは、自動的に [Watershed データ] に設定されます。

フィールド	説明
ドメイン領域	統合の作成元ドメイン。統合が [Environmental, Social, and Governance] から作成される場合、このフィールドは自動的に [ESG] に設定されます。
ソーステーブル	このソーステーブルは自動的に [Watershed データ] に設定されます。
測定基準の定義を自動的に作成	データのインポート中に測定基準の定義を自動的に作成するオプション。
測定基準の単位を自動的に作成	データのインポート中に測定基準の単位を自動的に作成するオプション。
エンティティタイプを自動的に作成	データのインポート中にエンティティタイプを自動的に作成するオプション。
エンティティを自動的に作成	データのインポート中にエンティティを自動的に作成するオプション。
測定基準データを上書き	データのインポート中に測定基準データを上書きするオプション。

4. [更新] を選択します。

データマッピングの作成

Watershed スプレッドシートの事前構成された列以外の列から Watershed データをインポートするデータマッピングを作成します。デフォルトでは、3 つの列からのデータインポートがサポートされています。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

デフォルトでは、炭素排出、再生可能エネルギー、および非再生可能エネルギーに関連するデータをインポートできます。スプレッドシートから水使用量や廃棄物処理などの他のタイプのデータをインポートする場合は、それらのデータマッピングを作成できます。必要な数のマッピングを作成できます。

手順

1. 移動先 **すべて > メトリクス > 測定基準の統合**。
2. **[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. [データマッピング] セクションで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

[データマッピング] フォーム

フィールド	説明
名前	マッピングの名前。
ソーステーブル	マッピングのソーステーブル。このフィールドは、自動的に [Watershed データ] に設定されます。

フィールド	説明
データ列	データのインポート元の列。
開始日の列	開始日を含むソーステーブル内の列。
開始日	マッピングの開始日。開始日列がない場合は、開始日を指定します。
頻度	スプレッドシート内のデータの頻度。たとえば、月次データ、年次データなど。
終了日の列	終了日を含むソーステーブル内の列。
終了日	マッピングの終了日。終了日列がない場合は、終了日を指定します。
単位列	インポートされたデータセットから得られた単位列。
単位	データの単位。
デフォルトの所有者	測定基準の定義の所有者またはエンティティの所有者。
測定基準の統合	測定基準の統合。このフィールドは、自動的に [Watershed 統合 (Watershed Integration)] に設定されます。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果

新しいマッピングでデータをインポートする準備ができました。

エンティティでのレコード識別子の作成

エンティティを正しくマッピングするためのテキストを使用してレコード識別子を作成します。このアクティビティでは、新しいエンティティを作成する必要がないため、ESG プログラムマネージャーの時間を節約できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

エンティティ、エンティティタイプ、測定基準の定義など、システム内の既存データを、Watershed スプレッドシートのデータとマッピングできます。スプレッドシートのデータ形式が異なる場合は、マッピングレコード識別子を作成できます。この手順では、エンティティクラスが [ロケーション] のエンティティを例として使用します。たとえば、Akaska, Japan というタイトルのエンティティが既にシステムにあり、スプレッドシートに Akaska, Minito, JP というエンティティ名が含まれているとします。この場合は、システムで Akaska, Minato, JP を Akaska, Japan にマッピングできるようにする必要があります。このタスクを実行するには、システム内のエンティティを識別するレコード識別子を作成する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > スコーピング > すべてのエンティティ**。
2. レコード識別子を追加するエンティティを検索して開きます。
3. [マッピング] 関連リストを選択します。

4. [新規] を選択します。
5. スプレッドシートからのエンティティにマッピングするテキストをコピーします。
6. [レコード識別子 (**Record identifier**)] フィールドに、前の手順でコピーしたテキストを貼り付けます。
7. [送信] を選択します。

タスクの結果

識別子がエンティティに追加されます。データのインポート中にレコード識別子テキストが検出されると、レコードは正しいエンティティにマッピングされます。

Watershed から ESG Management へのデータのロード

Watershed スプレッドシートからステージングテーブルにデータをロードします。データをロードしてセットアップを完了すると、Watershed Integration for ESG を使い始めることができます。

始める前に

import_admin ロールを sn_grc_metric.admin ロールに追加する必要があります。

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > データのロード**。
2. [データのロード] フォームで、[既存のテーブル] を選択します。
3. [インポートセット] フィールドで、[**Watershed データ [sn_esg_watershed_data]**] を選択します。
4. [ファイルを選択] を選択し、ロードするファイルを選択します。
5. [開く] を選択します。
6. [シート番号] フィールドで、シート番号が適切であることを確認します。
7. [ヘッダー行] フィールドで、ヘッダー行が適切であることを確認します。
8. [送信] を選択します。

タスクの結果

スプレッドシートがステージングテーブルにロードされます。スプレッドシートのすべての列が作成されます。

次のタスク

[インポートセットを表示します。](#)

インポートセットの表示と検証

データが外部ソースから正しくインポートされているかどうかを検証します。この検証により、データのインポート中にエラーが発生したかどうかを特定できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

データがスプレッドシートなどの外部ソースから ESG Management アプリケーションにロードされると、各行のステータスを利用できるインポートセットが作成されます。インポート中にエラーが発生した場合、ステータスは [エラー] として更新されます。データがインポートされると、ステー

タスは [挿入済み] として更新されます。エラーログでエラーの原因を確認することもできます。測定基準データがオーバーライドされると、そのステータスは [無視] に設定されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > インポートセット**.
2. 検証するインポートセットを開きます。
3. [インポートセット行] セクションで、各行のステータスを確認します。
エラーを確認するためにデータを再ロードする場合は、データを再度インポートする必要があります。インポートセットの [関連リンク] の下の [再処理] は選択しないでください。
4. エラーログを表示するには、[インポートログ] セクションを選択します。

次のタスク

変換マップを作成します。

変換マップを作成

ステージングテーブルの列をターゲットテーブルの列に一致させるための変換マップを作成します。この変換は、ソーステーブルのデータを測定基準データに変換する際に役立ちます。

始める前に

インポート前にシステムに手動測定基準の定義が既に存在する場合は、測定基準の定義のタイプを [自動] に、メソッドタイプを [外部ソース] に変更する必要があります。

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

Watershed データ [sn_esg_watershed_data] などのステージングテーブルから、測定基準データ [sn_grc_metric_data] などのターゲットテーブルにデータをインポートするときに、マップが変換されます。デフォルトでは、Watershed からデータをインポートするときに各テーブルで 3 つの変換マップを使用できます。

手順

1. 移動先 **Environmental, Social, and Governance > Watershed > インポートセット**.
2. 作成したインポートセットを開きます。
3. 関連リンクで、[変換] を選択します。
4. [インポートセットと変換マップを指定] フォームで、必要なマップを [利用可能] 列から [選択したマップ、順番に実行 (Selected maps run in order)] 列に移動します。
5. [変換] を選択します。

ESG Management と Urjanet の統合

Urjanet は、さまざまな公共料金の請求書をソースから直接抽出し、それに依存するビジネスシステムやアプリケーションに配信するクラウドベースのプラットフォームです。ESG プログラムマネージャーまたは測定基準マネージャーは、さまざまな施設やオフィスの所有者から Urjanet ユーティリティデータを自動的に取得し、手作業によるデータ入力を回避できます。

公共料金の請求書は、電気、天然ガス、水道、廃棄物などの公益事業から月に一度発行および支払われる詳細な請求書です。を使用すると、Urjanet ESG integration組織はから履歴またはリアルタイムのユーティリティデータをUrjanetNow Platform測定基準の形式で取得できます。これらの測定基準は、を使用して ESG ワークスペース 追跡でき、目標やターゲットなどの他の ESG コンポーネントに関連付けられているため、組織は持続可能性に必要なアクションを実行できます。

この統合を使用すると、次のタイプのデータを Urjanet アプリケーションに ESG Management 自動的に取り込むことができます。

- 水と電気の消費量
- 廃棄物の発生量など

の Urjanet ESG integration ワークフローは次のとおりです。

1. エンティティの作成: すべての場所の各ユーティリティデータは、アプリケーション内の ESG Management エンティティとして追跡されます。たとえば、アトランタのオフィスでの電力消費量はエンティティと見なされます。したがって、追跡するすべてのユーティリティ データのエンティティを作成する必要があります。既にエンティティを作成している場合は、インポート元の Urjanet ユーティリティデータを作成されたエンティティにマッピングする必要があります。エンティティフォームの [エンティティクラス] や [エンティティオーナー] などの特定のフィールドは、統合のユーザーが手動で入力する必要があります。
2. 測定基準の定義を有効化: Urjanet ESG integration ServiceNow には、デフォルトでいくつかの測定基準の定義が用意されています。測定基準の収集に必要なものをアクティブ化する必要があります。アクティブな測定基準の定義のみが考慮され、そのデータがシステムにロードされます。デフォルトの測定基準定義の単位、頻度、エンタープライズ所有者 などの特定のフィールドは、統合のユーザーが手動で入力する必要があります。デフォルトで提供されている測定基準の定義を使用したくない場合は、独自の測定基準の定義を作成できます。
3. 測定基準のデータをインポート: ユーザーが必要な測定基準の定義をアクティブ化すると、それらの測定基準の定義とそのエンティティのデータが測定基準および測定基準データとしてインポート ESG Management されます。

Urjanet ESG integration のインストール

admin ロールを持っている場合は、Urjanet ESG integration アプリケーション (sn_esg_urjanet) をインストールできます。このアプリケーションは、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、[次のリンクを参照してください](#)。
- アカウントを作成し Urjanet 、ログイン資格情報を取得していることを確認してください。

必要なロール: sn_esg.admin

このタスクについて

Urjanet ESG integration とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- ジョブスケジュール
- テーブル

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**.
2. Urjanet ESG integration フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーション (sn_esg_urjanet) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエントリメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

**重要:**

インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

Urjanet 接続の作成

Urjanet と ServiceNow の間の Urjanet 接続を確立するために、有効な資格情報を使用してアカウント接続を作成します。統合では、各ドメインに対して 1 つの接続のみをアクティブにすることができます。インポートされたデータを論理的に定義されたドメインに分けることができます。ドメイン間のデータアクセスは制限されています。

始める前に

必要なロール: sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > 接続および資格情報エイリアス**.
2. [**Create New Connection & Credential** (新しい接続と資格情報の作成)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。このフィールドは自動的に [Urjanet 接続] に設定されます。
接続 URL	Urjanet API のベース URL。このフィールドは自動的に https://api.urjanet.com に設定されます。

フィールド	説明
日付	履歴データをロードする必要がある日付。この日付は過去の日付にする必要があります。 i 注: 日付は yyyy-mm-dd 形式にする必要があります。
資格情報名	資格情報の名前です。このフィールドは自動的に [Urjanet 資格情報] に設定されます。
ユーザー名	Urjanet アカountのユーザー名。
パスワード	Urjanet アカountのパスワード。

4. [作成] を選択します。

のエンティティマッピングの作成 **Urjanet**

のエンティティマッピングを作成するのは Urjanet 、 Urjanet ESG integration 各 Urjanet アカountメーターをエンティティと見なすためです。

始める前に

sn_esg_urjanet プラグインをアクティブ化していることを確認してください。

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

統合を開始する前に、エンティティマッピングがない場合は、エンティティマッピング Urjanet を作成して、アカウントメーターデータをエンティティにマッピングできます。アカウントメーターは Urjanet ESG integration エンティティと見なされます Urjanet 。この手順はオプションです。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > エンティティマッピング**。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[エンティティマッピング] フォーム

フィールド	説明
レコード識別子	Urjanet 測定 ID。
関連レコード	マッピングするエンティティ。
追加情報	管理者が入力する必要がある情報を指定するために使用されるフィールド。エンティティクラスやエンティティオーナーなどの特定のフィールドは、ユーザーが手動で入力する必要があります。
ステータス	レビューステータス。[追加情報] フィールドに指定された情報に基づいて、管理者は必要な情報を入力し、このフィールドのステータスを変更する必要があります。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	- レビュー不要: このオプションは、管理者がエンティティ レコードに入力するフィールドがない場合に使用します。 - レビューが必要:管理者がエンティティレコードの一部のフィールドに入力する必要がある場合は、このオプションを使用します。 - レビュー済み:管理者がエンティティレコードの指定されたフィールドに既に情報を提供している場合は、このオプションを使用します。 このフィールドは自動的に [レビュー不要] に設定されます。情報を入力した後、ステータスを [レビュー済み] に変更する必要があります。

4. [送信] を選択します。

測定基準の定義マッピングの作成

測定基準の定義マッピングを作成して、インポートされたデータを正しい測定基準の定義に Urjanet マッピングします。

始める前に

必要なロール : sn_esg.metrics_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > 測定基準の定義マッピング**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[測定基準の定義マッピング] フォーム

フィールド	説明
レコード識別子	データのマッピングに使用されるレコードの名前。たとえば、電力 - デマンドの使用状況です。
関連レコード	レコードがマッピングされている測定基準の定義。
追加情報	メモやコメント。
ステータス	レビューステータス。このフィールドは、レビュー対象のエンティティマッピングレコードがいくつかあり、それらのレコードに不足している情報が必要であるという情報を sn_esg.admin に提供するために使用されます。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	- レビュー不要:管理者がエンティティフォームに入力するフィールドがない場合に、このオプションを使用します。 - レビューが必要:管理者がレコードの一部のフィールドに入力する必要がある場合は、このオプションを使用します。 - レビュー済み:管理者が既にフィールドに情報を入力している場合は、このオプションを使用します。 このフィールドは自動的に [レビュー不要] に設定されます。

4. [送信] を選択します。

Webhook URL を生成

Webhook URL を生成するための Webhook レジストリを定義します。Urjanet は ESG Management 、ステートメントデータが生成または変更されたとき Urjanet に、Webhook URL を使用してリアルタイムデータをアプリケーションに送信します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

明細 Urjanet 書とは、請求書のことです。定義された Webhook を使用して新しいステートメントが生成される Urjanet たびに、新しいステートメントの生成がアプリケーションに通知され、ESG Management 手動で介入することなくデータがアプリケーションに ESG Management フェッチされます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > Webhook レジストリ**。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

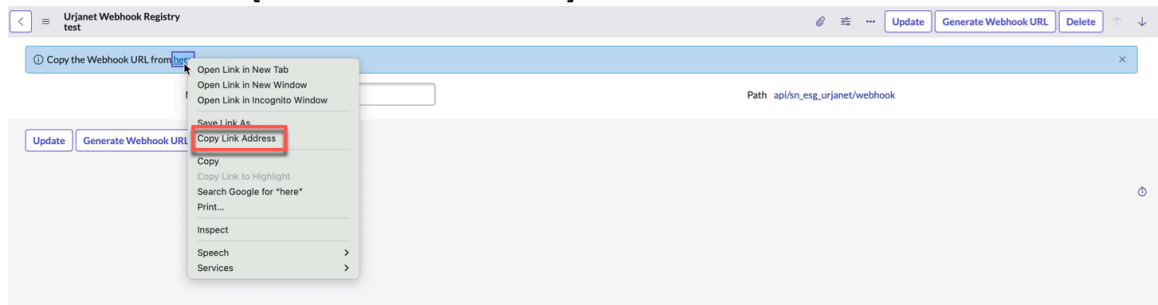
Urjanet Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レジストリの名前。
パス	受信 Urjanet API 呼び出しに使用する Scripted REST API のリソースパス。このフィールドは自動的に api/sn_esg_urjanet/webhook に設定されます。

4. [送信] を選択します。

5. 作成したレコードを開き、[**Webhook URL の生成**] を選択します。

6. Webhook URL をコピーするには、画面に表示される情報メッセージを右クリックし、[リンクアドレスのコピー] を選択しま



す。

次のタスク

コンソールで Urjanet 生成された URL を貼り付けて、リアルタイム Urjanet のステートメントデータを取得します。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

から測定の詳細をインポート **Urjanet**

スケジュール設定済みジョブを使用して、測定番号、測定 ID Urjanet などの測定の詳細をレポート目的でアプリケーションに ESG Management インポートします。詳細はエンティティの形式でインポートされます。

始める前に

必要なロール:import_scheduler

手順

1. 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > インポートスケジュール**.
2. **Urjanet** エンティティのスケジュール設定済みデータインポートレコードを選択して開きます。
3. [今すぐ実行] を選択します。
デフォルトでは、データインポートは 90 日ごとに実行されるように設定されていますが、[実行] フィールドで頻度を変更できます。スケジュールされたデータインポートの設定の詳細については、「[データインポートのスケジュール](#)」を参照してください。

タスクの結果

エンティティは、次の詳細で作成されます。

- 名前:Urjanetメーターのサイト名とUrjanetメーターのメーター番号。
- 場所:Urjanetメーターのサービスアドレス。
- 説明: Urjanet メーターのプロバイダー。

履歴 **Urjanet** データのロード

ESG Management の一部として管理できる新しい測定基準を作成することにより、過去の Urjanet アカ운トステートメントデータを測定基準データとしてロードします。データは、接続の構成 Urjanet 時に指定した日付から取得されます。

始める前に

必要なロール:import_scheduler

手順

1. 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > インポートスケジュール**.
2. **[Urjanet Metric Data Scheduled Data Import (Urjanet 測定基準データのスケジュール設定済みデータインポート)]** レコードを選択して開きます。
3. **[今すぐ実行]** を選択します。
デフォルトでは、データインポートは 90 日ごとに実行されるように設定されていますが、**[スケジュール設定済みデータインポート]** フォームの **[実行]** フィールドで頻度を変更できます。スケジュールされたデータインポートの設定の詳細については、「[データインポートのスケジュール](#)」を参照してください。

タスクの結果

測定基準は、構成されたエンティティと測定基準の定義を使用して作成されます。

ESG Management と Workday の統合

この Workday ESG 統合 プラグインを使用すると、ユーザーは ESG レポート Workday に必要な HR データをアプリケーションに ESG Management インポートできます。

この統合を使用すると、ESG 管理者は、福利厚生、人口統計、報酬などの幅広いカテゴリから月次および年次の評価指標データをインポートできます。この統合により、データ転送プロセスが安全かつ自動的に行われるため、人事、ESG、IT チームの時間を節約できます。統合は、組織の要件に応じて構成することもできます。デフォルトでは、非アクティブ ステータスの 150 の測定基準定義と、それに対応する 15 のレポートがユーザーに提供されます。で Workday レポートを構成するには、ナレッジベースの記事「[Workday ESG Integration Workday Reports' Configuration \(Workday ESG 統合の Workday レポートの構成 \[KB1220842\]\)](#)」を参照してください Now Support。この記事では、測定基準の定義とレポートの間のマッピングも提供します Workday。ESG 管理者は、データが必要な測定基準の定義を有効にする必要があります。取得したデータは、開示レポートに使用されます。

統合を使用して取得できるさまざまなタイプのレポートは次のとおりです。

- **ポイント・イン・タイム:** このタイプのレポートでは、メトリック・データは特定の時点まで取得されます。たとえば、2023 年 1 月 25 日などの特定の日付における組織内の雇用数のデータを取得したい場合があります。この場合、測定基準の定義の頻度が **[年次]** に設定されていれば、2022 年 12 月 31 日までのデータをレポートに使用できます。
- **累積:** このタイプのレポートでは、特定の期間の測定基準データが取得されます。たとえば、2023 年の特定四半期の雇用数のデータを取得する場合があります。

のワークフロー Workday ESG 統合

から Workday ESG Management データをインポートするには、一連のタスクを実行し、システムを適切に設定する必要があります。

統合のワークフローは次のとおりです。

1. ESG 管理者はプラグインをインストールし Workday ESG 統合、次のことを行います。
 - a. 管理者の助けを借りて接続と資格情報 Workday を作成します。
 - b. 必要な測定基準の定義をアクティブ化します。
2. 管理者が Workday レポートを構成します Workday。
3. 管理者が Webhook 構成をオフボーディングします。
4. ESG 管理者が Webhook レジストリを生成します。

5. システム管理者は、必要なスケジュール設定済みジョブを実行します。
6. レポートの準備が整うと、測定基準の定義とそれに対応するデータがカンマ区切り値 (CSV) ファイルで使えるようになります。

Workday ESG 統合 のインストール

admin ロールをお持ちであれば、Workday ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_workday) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントの取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。

ServiceNow IntegrationHub Enterprise Pack Installer (com.glide.hub.integrations.enterprise) プラグインをアクティブ化します。

必要なロール：admin

このタスクについて

Workday ESG 統合 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
 - 環境、社会、ガバナンス管理
 - GRC: Profiles 依存 関係
 - GRC: ポリシーとコンプライアンス管理
 - GRC: Metrics
 - ゴールフレームワーク
- ロール
- ジョブスケジュール
- テーブル

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**。
2. Workday ESG 統合フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーション (sn_esg_workday) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエントリメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要:

インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

Workday 接続の作成

新しい接続を確立できるように、の Workday ESG 統合 接続および資格情報レコードを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > 接続および資格情報エイリアス**。
2. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。
必須フィールドの情報を取得するには、管理者にお問い合わせください Workday 。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報	
接続名	OAuth 接続の名前です。
接続 URL	Workday 接続 URL。
SOAP バージョン	で入手可能な Simple Object Access Protocol (SOAP) の最新バージョン Workday
テナント名	の Workdayテナント名。
資格情報	
資格情報名	OAuth 資格情報の名前。
OAuth クライアント ID	Workday で構成された OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Workday で構成された OAuth クライアントシークレット。

フィールド	説明
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。このフィールドは自動的に設定されます。
認証 URL	Workday OAuth サーバーの認証コードフローエンドポイント。
トークン URL	Workday OAuth サーバーのトークンエンドポイント。

4. [OAuth トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果

接続関連リストに新しい接続が作成されます。

次のタスク

レポートを構成します Workday 。ナレッジベースのナレッジベース記事Now Supportの「[Workday ESG 統合、Workday レポートの構成 \[KB1220842\]](#)」の記事Now Supportを参照してください。

レポートをアクティブ化するWorkday

デフォルトで提供される各測定基準の定義に対応するレポートを有効にします Workday 。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > Workday レポート**。
2. アクティブ化するレポートを選択して開きます。
3. [アクティブ] オプションを選択します。
4. [頻度] フィールドで、レポートを実行する頻度を選択します。
5. [更新] を選択します。

Webhook レジストリのユーザー名とパスワードを生成

Webhook 要求を認証し、Workday アプリケーションから必要な測定基準データを取得するために、インスタンスで ServiceNow ユーザー名とパスワードを生成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > Webhook レジストリ**。
2. [New (新規)] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Workday Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	Webhook の一意の名前。
Workday インスタンス URL	Workday ホスト URL とテナント名。この URL は管理者によって Workday 提供されま す。
ユーザー名	生成されるユーザー名。このフィールドは、 ユーザ名とパスワードを生成すると自動的に設 定されます。
パスワード	インスタンスにログインするために生成される パスワード。Workdayこのフィールドは、ユー ザ名とパスワードを生成すると自動的に設定さ れます。
ドメイン	レジストリが作成されるドメイン。このフィー ルドで [グローバル] を選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。

5. [ユーザー名とパスワードの生成] を選択します。

ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証する
ために Workday インスタンスで指定する必要があります。

データを追跡するための測定基準の定義のアクティブ化

データを追跡またはインポートする対象の測定基準の定義を有効にします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin、sn_esg.program_manager

このタスクについて

の一部として Workday ESG 統合、デフォルトで 150 個の自動測定基準の定義が提供されていま
す。自分に関連し、追跡する測定基準の定義を有効にする必要があります。たとえば、重要なロール
にある従業員の数の測定基準データを追跡する場合は、この特定の測定基準の定義を有効にする必要
があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > リスト > 自
動測定基準の定義。
2. 右上のフィルターアイコンを選択します。
3. [詳細表示] を選択します。
4. [詳細ビュー] フィルター条件でフィルターを追加するには、[**and**] を選択します。
5. [ソース] が [**ESG Workday**] である条件を作成します。
6. [更新] を選択します。
7. 有効にする測定基準の定義を選択して開きます。
 - a. [詳細] 関連リストを選択します。
 - b. [説明] フィールドに、測定基準の定義の簡単な説明を入力します。

- c. [エンタープライズ所有者] フィールドで、エンタープライズ所有者を選択します。
- d. [アクティブ] オプションを選択します。
- e. [Save (保存)] を選択します。

タスクの結果

測定基準の定義がアクティブになり、この測定基準の定義のデータをインポートできます。

レポートの **Workday** エンティティオンボーディングジョブを実行する

指定されたスケジュール設定済みジョブを実行して、に追加された Workday 可能性のある新しいエンティティを取得します。このジョブを実行すると、エンティティマッピングテーブルが確実に更新されます。

始める前に

少なくとも 1 つ **Workday レポート** を有効にする必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

スケジュール設定済みジョブを実行する *Workday entity onboarding* と、ジョブはシステム内で最初にアクティブ化されたレポートを使用して、Workday を呼び出し Workday、アクティブ化されたレポート値とともに CSV ファイルのエンティティ ID を送信します。

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ。
2. [検索] フィールドに「Workday」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、ジョブスケジュール *Workday entity onboarding* を選択して開きます。
4. [今すぐ実行] を選択します。

データインポートジョブの実行 **Workday**

ジョブで指定された頻度に基づいて、有効化されたレポートのデータをプルする、スケジュール設定済みの統合ジョブを実行します。

始める前に

少なくとも 1 つ **Workday レポート** を有効にする必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ。
2. [検索] フィールドに「Workday」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、ジョブスケジュール *Workday data import* を選択して開きます。
4. [今すぐ実行] を選択します。

オンデマンドジョブの実行 **Workday**

アドホック Workday オンデマンドデータインポートジョブを使用して、アクティブ化されたすべての Workday レポートのデータをプルします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [検索] フィールドに「Workday」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、ジョブスケジュール *Workday on-demand data import* を選択して開きます。
4. [今すぐ実行] を選択します。

レポートとServiceNowの統合Microsoft 365

(sn_esg_msoff_intg) 統合によりMicrosoft 365 for ServiceNow Reporting、ESG レポート 開示マネージャーに開示レポート機能が提供され、次を使用してMicrosoft Wordシステムデータ、リストレポート、チャート、ピボット、およびマルチピボットレポートをシームレスにレポートServiceNow ESG Managementできるようになります。

ESG レポート開示マネージャーは、活動の影響についてステークホルダーに対して透明性を持たせるために、開示を作成する必要がある場合があります。たとえば、組織が保護地域で石油を掘削する必要があるアクティビティに従事することを計画している場合、開示マネージャーは、アクティビティが環境および地域社会に及ぼす潜在的な影響と、それらの影響を軽減するために講じられている対策の概要を示す開示を作成できます。

この統合により、レポートマネージャーは開示レポートのデータリンクの ServiceNow ESG Management インベントリを表示し、挿入されたデータを最新の ServiceNow ESG Management データと同期するように更新できます。インポートされたデータと ServiceNow インスタンスの間にも監査記録が作成されます。監査人は、監査記録を使用してドキュメント内のリンクをクリックし、インスタンス内の ServiceNow データのソースにアクセスできます。

i 注:

この統合は、Microsoft Word のデスクトップバージョン 16.71 (23031200) および Web バージョン 16.0.16412.41005 と互換性があります。ただし、Webバージョンではチャートはインタラクティブではありません。つまり、グラフの色や形式などは変更できません。サポートされている Windows Office のバージョンは 2303 (ビルド 16130.20394) です。

インポートされたデータの形式、スタイル、色を変更することもできます。次のグラフスタイルがサポートされています。

サポートされているグラフのスタイル

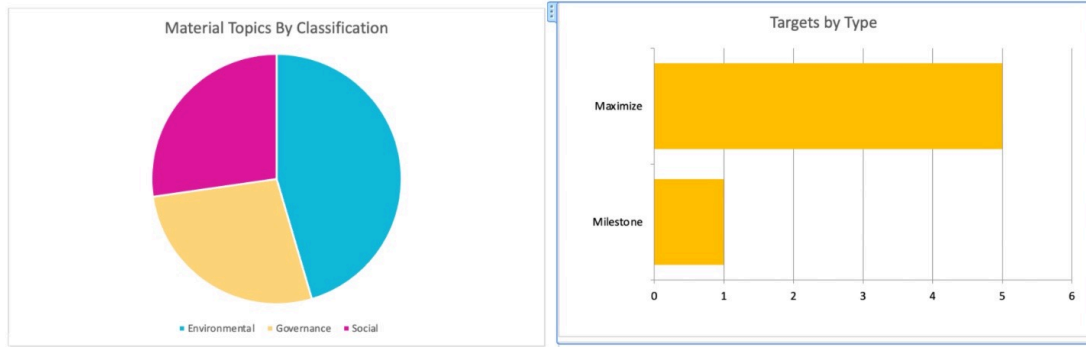
グラフのタイプ	サポートされているスタイル
円グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • 凡例を表示
棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル

サポートされているグラフのスタイル (続く)

グラフのタイプ	サポートされているスタイル
	• X 軸と Y 軸 ◦ タイトル ◦ タイトル太字 ◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字
水平棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • X 軸 ◦ タイトル ◦ タイトル太字 ◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字 • Y 軸 ◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字

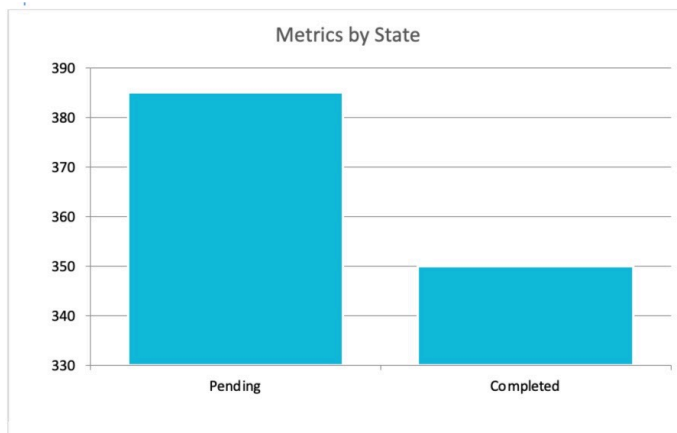
次の画像は、インポートされたデータがドキュメントでどのように表示されるかを示しています。

インポートされた各種データをドキュメントに表示する方法



	Classification	Environmental	Governance	Social	Total
	Priority	Low	Low	Low	
Status					
Green		9	6	1	16
Yellow		3		2	5
Total		12	6	3	21

	Frequency	Annually	Daily	Monthly	Quarterly	Semi-annually	Weekly	Total
Data owner								
Albert Washington		51	9	4			2	66
Happy Singh		1						1
Adam Haro		12		3			2	17
Brandon Hardley			3					3
Felipe Gould		5						5
Gale Nolau		3	1					4
Oliver Jones			20		24	6		50
Rene Dummermuth		6						6
Valli Raman		4						4
Total		82	33	7	24	6	4	156

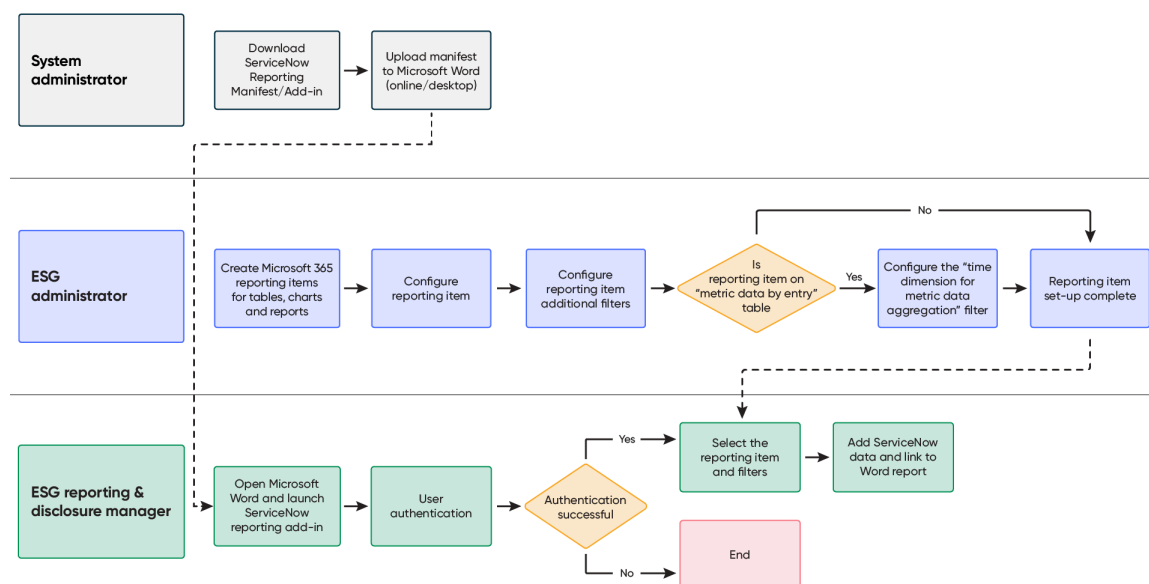


のワークフロー **Microsoft 365 for ServiceNow Reporting**

統合では Microsoft 365 for ServiceNow Reporting、システム管理者、ESG 管理者、開示マネージャーなどの複数のユーザーロールの参加が必要なワークフローを利用します。明確なワークフローを定義することで、個人とチームは自分の役割と責任をよりよく理解し、必要な開示を生成できます。

次の図は、統合を使用して Microsoft 365 for ServiceNow Reporting ドキュメントに Microsoft Word 開示を生成する完全なワークフローを示しています。

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting 統合のプロセスフロー



開示を生成する Microsoft Word には:

1. アドインの ServiceNow Reporting ダウンロード: システム管理者として、ESG マニフェスト ファイルをダウンロードしてインストールします。マニフェストファイルには、ソフトウェアアプリケーションまたはパッケージに含まれるファイルに関する情報が含まれています。これは、必要なすべてのファイルが正しい場所にインストールされていることを確認するために、ソフトウェアインストーラーによって使用されます。この段階では、Microsoft 365 アドミニストレーターと協力してマニフェストファイルを Microsoft Word アプリケーションにアップロードする必要があります。Microsoft 365 アドミニストレーターには必要なアクセス権があります。
2. ESG 管理者は、レポート設定レコードを設定し Microsoft 365 で、インスタンスの ServiceNow どのテーブル、レポート、およびチャートを使用してデータをインポート Microsoft Word する必要があるかを指定します。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。
3. ESG 管理者は、追加のレポートフィルターを構成できます。これらのフィルターは、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。
4. ESG レポートおよび開示マネージャーは、ドキュメントに移動し Microsoft Word で自分自身を認証し、インスタンスからドキュメントにデータをインポートします。必要に応じて、データのフォーマット設定を変更できます。

ServiceNow Reporting アドインをインストールする

ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、インスタンスから ServiceNow ドキュメントに Microsoft Word レポートとデータをインポートして開示レポートを作成するために必要です。

始める前に

次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

- sn_esg
- sn_esg_msoff_intg
- sn_outlook_addin

必要なロール: sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Office 用 ServiceNow** アドイン > **Office** アドインマニフェスト。
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow レポート (ServiceNow Reporting)]** を選択します。
3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。
4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

次のタスク

マニフェスト ファイルを展開する方法の詳細な手順については、サポート技術情報の記事「[Microsoft 365 管理センターでのアドインの展開 \[KB1307378\]](#)」を参照してください Now Support。

ブラウザでアドイン Microsoft Word の HTTP 応答ヘッダーを構成するには、サポート技術情報の [応答ヘッダーの解決 \[KB1434453\]](#) の記事 Now Support を参照してください。

レポート構成の設定 **Microsoft 365**

Microsoft 365 レポート設定レコードを設定して、開示レポートの目的でドキュメントにインポート Microsoft Word するデータポイントとレポートを指定します。

始める前に

必要なロール: sn_esg_msoff_intg.admin

このタスクについて

データは、開示レポートの目的でドキュメントに Microsoft Word インポートされます。インスタンスの ServiceNow どのテーブルとレポートを使用してデータをインポートする必要があるか Microsoft Word を指定する必要があります。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。ESG 管理者によって作成された、または ESG 管理者と共有されているレポートのみを選択できます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **Microsoft 365** レポート統合 > レポート構成。
2. Microsoft 365 レポート構成の一覧から、[新規] を選択します。
3. Microsoft 365 レポート構成フォームで、フィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フォーム

フィールド	説明
ビジネスドメイン	構成の作成元のドメイン。このフィールドは自動的に [ESG] に設定されます。
レポートアイテム	構成の名前。たとえば、Word ドキュメントで ESG 目標に関するデータを取得する場合は、「My ESG goals」などの名前を指定できます。
ソースタイプ	データを取得するソース。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	- テーブル：[テーブル] からデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。 - レポート：事前定義されたレポートまたはグラフからデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。レポートの作成方法の詳細については、「Create a report with Analytics Q&A」を参照してください。 注: リストレポート、ピボットレポート、マルチレベルピボットレポート、水平および垂直棒グラフ、および円グラフのみを選択できます。積み上げ棒グラフとグループ化された棒グラフはサポートされていません。
ソーステーブル	データをフェッチするソーステーブル。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
フィルター	レコードをフィルタリングするためのフィルター条件。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
列	値を挿入するテーブルの列。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
ソースレポート	開示レポートに挿入する利用可能なレポート。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [レポート] が選択されている場合にのみ表示されます。
アクティブ	レコードがアクティブかどうかを示すオプション。ドキュメントではアクティブなレコードのみを選択できます。
構成を追跡	構成を使用して挿入されたデータに加えられた変更を追跡し、それらの変更をログテーブルに記録するオプション。

4. [送信] を選択します。

次のタスク

追加のレポート構成フィルターをレポート構成に追加します。これらのフィルターは、データを Microsoft Word 開示レポートにフェッチするのに役立ちます。詳細については、「[設定レコードの Microsoft 365 レポート設定フィルターを追加する](#)」を参照してください。

ビジネスドメインロールの構成

特定のドメインのユーザーがデータをインポートするドメインを選択できるように、ビジネスドメインロールを構成します。設定中に追加されたユーザーのみが、Microsoft Word ドキュメントのドメインを表示できます。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Microsoft 365 レポート統合 > ビジネスドメイン**.
2. デフォルトの ESG ドメイン名レコードを選択します。
3. [ロール] フィールドを選択します。
4. 必要に応じてロールを追加または削除します。
5. [更新] を選択します。

設定レコードの **Microsoft 365** レポート設定フィルターを追加する

レポートフィルターを追加して、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.admin

このタスクについて

特定のテーブルからデータをインポートするように指定する場合は、データが必要なテーブルの正確なレコードも指定する必要があります。たとえば、sn_gf_goalテーブルからデータをフェッチするように指定したとします。このテーブルには複数のレコードが含まれる場合があります。したがって、データをフェッチする正確なレコードを指定する必要があります。必要な数のフィルターを指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Microsoft 365 レポート統合 > レポート構成**.
2. 追加のレポート構成フィルターを追加するレコードを開きます。
3. [Microsoft 365 レポート構成フィルター (Microsoft 365 reporting configuration filters)] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フィルターフォーム

フィールド	説明
レポート構成	フィルターを追加する構成の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
フィールド名	データをフェッチする必要があるフィールドの名前。たとえば、目標テーブルでは [名前] フィールドを指定できます。[名前] を選択すると、データのインポート時に目標のすべての名前を選択できます。

フィールド	説明
順序	ドキュメントのアドインペインに表示されるフィールドの順序。
時間ディメンションに基づく集計	選択した時間ディメンションに基づいてレポート構成ソーステーブルデータを集計するオプション。このオプションの詳細については、手順の例を参照してください。このフィールドは、フィールド名に [時間ディメンション] がある場合にのみ表示されます。
時間次元	データを集計する必要がある時間ディメンション。時間ディメンションのリストは次のとおりです。 ○ 年 ○ 半年ごと ○ 四半期 ○ 月 ○ 週 ○ 日付 要件に応じてディメンションを選択し、それらを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。 注: このフィールドは、[時間ディメンションに基づく集計 (Aggregate on time dimension)] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果

これで、構成データをアドインにインポートする準備が整いました。

Example: エンティティのデータ集計

ESG レポート開示マネージャーが特定の場所の年間総排出量を把握する必要があり、その場所に複数のサブ場所がある場合は、データを集計してレポート目的に使用することもできます。たとえば、組織の場所が日本であるとし、そして日本には東京と京都の 2 つのサブ場所があるとし、日本での 2022 年のスコープ 1 の年間総排出量を求める必要があるとし、時間次元機能を使用すれば、データを集計すると年間総排出量を出すことができます。レポート要件に応じて、四半期、週、または月のデータを集計することもできます。測定基準データは、測定基準データ収集頻度よりも高い頻度で集計されます。これを実現するには、ソース テーブル フィールドで、エンティティ別の測定基準データ **[sn_grc_metric_data_by_entity]** を選択し、時間ディメンションで集計 オプションを選択し、ソース テーブルから時間ディメンション フィールドを選択します。

ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word に追加する

Microsoft Word 文書にデータをインポートして開示レポートを作成する前に、ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word に追加する必要があります。

始める前に

必要なロール：Microsoft Word ドキュメントのすべてのユーザー。

手順

1. Microsoft Word アプリケーションを開きます。
2. メニューバーで [挿入] を選択します。
3. [アドイン] を選択します。
4. [管理者管理 (**ADMIN MANAGED**)] を選択します。
5. **ServiceNow Reporting** アドインを選択します。
6. [追加] を選択します。

タスクの結果

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting の統合がアクティブになり、**ServiceNow Reporting** アドインの Microsoft Word ドキュメントで次のボタンを使用できるようになります。

- リンクを挿入
- リンクを管理

開示レポートへの **Microsoft Word** データのインポート

インスタンスから ESG データポイントやレポートなどのデータをインポートして開示 Microsoft Word レポートドキュメントに挿入します ServiceNow 。インポートおよび挿入できるのは、レポート構成で設定されているデータのみです。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.reader

手順

1. データを挿入する Microsoft Word ドキュメントに移動します。
2. リボンで [リンクの挿入] を選択します。
右側のペインに、ServiceNow ログイン画面が表示されます。
3. ServiceNow インスタンスにログインするには、[ログイン] を選択します。
 - a. ServiceNow レポートが新しいウィンドウに表示されることを示すメッセージが表示されたら、[許可] を選択します。
 - b. ServiceNow のログイン画面で資格情報を入力します。
 - c. [許可] を選択します。
4. テーブルからドキュメントに ESG データポイントを挿入するには、データを挿入する位置にカーソルを移動します。
 - a. ペインの右側にある [データ] タブを選択します。
 - b. [ビジネスドメイン] フィールドが **[ESG]** に設定されている。
 - c. [レポート アイテム] フィールドで、挿入する Microsoft 365 レポート構成レコードを選択します。
追加のフィルターは、選択した設定レコードに基づいて動的に表示されます。

- d. [挿入する値] フィールドで、データを挿入する列を選択します。
 - e. [追加] を選択します。
5. レポートを挿入するには、データを挿入する位置にカーソルを移動します。
- a. 右側のペインで [テーブル] タブを選択します。
 - b. [ビジネスドメイン] フィールドが **[ESG]** に設定されている。
 - c. [レポート アイテム] フィールドで、挿入する構成済みレポートを選択します。
 - d. [追加] を選択します。
データは開示レポートドキュメントに挿入されます。挿入されるテキストには、ドキュメントの書式が使用されます。必要に応じて書式設定を変更できます。
6. グラフを挿入するには、グラフを挿入する位置にカーソルを移動します。
- a. 右側のペインで [チャート] タブを選択します。
 - b. [ビジネスドメイン] フィールドが **[ESG]** に設定されている。
 - c. [レポート アイテム] フィールドで、挿入する構成済みレポートを選択します。
 - d. [追加] を選択します。
チャートが開示レポートドキュメントに挿入されます。挿入したグラフを好みに応じて変更できます。たとえば、色やグラフの種類などを変更できます。
7. ドキュメントに挿入されているレコードの詳細を表示するには、コンテンツコントロールを選択し、[リンクを開く] を選択します。
8. レポートに挿入したすべての ServiceNow リンクの一覧を表示し、ドキュメントの最新のデータを取得するには、[リンクの管理 (**Manage Links**)] を選択します。
- a. 更新するリンクのチェックボックスをオンにします。
 - b. リフレッシュアイコンを選択します。
データは更新され、更新した時刻が表示されますが、ドキュメントの書式は保持されます。
9. レポートで選択されているコンテンツコントロールを識別して強調表示するには、縦に並んだ 3 つのドットまたは [その他のアクション] アイコンを選択します。
コンテンツ コントロールが右側のペインで強調表示されます。

との統合ESG ManagementSAP Concur

を使用して Concur の ESG 統合、従業員が出張のために車、飛行機、および電車で移動するときの炭素排出量を計算します。これらの排出量を追跡することで、排出量を管理し、削減するために必要な措置を講じることができます。

出張は、多くの組織にとって不可欠な側面です。しかし、そのような旅行はしばしば有害な温室効果ガスの排出につながります。SAP Concur は、支出管理プロセスを自動化する出張および経費管理ソリューションです。また、会計および財務管理ソフトウェアなどの他のエンタープライズシステムと統合して、出張および経費データの完全なビューを提供します。

を使用すると Concur の ESG 統合、従業員の出張が環境に与える影響をよりよく理解し、従業員がビジネス目的で飛行機、電車、または車で出張するときに発生する炭素排出量を計算できます。この情報は、組織が二酸化炭素排出量を削減し、環境的に持続可能な慣行を促進するための措置を講じるのに役立ちます。この統合を使用すると、スコープ 3 排出量計算のために従業員の出張データをインポートし、手動でのデータ入力を回避できます。

排出量を追跡するために、デフォルトでは、次の測定基準の定義が非アクティブステータスで提供されます。

- 全社員の自動車での総移動距離
- 全社員の電車での総移動距離
- 全社員の飛行機での総移動距離

必要な測定基準の定義をアクティブ化する必要があります。必要な接続と資格情報を作成し、Webhook レジストリに登録すると、提供されているジョブスケジュールが実行され、Concur 旅行が作成または更新されるたびに、データがインポートされます ESG Management。

Concur の ESG 統合 をインストールする

admin ロールをお持ちであれば、Concur の ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_concur) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントの取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。

必要なロール：admin

このタスクについて

Concur の ESG 統合 とともに次のアイテムがインストールされます。

- ロール
- ジョブスケジュール
- テーブル

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**.
2. Concur の ESG 統合 フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーション (sn_esg_concur) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要:

インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

測定基準の定義の **SAP Concur** 有効化

排出量データを追跡する測定基準の定義を有効にします。デフォルトでは、飛行機、車、および電車で移動する従業員によって生成された排出量を追跡するために、3 つの測定基準定義が提供されています。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 自動測定基準の定義**.
2. 右上のフィルターアイコンを選択します。
3. [詳細表示] を選択します。
4. [詳細ビュー] フィルター条件でフィルターを追加するには、[**and**] を選択します。
5. [ソース] が [**ESG SAP Concur**] である条件を作成します。
6. [更新] を選択します。
7. 有効にする測定基準の定義を選択して開きます。
 - a. [詳細] 関連リストを選択します。
 - b. [アクティブ] オプションを選択します。
 - c. [**Save** (保存)] を選択します。

SAP concur イベントサブスクリプションサービスの接続を作成する

新しい接続を確立できるように、の Concur の ESG 統合 接続および資格情報レコードを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > SAP Concur > 接続および認証情報 エイリアス**.
2. [**SAP Concur イベントサブスクリプションサービス**] を選択します。
3. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[**新しい接続および資格情報の作成**] 関連リンクを選択します。
必須フィールドの情報を取得するには、管理者にお問い合わせください Concur 。
4. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報	
名前	OAuth 接続の名前です。
接続 URL	Concur 接続 URL。
バージョン	API のバージョン。このフィールドは自動的に v4 に設定されます。
資格情報	
トークン URL	Concur OAuth サーバーのトークンエンドポイント。
クライアント ID	で Concur 設定された OAuth クライアント ID
クライアントシークレット	で Concur 設定された OAuth クライアントシークレット。

5. [OAuth トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果

OAuth トークンが正常に作成されました。

Webhook レジストリを作成する SAP Concur

で SAP Concur 出張が作成または変更されるたびに通知を受け取る Webhook レジストリを作成します。

始める前に

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > SAP Concur > Webhook レジストリ**。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

SAP Concur Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レジストリの名前。たとえば、ESG 統合などです。
パス	このフィールドは自動的に設定されます。
トークン	トークンを選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。

5. [コールバック URL] を選択します。

6. 生成された URL をコピーします。

7. [送信] を選択します。

Webhook サブスクリプションを作成する

Webhook は、2 つのアプリケーション間の通信を簡素化するために使用されます。Webhook を介して Concur に接続するための Webhook サブスクリプションを作成します。

始める前に

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 すべて > プロセス自動化 > **Flow Designer**.
2. [アクション] を選択します。
3. [検索] フィールドを使用して、「Webhook サブスクリプションの作成」を検索します。
4. [Webhook サブスクリプションの作成] を選択します。
5. [テスト] を選択します。
6. [テストアクション] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。
 - a. [名前] フィールドに、テストの名前を入力します。
名前にスペースや特殊文字が含まれていないことを確認してください。
 - b. [エンドポイント] フィールドに、SAP Webhook レジストリを作成したときに生成した URL を貼り付けます。
 - c. [トピック] フィールドで、[**Public.concur.travel.itinerary**] を選択します。
 - d. [テストを実行] を選択します。

のエンティティオンボーディングジョブを実行する SAP Concur

指定されたスケジュール設定済みジョブを実行して、に追加された Concur可能性のある新しいエンティティを取得します。このジョブを実行すると、エンティティマッピングテーブルが確実に更新されます。

始める前に

必要なロール： admin

手順

1. 移動先 すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. **SAP Concur** エンティティオンボーディングスケジュール設定済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] を選択します。

出張データのインポートスケジュール設定済みジョブを実行SAP Concur

出張データのインポートスケジュール設定済みジョブを実行して、から Concur出張データを取得します。移動データは、移動距離、出張の開始日と終了日などの詳細で構成されます。このジョブは自動的に実行されますが、手動で実行することもできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ**.
2. **SAP Concur** 出張データインポートスケジュール済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] を選択します。

データインポートのスケジュール設定済みジョブを実行**SAP Concur**

データインポートのスケジュール設定済みジョブは毎月自動的に実行されます。手動で実行することもできます。このジョブを実行すると、出張終了日に基づいて SAP Concur 出張データステージングテーブルからデータが集計され、それぞれの測定基準定義の測定基準データが作成されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ**.
2. **SAP Concur** データインポートスケジュール済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] を選択します。

ESG 再生金融 との統合

この ServiceNow ESG 再生金融 アプリケーションを使用すると、企業または組織は、オープンソースの Hedera Guardian トークン化プラットフォームと統合することで気候資産を生成できます。気候資産とは、通常、気候変動の緩和または適応を目的とした活動、技術、またはプロジェクトに関連する資産または投資を指します。

気候資産は、環境にプラスの影響を与え、温室効果ガス排出量の削減や、気候関連の課題に直面したコミュニティや生態系の回復力に貢献するように設計されています。

リジェネラティブ・ファイナンス(ReFi)は、従来の金融慣行に取って代わることを目的とした、金融への変革的なアプローチです。このアプローチは、すべてのステークホルダーの現在および将来のニーズに効果的に対応できる金融エコシステムを育成します。

この統合は、Envision Blockchain Managed Guardian Serviceと連携するように設計されており、Hedera Hashgraph Distributed Ledger Technology(DLT)を利用して気候資産と個々のトークンの出所を追跡します。

ESG 再生金融 v1.0 は、主に再生可能エネルギー クレジット (REC) と呼ばれる特定の証明書カテゴリを中心としています。RECは、再生可能エネルギーの量の定量化と監視に役立ちます。各 REC は、太陽エネルギー、風力、水力などの再生可能資源からの 1 メガワット時 (MWh) の電力を表します。RECが作成されると、ブロックチェーンアカウントに安全に保管したり、転送したり、別のアカウントに売却したり、スコープ2排出量の削減を請求するために廃止したりできます。従来の再生可能エネルギーに適用されるエネルギー属性証明書(EAC)基準には、国際REC(I-REC)と原産地保証(GoO)が含まれます。

は Hedera Guardian 、排出プロセスとカーボンクレジットのライフサイクルを文書化した監査可能、追跡可能、再現可能な記録を提供し、それによってESG市場における不正行為を減らします。

トークン化された気候資産は、従来の気候資産に比べて、次のようないくつかの利点があります。

- 測定、報告、検証(MRV)データに基づく気候資産の認証供給の創出を促進する。
- 専用のインターフェースとパブリックブロックチェーンエクスプローラーを通じて、出所の検証と監査データを提供します。データの出所は、データの出所、履歴、品質をトレースして検証するプロセスです。
- 検証可能な元帳上の退職プロセスを通じて、二重計上のリスクを大幅に軽減します。二重計上とは、追加の炭素便益が生み出されていないにもかかわらず、気候資産が複数の事業体によって請求されることです。
- すべての参加当事者のグリーンウォッシングのリスクを大幅に軽減します。

ポリシーのエンティティ

Hedera Guardian には、パブリックリポジトリで利用可能なオープンソースポリシーのライブラリがあります。ポリシーの 2 つの主なエンティティは次のとおりです。

- **標準レジストリ:** MRVの生態学的利益の主張に関する科学的根拠に基づく基準を開発し、確立された基準を満たすクレジットで価値を発行する組織。
- **登録者:** エコロジカルプロジェクトまたはプログラム(EP)でアクションを実行して、ボランタリー市場で使用するRECやカーボンオフセットなどの資産価値を生み出し、それによって生み出されたエコロジカルベネフィットバリューの初期所有者になるエンティティ。

このアプリケーションから間接的に利益を得る可能性がある、または統合する必要がある可能性のあるその他の関係者は、気候資産市場、金融仲介業者、投資家です。

のワークフロー ESG 再生金融

ワークフロー ESG 再生金融 に従って、ユーザーを設定し Hedera Guardian 、アプリケーションを送信し、デバイスフォームから新しい発行要求を開始します。

アプリケーションのワークフロー ESG 再生金融 は次のとおりです。

1. レジストリは、ポリシーおよびポリシーロールをテーブルと同期します ServiceNow 。
2. レジストリは、再生可能エネルギークレジット(REC)とトークン残高を表すトークンを同期します。トークン残高は、生成およびトークン化されたグリーンエネルギーのMWhを表す整数です。
3. 登録者は必要なポリシーを選択し、ポリシーフォームの [登録者ロールの選択] ボタンを選択して登録者ロールを選択します。
4. 登録者は、[新しいアプリケーション] ボタンを選択して、サブスクライブしたポリシーの [アプリケーションの送信] フォームに入力し、レジストリに顧客確認 (KYC) 情報を提供します。
5. 登録者またはレジストリのいずれかが、アプリケーションフォームデータを と同期します Hedera Guardian 。
6. レジストリは、アプリケーション要求データを検証し、アプリケーション フォームの [検証] または [却下] ボタンを使用してアプリケーションを検証または拒否します。
7. 登録者は、ポリシーで展開されたトークンに自分自身を関連付けます。0.0.123456 形式のトークン ID はネイティブトークンを表し Hedera Guardian 、ポリシーの関連リストとして表示されます。登録者は、そのポリシーのトークン残高レコードを開き、[トークンの関連付け] ボタンを選択してトークンに関連付けることができます。
8. 登録者が関連付けを完了した後、レジストリは、トークン残高フォームの [**KYC** の付与] ボタンを選択して、登録者の特定のトークンの KYC を承認する必要があります。0.0.123456 という形式のアカウント ID で表される登録者のアカウントにトークンを铸造するための KYC 許可をレジストリまたは発行者に関連付けて付与する手順。
9. 登録者が検証された後、[デバイスの登録] ボタンを選択して、REC ポリシーに基づいてデバイスを登録できます。必要なすべてのデバイスとデバイスファーム情報を提供する必要があります。

10. 登録者またはレジストリのいずれかが、デバイスフォームデータを と同期します Hedera Guardian。
11. デバイス登録が提出された後、レジストリは、デバイス フォームの [検証] または [拒否] ボタンを選択して、要求を検証または拒否できます。
12. デバイスが検証された後、登録者は、関連するすべての検証情報を添付して、デバイスとファームによって生成された特定の期間および特定の量の KWh の REC 発行要求を送信できます。この送信は、フォームを使用して手動で行うことも、REST API エンドポイントを使用して自動的に行うこともできます。
 - 手動発行要求:登録者は、すべての関連情報を提供するデバイスフォームから新しい発行要求を開始できます。
 - 自動発行リクエスト:APIを使用してリクエストを発行できます。API の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

ESG 再生金融 の設定

アプリケーションをインストールし、ユーザーを作成し、必要なユーザーロールをアサインして、アプリケーションをセットアップおよび構成 ESG 再生金融 します。

[store-future: BEGIN review]

ESG 再生金融 のインストール

admin ロールをお持ちであれば、ESG 再生金融 アプリケーション (sn_esg_refi) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認します。詳細については、次を参照してください。 [のエンタイトルメントの取得 ServiceNow 製品またはアプリケーション](#)。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > システムアプリケーション > 利用可能なすべてのアプリケーション > すべて**。
2. ESG 再生金融フィルター基準と検索バーを使用してアプリケーション (sn_esg_refi) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。

デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

重要:
インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

[End]

ユーザーへの **ServiceNow** ロールの付与

アプリケーションとの ESG 再生金融 やり取りを許可するユーザーを定義します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 組織 > ユーザー**.
2. 必要なユーザーに次のロールをアサインします。
 - sn_esg_refi.レジストリ
 - sn_esg_refi.登録者
 - sn_esg_refi.admin

3. **[Save (保存)]** を選択します。

レジストリー・ **Hedera Guardian** ユーザーの作成

と Hedera Guardianの統合を設定し、レジストリユーザーを作成して、アクセストークンとその他の情報を取得します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ガーディアンユーザー**.
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

保護者ユーザーテーブル

フィールド	説明
テナント ID	一意のテナント ID
ユーザー ID	一意のユーザー ID
パスワード	パスワード
タイプ	[標準レジストリ] を選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、フォームを保存します。

5. [アクセストークンの取得] を選択します。
Hedera Guardian情報は自動的にフェッチされます。
6. [取引先企業を表示] 関連リンクを選択して開きます。
Hedera Guardianアカウントの詳細が新しいタブに表示されます。

Hedera Guardian登録者ユーザーの作成

と Hedera Guardianの統合を設定し、登録者を作成して、アクセストークンとその他の情報を取得します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > ガーディアンユーザー。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

保護者ユーザーテーブル

フィールド	説明
テナント ID	一意のテナント ID
ユーザー ID	一意のユーザー ID
パスワード	パスワード
タイプ	[ユーザー] を選択します。
レジストリ	レジストリを選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、フォームを保存します。
5. [アクセストークンの取得] を選択します。
Hedera Guardian情報は自動的にフェッチされます。
6. [取引先企業を表示] 関連リンクを選択して開きます。
Hedera Guardianアカウントの詳細が新しいタブに表示されます。

のユーザーをマッピング **ESG** 再生金融

ユーザーとユーザーの間に ServiceNow 関係を確立します Hedera Guardian。

始める前に

sn_esg_refi アプリケーションをインストールします。

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > ユーザーマッピング。
2. **[New (新規)]** を選択します。
3. [ユーザー] フィールドで、**[refi ユーザー]** を選択します。

4. [ガーディアンユーザー] フィールドで [登録者] を選択します。
5. [送信] を選択します。
6. **[New (新規)]** を選択します。
7. [ユーザー] フィールドで、sn_esg_refi.registry ロールを持つ任意のユーザーを選択します。
8. [ガーディアンユーザー] フィールドで、[レジストリ] を選択します。
9. [送信] を選択します。

ESG 再生金融の使用

本物の気候資産を効果的に生成するには、手動または API を使用して、ポリシーを同期し、ポリシーの申請書を送信し、承認を取得し、デバイスを登録し、発行要求を開始します。

からのポリシーの同期 **Hedera Guardian**

ポリシーのリスト Hedera Guardian をインスタンスと同期します ServiceNow 。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registry

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ポリシー**。
2. [すべて同期] を選択します。

トークンを同期する

トークンまたは再生可能エネルギークレジットのリストとトークン残高をインスタンスと同期します ServiceNow 。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registry

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > トークン**。
2. [すべて同期] を選択します。

トークンをポリシーに関連付ける

登録者をトークンクラスに関連付けます。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registrant

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ポリシー**。
2. 必要なポリシーを選択して開きます。
3. [トークン] 関連リストを選択します。
4. 関連付けるトークンを選択します。
5. [トークン残高] 関連リストを選択します。

6. 必要なポリシーを選択して開きます。

7. [トークンの関連付け] を選択します。

登録者ロールを選択

登録者として、特定のポリシーにおける登録者の役割を取得します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registrant

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > ポリシー.

2. 必要なポリシーを選択して開きます。

3. [登録者ロールの選択] を選択します。

ポリシーの申し込みを送信する

登録者として、ポリシーにアプリケーションを送信します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registry

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > ポリシー.

2. 必要なポリシーを選択して開きます。

3. [新しいアプリケーション] を選択します。

4. [アプリケーションを送信] フォームのフィールドに入力します。

フィールドの詳細については、「[アプリケーションフィールドを送信](#)」を参照してください。

5. [送信] を選択します。

アプリケーションフィールドを送信

このセクションでは、[アプリケーションを送信] テーブルのフィールドについて説明します。

アプリケーションテーブルフィールドを送信

フィールド	説明
ポリシー	ポリシーの名前。
ステータス	ポリシーのステータス。
日付	ポリシーが作成された日付。
作成者	ポリシーを作成したユーザーの名前。
応募者の詳細	
申請者の組織名	申請者の正式名。
登録住所1行目	申請者の登録住所の1行目。
登録住所2行目	申請者の登録住所の2行目。
登録住所3行目	申請者の登録住所の3行目。

フィールド	説明
申請者の郵便番号	申請者の登録住所の郵便番号。
国	申請者の登録住所の国。
法的地位	申請者の法的地位 (個人、法人など)。
会社登録国	申請者の会社登記または個人居住地の国。
法人登録番号	申請者の法人登録番号またはパスポート番号。
VAT 番号	申請者の付加価値税 (VAT) 番号。
URL	申請者の Web サイトの URL。
主な事業内容	申請者の主たる事業、例えば、食品小売業者。
登録年	申請者の事業が登録された年。
従業員数	申請者の事業における従業員の概算数。
CEO	申請者の事業の最高経営責任者またはゼネラルマネージャーの名前。
CEO パスポート番号	申請者の事業の最高経営責任者またはゼネラルマネージャーのパスポート番号。
事業展開国	申請者の事業が活動している国。
主要株主	申請者の事業の主要株主(>10%出資)
貸借対照表	前会計年度の申請者の事業の貸借対照表合計 (米ドル)
メールアドレス 経理部門	申請者のビジネスの経理部門のメールアドレス。
連絡先詳細	
組織名	組織の名前。
住所 1	組織の住所の 1 行目。
住所 2	組織の住所の 2 行目。
住所 3	組織の住所の 3 行目。
郵便番号	組織の住所の郵便番号。
国	組織が所在する国。
担当者	組織の主連絡先であるユーザー。
メール	組織のメールアドレス。
電話	組織の電話番号。
ファックス	組織の FAX 番号。
IREC 組織	組織の子会社となる既存のI-RECレジストリ組織。
リードユーザーの詳細	
姓 姓	リードユーザーの家族の姓。
リードユーザーの詳細タイトル	リードユーザーのタイトル。
リードユーザーの詳細メール	リードユーザーのメール ID。

フィールド	説明
リードユーザーの詳細の電話	
電話	リードユーザーの電話番号。
リード ユーザーの詳細 FAX	リードユーザーのファックス番号。

アプリケーションの検証

レジストリとして、登録者からのアプリケーションを検証します。要件を満たしていない場合は、申請を却下することもできます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.refi.registry

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > アプリケーション**.
2. 必要なアプリケーションを選択して開きます。
3. [検証] を選択します。
[ステータス] フィールドの値が [承認済み] に変わります。

KYC の付与

レジストリは、トークンの顧客確認(KYC)を登録者に付与します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi_registry

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ポリシー**.
2. 必要なポリシーを選択して開きます。
3. [トークン] 関連リストを選択します。
4. 関連付けるトークンを選択します。
5. [トークン残高] 関連リストを選択します。
6. 必要なポリシーを選択して開きます。
7. [KYC の付与] を選択します。

デバイスを登録

登録者として、新しいデバイスまたはデバイスファームをレジストリに宣言します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_refi.registrant

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ポリシー**.
2. 必要なポリシーを選択して開きます。
3. [新しいデバイス] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

詳細については、「[デバイスの登録フォーム](#)」を参照してください。

5. [送信] を選択します。

デバイスの登録フォーム

[デバイスの登録] フォームのフィールドには、sn_refi.user が入力する必要があります。

[デバイスの登録] フォームのフィールド

フィールド	説明
ポリシー	ポリシーの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
ステータス	ポリシーのステータス。
作成者	ポリシーを作成したユーザーの名前。
日付	登録日。
オーナーも	登録者がデバイスの所有者でもあるかどうか (証拠が提示されている)。
本番デバイスの詳細	
名前	デバイスの名前。
デバイスアドレス	デバイスのアドレス。
デバイスの郵便番号	デバイスの場所の郵便番号。
デバイスの国	デバイスが所在する国。
経度	デバイスの位置の経度座標。
緯度	デバイスの位置の緯度座標。
TSO の ID	伝送システムのオペレーターによってデバイスに割り当てられた識別番号。
設備容量	デバイスの設備容量 (キロワット)。
生成単位	デバイス内の生成ユニットの数。
試運転日	デバイスが試運転または運用開始された日付。
オーナーネットワーク	デバイスが接続されているネットワークのオーナー。
未接続	本番デバイスがグリッドに直接接続されていない場合 - デバイスがグリッドに直接接続されていない状況と、関連する追加のメーター登録番号を指定します。
ボリュームの証拠	デバイスからの生産量を示す証拠の予期される形式。
その他	予想される形式のボリューム証拠に関する追加情報または詳細を指定します。
エネルギー源	
エネルギー源	エネルギーの取得元となるソース。
テクノロジー	使用されているテクノロジー。

フィールド	説明
オンサイトコンシューマーの存在	オンサイトコンシューマーが存在するかどうかを示すオプション。
オンサイト顧客の詳細	顧客の詳細。
補助エネルギー	補助/スタンバイエネルギー源が存在するかどうかを示すオプション。
補助エネルギーの詳細	補助エネルギーの詳細。
エネルギーの輸入	サイトが上記のメーター以外の方法で電力を入力する方法の詳細。
追跡スキーム	デバイスが登録されているカーボンオフセットスキームまたはエネルギー追跡スキームの登録IDを含む詳細。その場合は「なし」の状態になります。
ラベリングスキーム	デバイスが認定されているラベリングスキーム。
公的資金	デバイスが公的資金または政府資金を受けたことがあるかどうかを示すオプション。たとえば、固定価格買取制度？
資金調達詳細	政府からの資金提供を受けている場合、いつ終了したのですか？
REC デバイス検証ツール	
有効な登録日	要求された登録の有効日。 i 注: この日付は、このフォームを送信する 12 か月より前の日付にすることはできません。

デバイスを検証する

レジストリとして、新しいデバイスまたはデバイスファームを検証または拒否します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.refi.registry

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > デバイス**。
2. 必要なデバイスを選択して開きます。
3. [検証] を選択します。
[ステータス] フィールドの値が [承認済み] に変わります。

新しい発行要求を手動で送信する

登録者は、新しいトークンを手動で発行する要求を送信します

始める前に

必要なロール:sn_esg.refi.registrant

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG再生型金融 > ポリシー**.
2. 必要なポリシーを選択して開きます。
3. [デバイス] 関連リストを選択します。
4. 必要なデバイスを選択します。
5. [新規発行] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
7. [送信] を選択します。

[store-future: BEGIN review]

要求発行フォーム

要求発行フォームのフィールドには、sn_refi.user が入力する必要があります。

要求発行フォームのフィールド

フィールド	説明
デバイス	発行が要求されたデバイスとファーム。
開始日	デバイスからの本番が開始された、または開始が予定されている日付。これは、デバイスが電気を生成した、または生成する期間を決定するために使用され、発行されるRECの計算に使用されます。
終了日	デバイスの本番期間が終了した日付。これは、デバイスが廃止または運用を停止した日付である場合もあれば、デバイスの特定の生産期間の終了を示す特定の日付である場合もあります。生産期間終了日は、指定された生産期間中にデバイスによって生成された電力の総量を決定するために使用されます。
Kwh	この期間に生産された総Kwh。
ラベリングスキーム	Energy Star または LEED である特定の基準または標準に基づいて生産デバイスに割り当てられたラベルまたはタグのシステム。
対象電力の割合	REC 発行要求で申請されている適格エネルギーの割合。
タイプA	決済計測データ – 決済目的で使用されるメーターから収集されたデータを指し、発電または消費される電力量を測定するために使用され、電力の支払いまたは料金を計算するために使用されます。このタイプのデータは通常、請求および会計の目的で使用されます。通常、1 時間ごとや毎日などの定期的な間隔で収集され、時間の経過に伴う電力の生産または消費を追跡するために使用できます。
タイプB	非決済計測データ – 決済目的に使用されない電力の生産または消費の測定に関連するデータを

フィールド	説明
	指します。つまり、データは、電力市場に関与する当事者の財務上の義務や信用を決定するために使用されません。非決済計測データは、生産または消費デバイスのパフォーマンスの報告または監視など、他の目的に使用される場合があります。
タイプC	測定体積移動文書 – 生産装置から第三者への特定量のエネルギーの移転を確認するために使用される文書の一種を指します。この文書には、通常、転送されたエネルギーの量、転送の日時、およびトランザクションに関与する当事者に関する情報が含まれています。このタイプの文書は、デバイスによって生成および消費されたエネルギー量の証拠として、REC発行要求でよく使用されます。
タイプD	その他 – 他のカテゴリに当てはまらないあらゆる種類の生産装置またはエネルギー源を指します。
ターゲット	この電力の生産は、国、地方、または規制の目標にカウントされますか？
公共消費義務	この生産物のいずれかが公共消費義務の対象になりますか？
権利保持	この発行要求で指定されたエネルギーの排出削減証明書またはカーボンオフセットを取得する権利を保持していますか？
最終登録日	デバイスが特定の組織またはシステムに登録された日付、またはデバイスが何らかの方法で最後に更新または変更された日付。

[End]

発行の検証

レジストリとして、新しい発行要求を検証または拒否します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.refi.registry

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > 発行.
2. 必要な発行を選択して開きます。
3. [検証] を選択します。
[ステータス] フィールドの値が [承認済み] に変わります。

トラストチェーンの同期

レジストリまたは登録者は、ミントされたすべての再生可能エネルギークレジットのレコードを含むトラストチェーンリストを同期します。レジストリは、必要に応じて、個々のトラストチェーンのトラストチェーンのステップを同期できます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.refi.registry

手順

1. 移動先 **すべて** > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG再生型金融** > **トラストチェーン**.
2. [**すべて同期**] を選択します。
3. 必要なトラストチェーンを選択して開きます。
4. [**同期ステップ**] を選択します。

ESG ワークスペース の概要ページ

ESG ワークスペース では、レコードの概要ページに基づいて、さまざまなダッシュボードと関連データを表示できます。表示されるデータは、ユーザーのユーザーロールに基づきます。

ESG ワークスペース の目標の概要

目標とは、ESG イニシアチブに影響を与えるために組織が自ら設定する目的のことです。特定した重要なトピックに向けての進捗状況を追跡する際に役立ちます。

目標を作成すると、目標の概要ページに、目標の関連情報すべての概要が表示されます。目標の目標概要ページを表示するには、次に移動します: **ESG ワークスペース** > **プログラムのセットアップ** > **目標**. その後、情報を表示する目標を選択して開くことができます。

このページには、次のセクションが表示されます。

- 説明
- 追跡中
- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合している場合は、プログラム/プロジェクト。
- Integrated Risk Management と統合している場合は、リスクおよびコンプライアンス体制。
- 目標とターゲット階層

次の画像は、単一の目標の概要ページを示しています。

[目標の概要] ページ

100% Carbon Neutral by 2025

Classification Status Owner State
Environmental Green Karla Ken In Progress

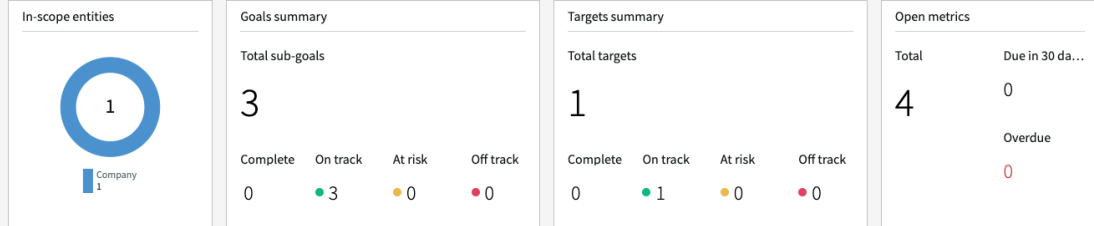
Overview Details Programs/Projects Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) Metric Definitions (4) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking



Programs/Projects

Programs/Projects	Type	Description	State	Manager
Project: Milestones for net-zero carbon	Project	Milestones for net-zero carbon	Open	Chris
Program: Sustainability program: Net zero carbon	Program	Sustainability program: Net zero carbon	Work in Progress	Ailee
Project: Carbon Neutral Supply Chain	Project	Carbon Neutral Supply Chain	Work in Progress	Chris
Project: Carbon Offset	Project	Carbon Offset	Work in Progress	Paul
Project: Carbon Neutral Facilities	Project	Carbon Neutral Facilities	Work in Progress	Paul

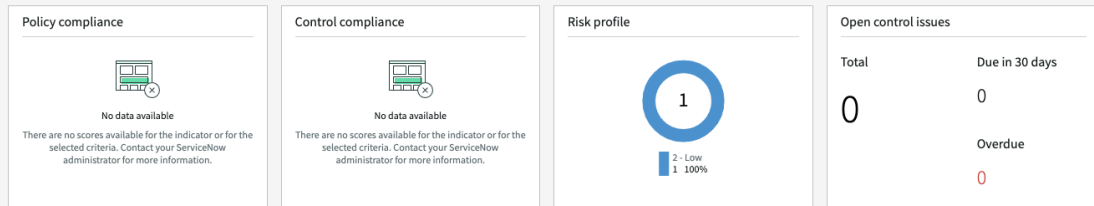
Showing 1-5 of 5 rows per page

Programs/Projects due in 30, 60, 90 days

No data available

There are no scores available for the indicator or for the selected criteria. Contact your ServiceNow administrator for more information.

Risk and Compliance Posture



説明

このセクションには、目標の説明が表示されます。たとえば、「2025 年までに 100% のカーボンニュートラルを目指す」。

追跡中

目標を作成するときに、エンティティを目標に関連付けて追跡を有効にすることができます。次のセクションを表示できます。

- **スコープ内エンティティ**：エンティティを関連付けることで、目標の担当者を識別できます。このセクションには、目標に関連付けられたエンティティの数が表示されます。
- **目標サマリー**：目標に関連付けられたサブ目標の合計数を表示します。このセクションには、完了した目標の数、オントラックの目標の数、リスクありの目標の数、およびオフトラックの目標の数も表示されます。

- ターゲットのサマリー：ターゲットの合計数を表示します。このセクションには、完了したターゲットの数、オントラックのターゲットの数、リスクありのターゲットの数、およびオフトラックのターゲットの数も表示されます。
- 測定基準：目標に関連付けられたさまざまな測定基準を表示します。30 日以内に期限が到来する測定基準の数と期限切れの測定基準の数を表示することもできます。

追跡セクションをフィルタリングして、目標のデータのみを表示できます。ロールアップビューを表示して、すべてのサブ目標のデータを表示できます。デフォルトのビューは、ロールアップビューです。

プログラム/プロジェクト

プログラムとプロジェクトのセクションは、プロジェクトポートフォリオ管理 と統合する場合にのみ表示されます。このセクションには、目標に関連付けられたプロジェクトとプログラムが表示されます。これらのプロジェクトとプログラムのマネージャーとステータスを確認できます。

リスクとコンプライアンス体制

リスクとコンプライアンス体制のセクションは、Integrated Risk Management と統合する場合にのみ表示されます。このセクションには、次の情報が表示されます。

- ポリシーコンプライアンス：準拠しているポリシーと準拠していないポリシーのステータス。
- コントロールコンプライアンス：準拠しているコントロールと準拠していないコントロールのステータス。
- リスクプロファイル：リスクアセスメントに基づく目標のリスクステータス。
- 未解決のコントロールの問題：目標に関連する未解決の問題の数。

目標とターゲット階層

コンテキストサイドパネルには、メイン目標、関連するサブ目標、およびそれらのステータスが表示されます。

ESG ワークスペース での開示の概要

ESG ワークスペース 内の開示レコードの [概要] タブは、さまざまなユーザーが開示のステータスとサマリーを表示するために設計されています。

新しい ESG ワークスペース は、日常的なタスクを実行しやすくするために拡張されています。ワークスペースのリストビューには、すべてのモジュールの簡易リストが表示されます。開示にアクセスするには、リストビューで [開示] に移動します。

リストビューで開示をクリックすると、開示の詳細が表示されます。上部のセクションには、開示のタイトル、開示のタイプ、そのステータス、および開示がアサインされている所有者が表示されます。

[開示の概要] タブのセクション

[開示の概要] タブには次のセクションが表示されます。

- ステータス
- 開示サマリー

[開示の概要] タブ

Just 100 disclosure

Type: Request for Information
State: Draft

Overview Details Approvals Metric Definitions (4) Metrics Related Documents

State

1 Draft In progress
2 Work in Progress Learning
3 Review Upcoming
4 Completed Upcoming

Disclosure Summary

Period 1
From: 01.01.2020 To: 31.12.2020

Metric	Period 1	Unit
Charitable causes supported	500	#
Corporate grants	308000	\$
Employee donation participation	22	%
Employee donations	308000	\$

Showing 1-4 of 4

Compose

Work notes (Private) Comments

Type your Work notes (Private) here

Post Work notes (Private)

Activity

Alfonso Origen
on 12/20/2020 at 10:10 AM - First changes

State: Draft

Attachments

No Attachments Available
Browse for a file to add it as an attachment.

Browse

[ステータス (State)] セクションには、開示のステッパーコンポーネントが表示されます。ステッパーコンポーネントには、[ドラフト]、[対応中]、[レビュー]、[完了] などの開示のさまざまなステータスの完了が表示されます。

[開示サマリー] セクションには、開示に記載されている目標が表示されます。各目標レコードには、開示に関連付けられた測定基準、期間、および単位が表示されます。たとえば、特定の組織の開示に記載されている目標が、2025 年までにカーボンフットプリントを削減し、100% のカーボンニュートラルを達成することであるとします。この目標を測定する測定基準は、スコープ 1 の GHG 排出量で定義された基準です。この測定基準を測定する単位は、指定された期間にわたる測定基準単位の二酸化炭素換算トンです。

開示のデータを Excel スプレッドシートにエクスポートする場合は、[開示サマリー] セクションで **[Excel へのエクスポート]** をクリックします。

ESG Management の参照

以降のセクションでは、ESG Management アプリケーションとともにインストールされるロール、テーブル、およびプロパティを示します。

ESG Management とともにインストールされるコンポーネント

いくつかのタイプのコンポーネントが、アプリケーションとGRC: MetricsアプリケーションとともにESG Managementインストールされます。

ロール

次のロールが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

i 注:

GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるテーブルとロールについては、「**GRC: Metrics アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント**」を参照してください。

ESG Management とともにインストールされるロール

ロール	説明	特権	包含
sn_esg.admin	アプリケーション内のすべてのアイテムを管理し、ESG 統合のセットアップを構成します。	このロールを持つユーザーは、以下の書き込み、読み込み、更新、および削除を実行できます。 • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • 測定基準のデータタスク • 開示 • 各種法令・基準等 • 信頼できるソースコンテンツ • アプリケーションからの ESG Content Accelerator 信頼できるソースコンテンツと測定基準の定義 • リスクアセスメント要素 • リスクアセスメント方法論の更新と公開	sn_esg.program_manager、sn_esg.in ESG Risk Management プラグインがアクティブ化されている場合は、sn_risk_advanced.ara_admin および sn_risk.manager ロールがインストールされます。com.snc.multiprovider_documents プラグインが有効になっている場合は、mp_document_user ロールが追加されます。
sn_esg.metrics_manager	ESG ワークスペースの測定基準を管理します。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準データ • 測定基準のデータタスク • 各種法令・基準等 • 信頼できるソースコンテンツ これらのユーザーは、測定基準の定義と測定	sn_esg.reader、sn_grc_metric.manag

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	包含
		基準の読み取り、書き込み、更新、および削除を実行できます。	
sn_esg.reporting_disclosure_manager	ESG Management ペースで開示レポートを管理します。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • 測定基準のデータタスク • 各種法令・基準等 • 信頼できるソースコンテンツ これらのユーザーは、開示の読み取り、書き込み、および更新を実行できます。これらのユーザーは、自分が作成した開示のみを削除できます。	sn_esg.internal_disclosure_manager、com.snc.multiprovider_documents プラグインが有効になっている場合は、mp_document_user ロールが追加されます。
sn_esg.data_owner	アサインされた測定基準データタスクに入力を提供するデータ所有者ロール。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • 各種法令・基準等 • 信頼できるソースコンテンツ これらのユーザーは、測定基準データタスクの読み取りと更新を実行できます。	sn_grc_metric.user、workspace_user、ESG Risk Management プラグインが有効になっている場合は、sn_risk_advanced_data_assessor ロールsn_risk.reader ロールがインストールされます。

自動翻訳

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	包含
sn_esg.program_manager	ESG プログラムの開発、実装、およびレポートの実行と管理をサポートします。	このロールを持つユーザーは、以下の書き込み、読み込み、更新、および削除を実行できます。 • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • 測定基準のデータタスク これらのユーザーは、各種法令・基準等、引用、開示を読み取ることができます。	sn_esg.reader、sn_gf.epmo_strategy、sn_risk.reader、sn_risk.advanced.reader、sn_risk.approver、sn_risk.manager
sn_esg_risk_mgmt.risk_manager	ESG データのリスクアセスメントを管理します。 i 注: このロールは、sn_esg_risk_mgmt.risk_manager がインストールされ、アクティブ化されている場合にのみ使用できます。	このロールを持つユーザーは、次のタスクを実行できます。 • リスクフレームワークを作成 • リスクステートメントを作成します。 • リスクを作成します。 • リスクを生成するリスクスコープを作成 • リスクアセスメントを開始 • リスクアセスメントを承認	sn_risk.manager

自動翻訳

テーブル

次のテーブルが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

ESG とともにインストールされるテーブル

テーブル	説明
重要なトピック	ESG の重要な問題を定義する重要なトピック

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
(sn_esg_material_topic)	
単位ファミリー sn_grc_metric_unit_family	ユニットの分類とグループ化
単位変換 sn_grc_metric_unit_conversion	開始単位と終了単位の単位変換値を設定
排出アクティビティ sn_esg_emission_activity	排出アクティビティは、排出につながるアクティビティです。
排出係数 sn_esg_emission_factor	排出係数とは、アクティビティデータを温室効果ガス (GHG) 排出量に変換するための係数です。
排出係数のロケーション sn_esg_emission_factor_location	ロケーションレベルで排出係数をキャプチャする場合
目標への測定基準 (sn_esg_m2m_metric_goal)	測定基準と目標の関連性
ターゲットに向けた測定基準 (sn_esg_m2m_metric_target)	測定基準とターゲットの関連性
目標に向けた重要なトピック (sn_esg_m2m_material_topic_goal)	重要なトピックと目標の関連性
開示への目標 (sn_esg_m2m_goal_disclosure)	目標と開示の関連性
信頼できるソースコンテンツの目標 (sn_esg_m2m_goal_citation)	目標と信頼できるソースコンテンツの関連性
目標へのエンティティ (sn_esg_m2m_entity_goal)	エンティティと目標の関連性
開示のための測定基準 (sn_esg_m2m_disclosure_metric)	測定基準と開示の関連性

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
開示のための測定基準の定義 (sn_esg_m2m_disclosure_metric_definition)	測定基準の定義と開示の関連性
関連 URL sn_grc_metric_data_task_url	データタスクの関連ドキュメントおよびリソースをアップロードするために使用されます。
しきい値 sn_grc_metric_threshold	測定基準ターゲットの達成された進捗状況を測定するために使用されるしきい値。このテーブルは sn_grc_metric_metric_threshold の親テーブルです。
測定基準のしきい値 sn_grc_metric_metric_threshold	sn_grc_metric_metric_threshold の親テーブル
開示サマリー (sn_esg_disclosure_summary)	開示に関連付けられた関連情報 (信頼できるソースコンテンツ、測定基準、測定基準データなど) を表示する開示サマリーレポート。毎日のスケジュール設定済みジョブによって更新されます。
開示 (sn_esg_disclosure)	会社の E、S、および G データの開示
関連ドキュメント (sn_esg_disclosure_url)	開示に関連付けられた関連ドキュメントの URL。
目標アクティビティサマリー (sn_esg_goal_activity_summary)	関連情報を要約形式で表示する目標アクティビティサマリーレポート。スケジュール設定済みジョブによって更新されます。
目標サマリー (sn_esg_goal_summary)	関連するサブ目標およびターゲット情報を伴うトップレベルの目標情報
ヒートマップチャートの色 (sn_esg_heatmap_chart_color)	ESG プログラムマネージャーはヒートマップチャートの色を構成可能
ポリシーとコンプライアンス管理 がインストール済みである場合	
目標に向けたコントロール (sn_esg_m2m_control_goal)	目標とコントロールの関連性

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
目標に向けたコントロール目標 (sn_esg_m2m_control_obj_goal)	コントロール目標と目標の関連性
開示に向けた信頼できるソースコンテンツ (sn_esg_m2m_disclosure_citation)	信頼できるソースコンテンツと開示の関連性
目標に向けたポリシー (sn_esg_m2m_policy_goal)	ポリシーと目標の関連性
信頼できるソースコンテンツのためのベース測定基準の定義 (sn_esg_m2m_base_metric_definition_citation)	ベース測定基準の定義と信頼できるソースコンテンツの関連性
ターゲットに向けたベース測定基準の定義 (sn_esg_m2m_base_metric_definition_target)	ベース測定基準の定義とターゲットの関連性
目標に向けたベース測定基準の定義 (sn_esg_m2m_base_metric_definition_goal)	ベース測定基準の定義と目標の関連性
Integrated Risk Management がインストール済みである場合	
目標に対するリスク (sn_esg_m2m_risk_goal)	リスクと目標の関連性
目標に対するリスクステートメント (sn_esg_m2m_risk_statement_goal)	リスクステートメントと目標の関連性
ポリシーとコンプライアンス管理 がインストール済みである場合	
信頼できるソースコンテンツに対する測定基準 (sn_esg_m2m_metric_citation)	測定基準と信頼できるソースコンテンツの関連性

プロパティ

次のプロパティが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

ESG とともにインストールされるプロパティ

名前	説明
glide.ui.sn_esg_disclosure_activity.fields	開示アクティビティフォーマッターフィールド。

ESG とともにインストールされるプロパティ (続く)

名前	説明
glide.ui.sn_esg_material_topic_activity.fields	重要なトピックのアクティビティフォーマターフィールド。

ジョブスケジュール

次のジョブスケジュールがアプリケーションとともに ESG Management インストールされます。

ESG とともにインストールされるジョブスケジュール

名前	説明
ESG 目標サマリーの生成	このジョブは毎日午前 12 時に実行されます。このジョブは、既存のすべての目標サマリーをクリアし、「環境、社会、ガバナンス」として分類されたすべてのアクティブな目標の新しい目標サマリーを作成します。
ESG 開示サマリーを生成	このジョブは毎日午前 12 時に 1 回実行されます。このジョブは、既存のサマリーを削除し、目標、信頼できるソースコンテンツ、測定基準などのすべてのタイプの開示の開示サマリーを作成します。
ESG ライセンス数の計算	このジョブは毎日午後 11:00 に実行されます。ドメイン領域が ESG であるベース測定基準定義のアクティブデータに基づいてライセンスが計算されます。
ESG 目標アクティビティサマリーの生成	このジョブは 12 時間ごとに定期的に行われます。このジョブは、既存の目標アクティビティサマリーを削除し、「環境、社会、ガバナンス」に分類されたすべての目標の新しい目標アクティビティサマリーを作成します。

と一緒にインストールされるロール ゴールフレームワーク

複数のロールが、プラグインの ゴールフレームワーク アクティビ化とともにインストールされます。

インストールされるロール

ロール	説明	ロールを含む
sn_gf.goal_user_read	目標を表示できます。このロールは、プロジェクトユーザーやデマンドユーザーなどのユーザーに付与できます。	なし
sn_gf.goal_user	目標、サブ目標、および関連するターゲットを作成、表示、編集、および削除できます。	sn_gf.goal_user_read

ロール	説明	ロールを含む
	i 注: - 目標やサブ目標は、sn_gf.allow_goal_deletion システムプロパティが [はい] に設定されている場合に、所有者および貢献者のみが削除できます。 - 関連ターゲットは、sn_gf.allow_goal_deletion システムプロパティが [はい] に設定されている場合に、所有者および貢献者のみが削除できます。 - 目標またはターゲットは、目標とターゲットのそれぞれの所有者と貢献者のみが編集できます。	
sn_gf.goal_admin	目標設定を更新できます。	- sn_gf.goal_user_read - sn_gf.goal_user
sn_gf.strategy_planner_read	すべての戦略的計画と戦略値を表示できます。	なし
sn_gf.strategy_planner	戦略的計画と戦略値を作成、表示、編集、および削除できます。 i 注: - 戦略的計画は、戦略的計画の所有者とスポンサーのみが編集できます。 - 戦略値は、戦略計画のスポンサーのみが編集できます。	sn_gf.strategy_planner_read
sn_gf.epmo_strategy_planner	任意の目標を作成、表示、編集、および削除できます。	- sn_gf.goal_user_read - sn_gf.goal_user - sn_gf.goal_admin - sn_gf.strategy_planner

ドメイン分離と ESG Management

ESG Management ではドメイン分離がサポートされています。ドメイン分離では、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、Domain Separation を完全にサポートしています。ドメイン分離には、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに回答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「[アプリケーションでのドメイン分離のサポート](#)」を参照してください。

概要

ドメイン分離は、次のユーザーに役立ちます：

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用します (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持する。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

i 注:

ユーザーは、ドメインの可視性によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

ESG Managementにおけるドメイン分離の仕組み

ESG Managementはデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。ESG Management アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。プロジェクトポートフォリオ管理 および GRC: Metrics との統合により、データを自動的に作成して関連付けることができます。自動および手動で生成されたレコードの場合、レコードのドメインは、レコードの作成または生成を担当するユーザーのドメインと同じです。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

たとえば、次のようなドメインがあるとします。

- グローバル
 - 最高
- 1. ドメイン A
- 2. ドメイン B

ドメイン A および B のユーザーによる評価が必要な ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがある場合は、グローバルレベルで ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットを手動で作成する必要があります。ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがドメイン B で作成

されている場合、インデックス作成のためにそれらをドメイン A で使用することができなくなります。

トップおよびドメイン A のユーザーによる評価が必要な ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットが存在する場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがグローバルドメインにない限り、ユーザーは上位ドメインのリスクまたはコントロールを、下位ドメインのユーザーにアサインしないでください。この例では、トップドメインに ESG の目標が存在する場合に、ドメイン A または B のプログラムマネージャーにその目標をアサインしないでください。これらのユーザーはこの目標へのアクセス権を持っていません。

ドメイン分離テーブル

ドメイン分離テーブルのリストは次のとおりです。

- 開示
- 開示サマリー
- 目標アクティビティサマリー
- ヒートマップチャートの色
- 信頼できるソースコンテンツのための複合測定基準の定義
- 目標に向けた複合測定基準の定義
- ターゲットに向けた複合測定基準の定義
- 目標に向けたコントロール
- 目標に向けたコントロール目標
- 開示に向けた信頼できるソースコンテンツ
- 開示のための測定基準
- 開示のための測定基準の定義
- 目標へのエンティティ
- 信頼できるソースコンテンツの目標
- 開示への目標
- 目標に向けた重要なトピック
- 信頼できるソースコンテンツに対する測定基準
- 信頼できるソースコンテンツのための測定基準の定義
- 目標に向けた測定基準の定義
- ターゲットに向けた測定基準の定義
- 目標への測定基準
- ターゲットに向けた測定基準
- 目標に向けたポリシー
- 目標に対するリスク
- 目標に対するリスクステートメント
- 重要なトピック

これらのテーブルの詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

ユースケース

ESG データは他の部門のデータから分離できます。ESG Management アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。したがって、各部門は独自の目標、ターゲット、重要なトピックなどを持つことができます。ESG ドメインからの目標を調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開して ESG ドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで ESG ドメインに一致する目標のみを表示するかを選択できます。デフォルトでは、ドメイン分離は、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメイン分離を拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

注:

ServiceNow では、予期しない結果が生じる可能性があるため、ドメイン分離プラットフォームテーブル (辞書エントリ [sys_dictionary] テーブルや辞書エントリの上書き [sys_dictionary_override] テーブルなど、sys_ プリフィックスを持つテーブルは推奨されません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメイン分離できます。ドメイン分離での動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

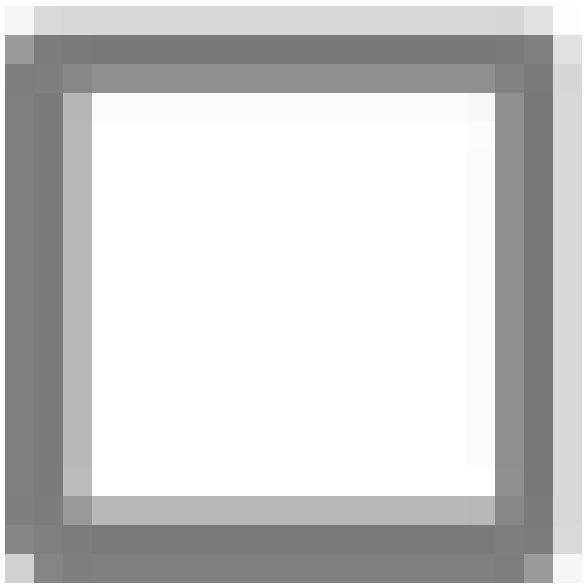
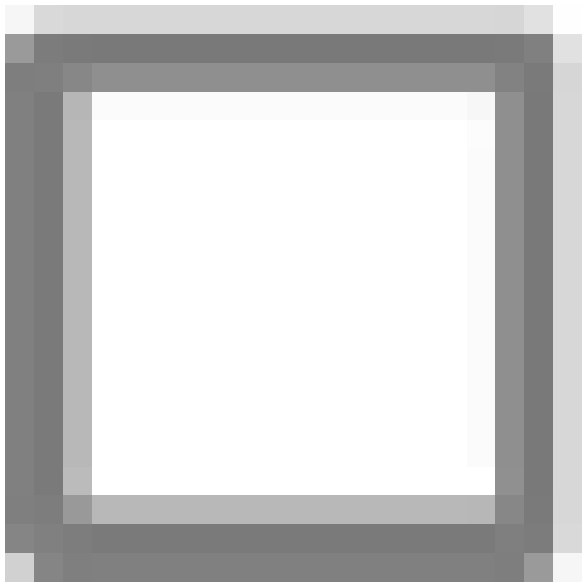
関連情報

[サービスプロバイダーのドメイン分離](#)

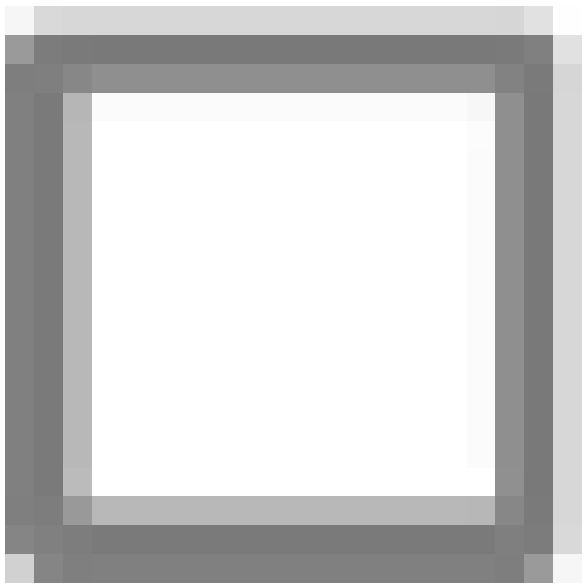
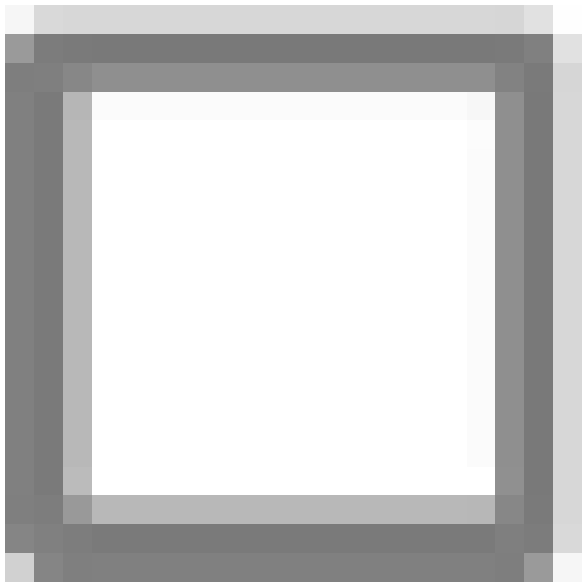
ESG Management アプリケーションのチェックリスト

このチェックリストは、アプリケーションのインスタンス ESG Management を設定する Now Platform ために必要なタスクを完了していることを確認するのに役立ちます。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。

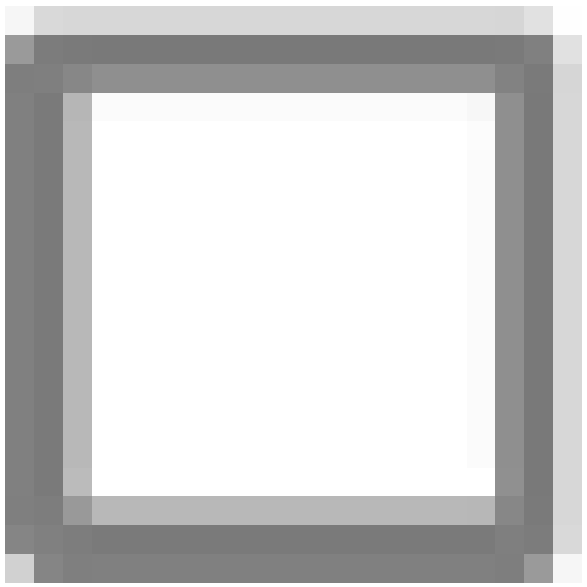
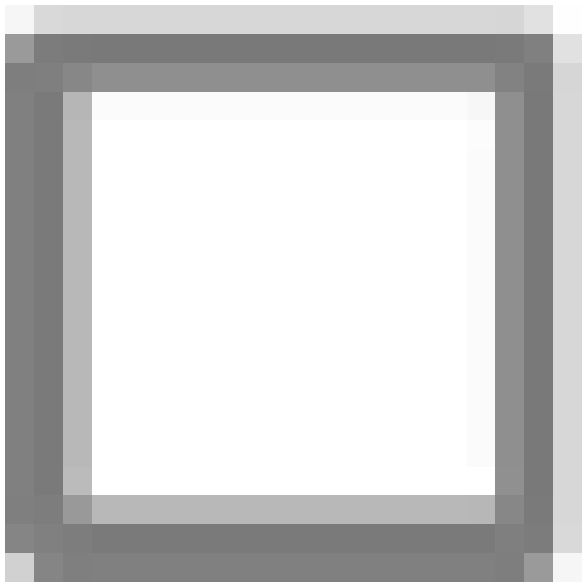
ESG Management アプリケーションのチェックリスト

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、ESG Management アプリケーションをダウンロードしてインストールできます。詳細については、「ESG Management のインストール」を参照してください。
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、次のタスクを実行します。 • 重要なトピックの作成 • 目標の作成 • ターゲットの作成 • 排出アクティビティの作成 • 排出係数の作成

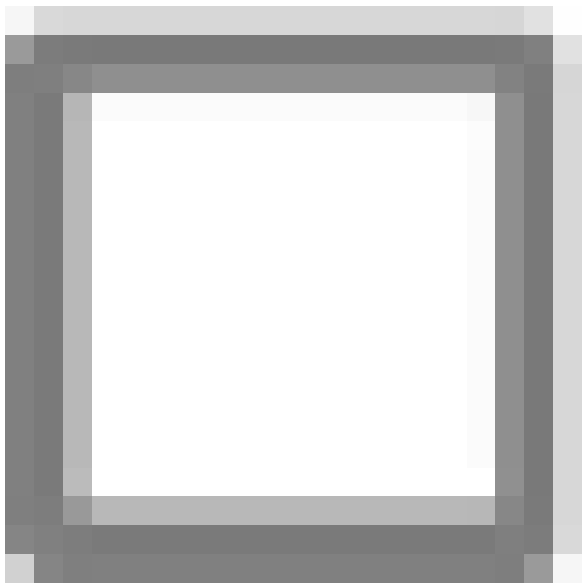
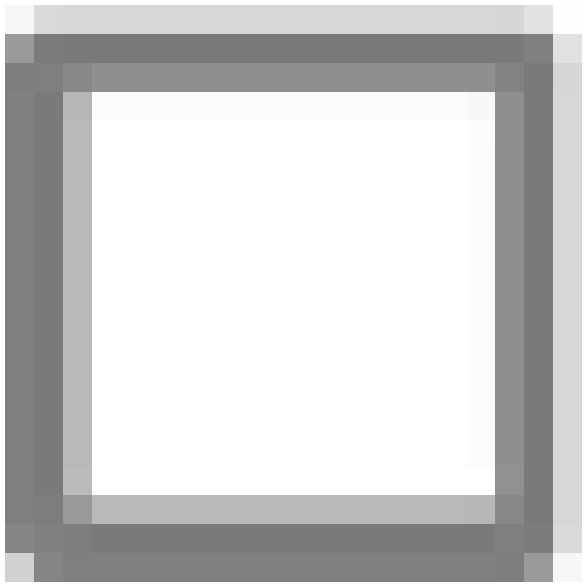
ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、エンティティを管理して次のタスクも実行します。 • エンティティの作成 • エンティティタイプの作成 • エンティティクラスの作成
	sn_esg.metrics_manager ロールを持つユーザーは、さまざまなタイプの測定基準の定義と測定基準を定義します。このユーザーは次のタスクを実行します。 • 自動測定基準の定義の作成 • 手動測定基準の作成 • 複合測定基準の定義の作成 • 測定基準の作成

ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.data_owner ロールを持つユーザーは、手動測定基準データタスクのデータを提供でき、sn_esg.program_manager を持つユーザーは、提供されたデータをオーバーライドできます。詳細については、「測定基準データタスクのデータ入力」を参照してください。
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、必要に応じて、組織に関連する SASB の信頼できるソースコンテンツをインポートできます。詳細については、「SASB の信頼できるソースコンテンツのインポート」を参照してください。

ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.reporting_disclosure_manager、sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、開示を作成できます。開示により、投資家は、企業、リスク体制、持続可能性標準、および ESG Management コンプライアンスについて、情報に基づいた意思決定を行うことができますようになります。
	ESG Management のインストール アプリケーションのユーザーは、必要に応じて、プロジェクトポートフォリオ管理 や Integrated Risk Management などの他のアプリケーションと統合することができます。これらの統合により、より多くの機能が得られます。詳細については、「他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携」を参照してください。